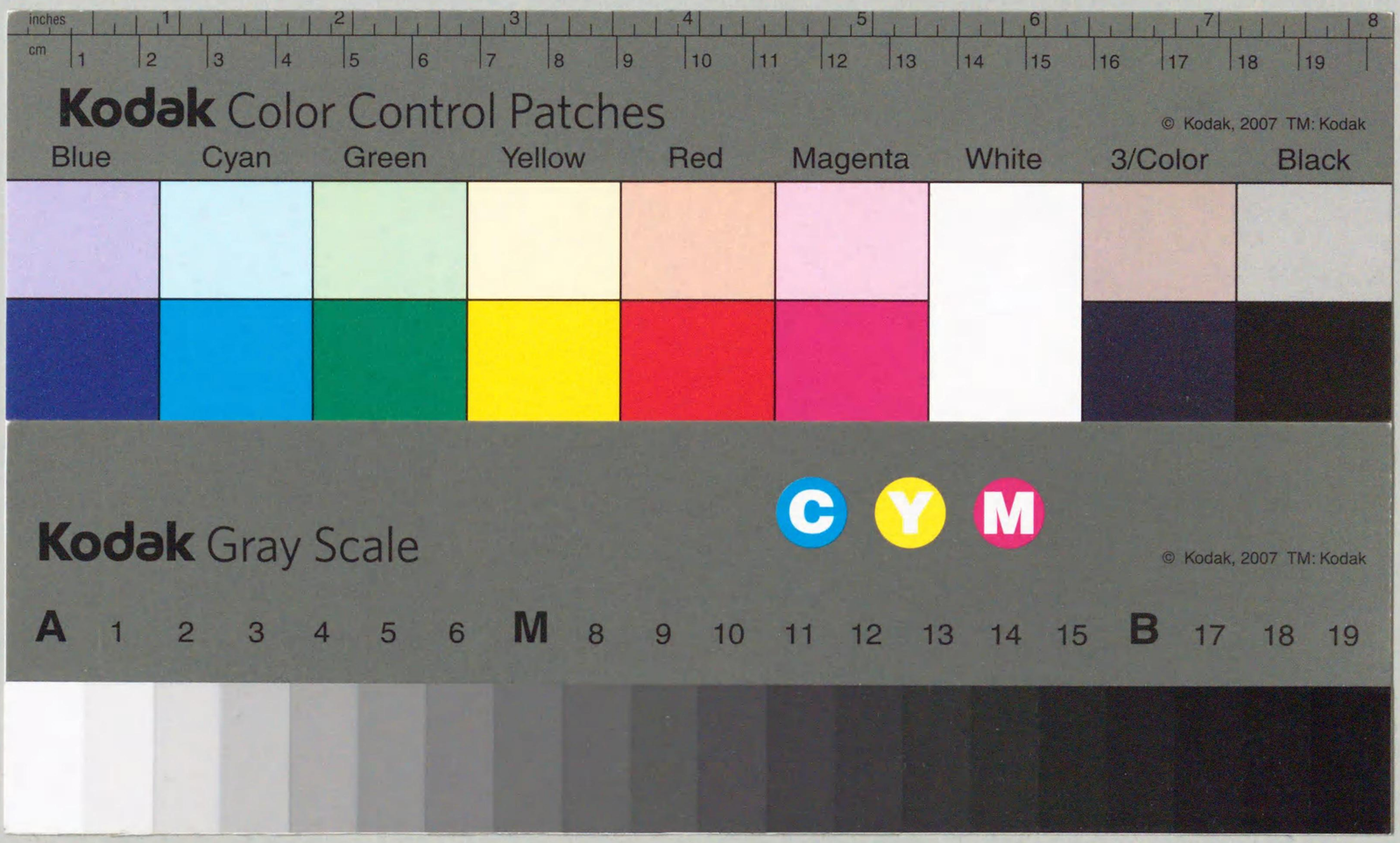


AK2
311
9
82W30506
0 複写

シセL18

朝鮮警察之概要

大正十四年

朝鮮總督府警務局

貴族院
函
号
冊

AK2
311
9

貴族院
函
号
冊

57.6.-8

國會圖書館
45.6.29
圖書館藏書
消

832480
82W30506

朝鮮警察の概要目次

一　朝鮮警察の概觀……一頁
(イ)　朝鮮と内地との面積及距離對比表
(ロ)　同　上　氣象の比較
(ハ)　同　上　主要都市人口比較
(ニ)　朝鮮と各地との警察官定員面積戸數比較表
二　朝鮮警察制度の沿革大要……五
警察創始時代、警察權の委託、憲兵制度の撤廢、警察事務の引繼、現在
(イ)　大正八年制度改正前及行政整理前後に於ける警察職員の定員比較表
(ロ)　同　上　警察官署比較表
(ハ)　舊韓國政府、總督府新設當時及現在に於ける警察機關の比較
三　警察機關……一四
朝鮮警察機關一覽表
(イ)　官署系統調

(ロ) 本府及地方官々制抄錄
(ハ) 朝鮮總督府事務分掌規程抄錄
(ニ) 朝鮮總督府道事務分掌規程抄錄
(ホ) 朝鮮總督府委任事項規程抄錄
(ヘ) 朝鮮總督府所屬官署委任事項規程抄錄……二四

四 警察管轄……

(イ) 警察管轄區域表
管轄の概要、巡査の負擔
(ロ) 警察署管轄面積及人口表
(ハ) 駐在所、派出所、出張所行政整理前後調表
(ニ) 警部補巡査定員一人當の負擔面積人口表
(ホ) 巡査一人當負擔面積人口文書及犯罪件數負擔表……三六

五 文書及圖書……

(イ) 警察文書件數表……三八

六 法令……四〇

七 警察職員……

(イ) 職員數、進退、死傷、勤續年數、年齡別、本籍別
(ロ) 警務局職員定員表
(ハ) 警察職員定員表
(ニ) 巡査勤務別定員表
(ホ) 警察官吏進退及死亡者表
(ヘ) 警察上死傷せし人員表
(ト) 警察官吏勤續年數表
(チ) 警察官吏年齡別表
(リ) 警察職員本籍別表
朝鮮在勤警察官吏軍籍調查表……五九

八 服務狀態……

服務、紀律、巡査の勤怠、警察賞與、其の他の恩賞、精勤者、援助事務

検事事務、民事爭訟調停、執達吏事務
(イ) 警察上褒賞表
(ロ) 精勤證書授與者調
道巡査懲罰表
(ハ) 道巡査懲罰事由表
(ニ) 休暇及缺勤調表
(ホ) 民事爭訟調停累年比較表
(ヘ) 執達吏事務取扱件數累年比較表
(ト)
九 警察官の教養……八〇
教養方法、鮮語の修習督勵、教養機關、素養程度、巡査募集
(イ) 巡査教育程度表
(ロ) 警察官吏語學能率調査表
一〇 給與……八七
俸給、手當、旅費、宿舍料、被服の給貸與

(イ) 警察官吏俸給別表
(ロ) 巡査現員現給表
一一 生活狀態……九五
(イ) 巡査生活狀態調表
(ロ) 巡査家族調表
一二 警察費……一〇三
(イ) 警察豫算累年表
(ロ) 大正十四年度地方警察豫算
一三 警備船警備電話……一〇六
電話架設箇所調表
一四 治安狀況……一〇八
騷擾事件、獨立運動の近因、現況
一五 國境警備……一一三
國境の地勢、匪賊の狀況、配置狀況、警備施設、勤務狀況

(イ) 國境三道警察官署調
(ロ) 國境三道警察職員定員表
(ハ) 國境三道匪賊狀況表
(ニ) 國境警察機關一覽表
(ホ) 國境警察官に對する給與の狀況
(ヘ) 國境に於ける巡査假定員增減經過表

一六 保安警察の狀況……一二八

(イ) 勞働爭議、小作爭議、銃砲火藥類の取締、交通取締、火災消防、私娼取締、
(ロ) 代書業者取締、建築物取締、變死及棄兒、警察上救護、煙火引火質物貯藏
所及其の他危險物取締、狩獵取締、古墳遺物の保存に關する取締、古物商
取締、質屋取締、汽罐汽機發動機取締、宿屋取締、料理屋、飮食店、藝妓
酌婦藝妓置屋、貸座敷、娼妓取締
(イ) 同盟罷業調
(ロ) 同盟罷業々別調
(ハ) 同盟罷業原因別調
(ニ) 官營事業に支那人使用延人員數
(ホ) 支那人勞働者數調
(ヘ) 小作爭議各道別件數人員調
(ト) 小作爭議原因調
(チ) 小作爭議結果調
(リ) 銃砲輸移出入比較增減表
(ヌ) 火藥類輸移出入比較增減表
(ル) 爆發物漁業檢擧件數表
(ヲ) 火藥類貯藏所比較增減表
(ワ) 各道別乘合自動車營業調
(カ) 自動車事故調查表
(ヨ) 自動車事故累年表
(タ) 火災表
(レ) 消防組織一覽表

(ソ) 自大正九年至大正十三年火災表
(ツ) 諸興行調
一七 朝鮮人勞働者の內地及外國出稼狀況……一六六
一般狀況、取締の狀況、需要の傾向
(イ) 內地在住朝鮮人職業別人員
(ロ) 朝鮮人勞働者募集許可及渡航表
一八 犯罪狀況……一七七
犯罪件數、犯罪種別、外國人の犯罪、檢擧歩合、犯罪即決
(イ) 犯罪發生及檢擧表
(ロ) 同 上 月別表
(ハ) 犯罪即決人員表
(ニ) 犯罪即決數比較表
(ホ) 外國人犯罪調
(ヘ) 指紋對照前科發見表

一九 衞生狀態……一八八
總說、保健衞生、醫療機關、傳染病及地方病、獸畜衞生
二〇 警察施設……一九七
警察官援助團體調、各道警察施設事項表
二一 在外朝鮮人の狀況……二〇五
併合以後外國移住鮮人累年比較表
二二 警察協會……二〇九
二三 警察挿話……二一六
勇猛果敢なる巡査、巡査私財を投して細民の子弟を教養す、警部補率先して窮民を救ふ、國境警察官の美擧、私費を投して兒童の教育に熱中す、警察官貧民を救濟す、警察官の無料施藥

滿

朝鮮警察配置圖

朝鮮總督府警務局

朝鮮警察配置圖

朝鮮總督府警務局

京城昌德宮警察署
京城本町警察署
京城鍾路警察署
京城東大門警察署
比例尺三百萬分之一
凡例
鐵道
河道
國道
警察道
朝鮮
京城
江原道
京畿道
忠清南道
忠清北道
全羅北道
全羅南道
慶尚北道
慶尚南道
黃海道
平安南道
平安北道
咸鏡南道
咸鏡北道
島陵鬱島

京城昌德宮警察署
京城本　町警察署
京城鍾　路警察署
京城東大門警察署
京城西大門警察署

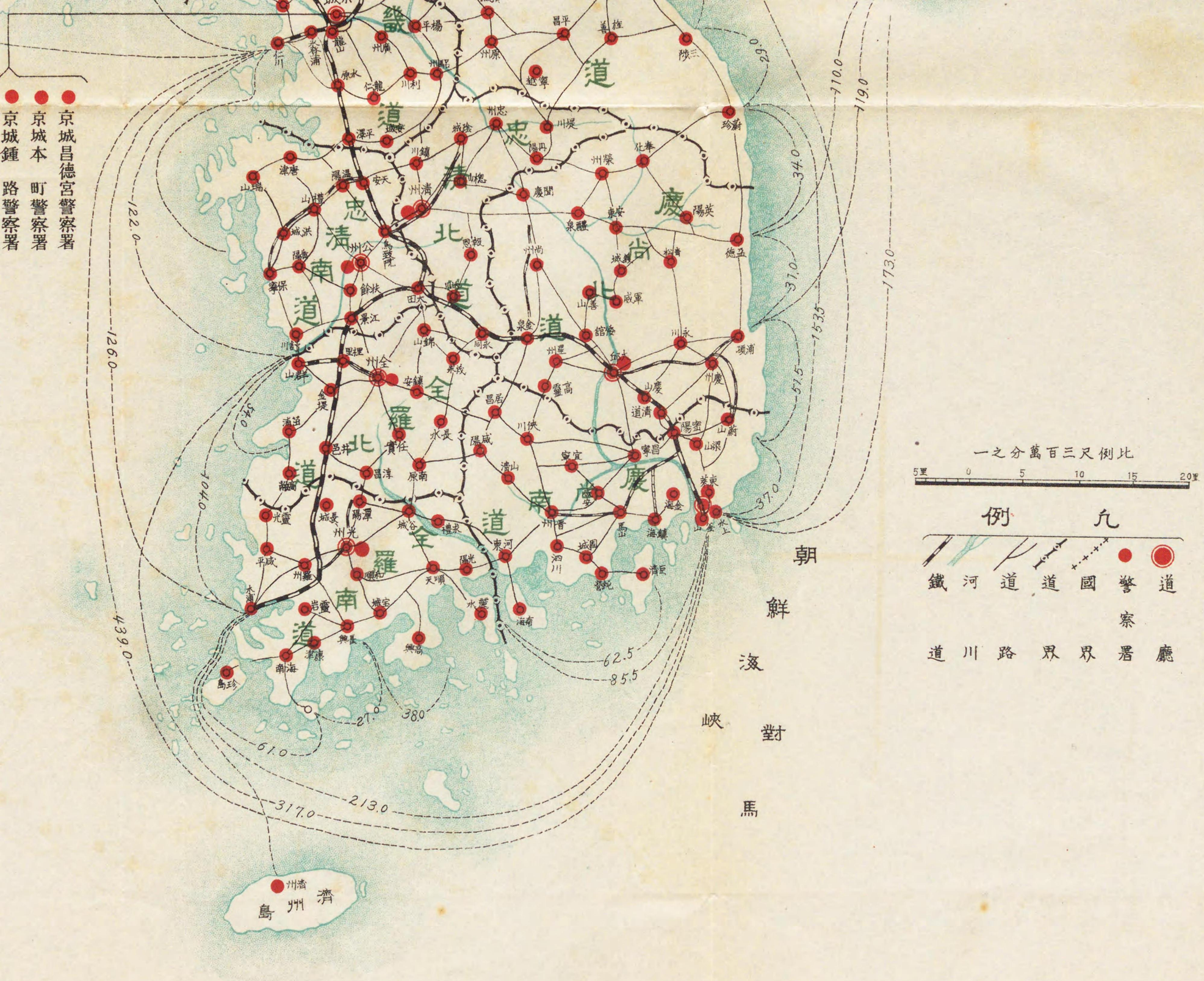
比例尺三百萬分之一

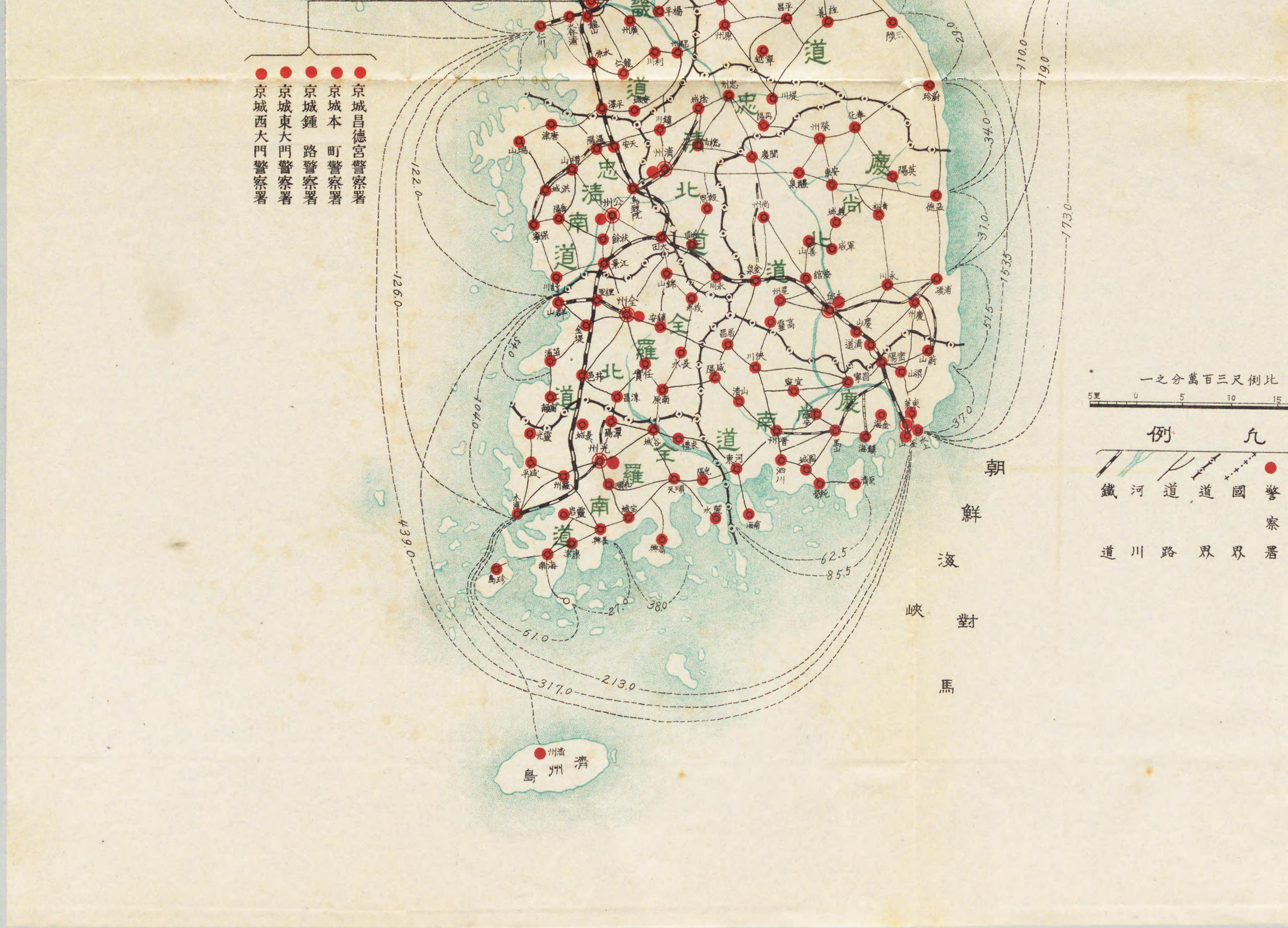
5里 0 5 10 15

例凡

鐵道　河道　國道　警察

朝鮮

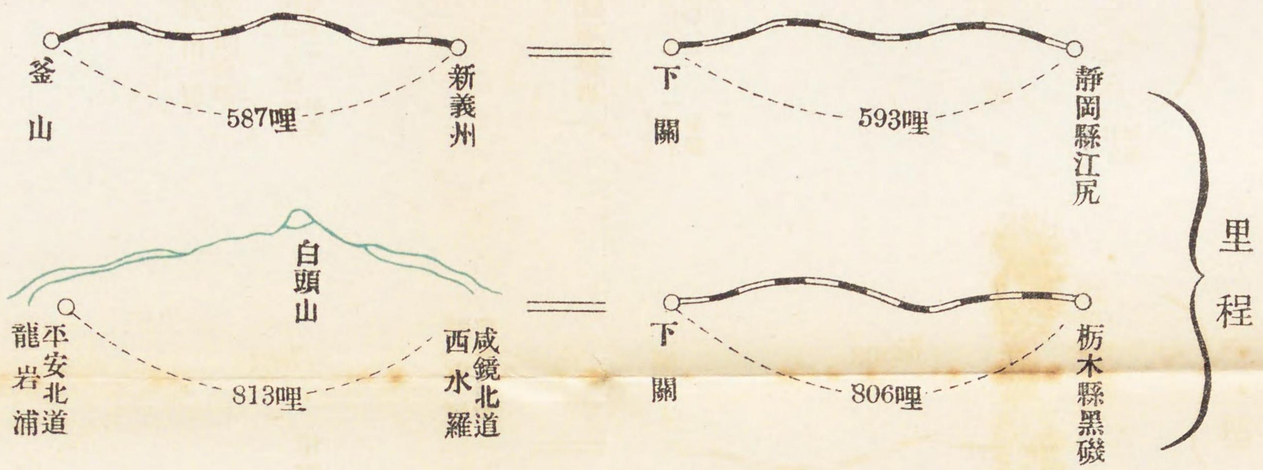

京城昌德宮警察署
京城本町警察署
京城鍾路警察署
比例尺三百萬分之一
5里 0 5 10 15 20里
凡例
道廳
警察署
國界
道界
道路
河川
鐵道
朝鮮
海峽
對馬
濟州島
濟州

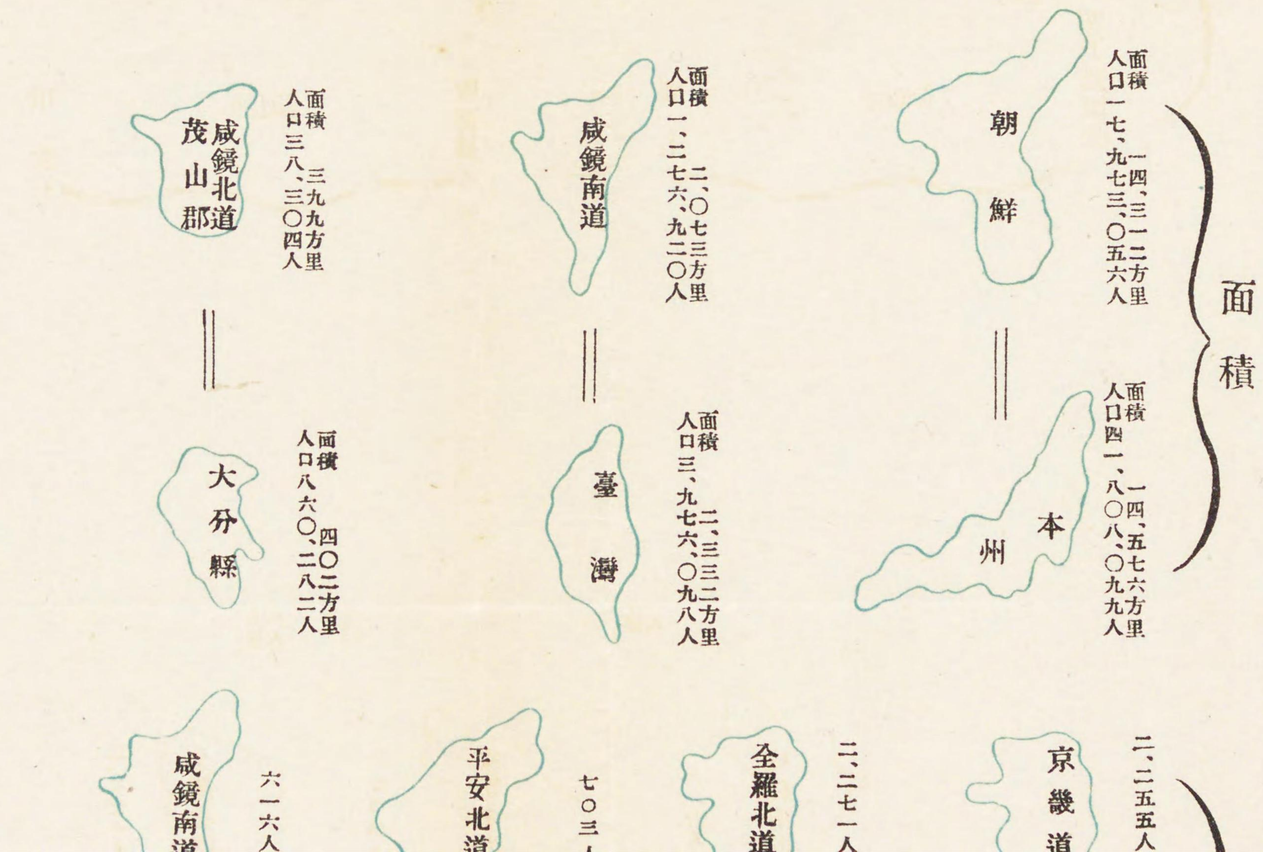

京城昌德宮警察署
京城本町警察署
京城鍾路警察署
京城東大門警察署
京城西大門警察署
比例尺三百萬分之一
凡例
警察署
國界
道界
道路
河川
鐵道
朝鮮
海峽
對馬
濟州島
濟州

1600人
1500人
1400人
1300人
1200人
1100人
1000人
900人
800人
700人
600人
500人
400人
300人
200人
100人

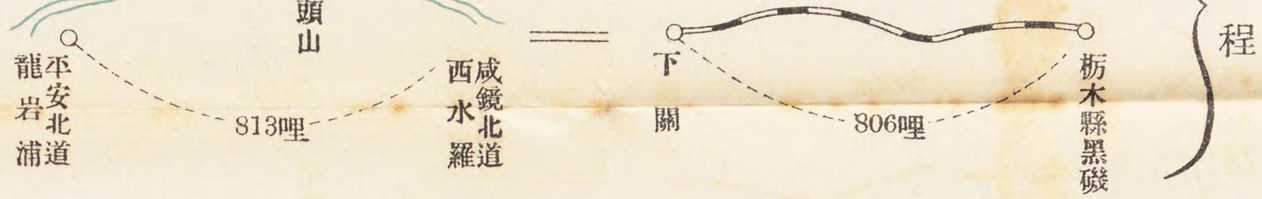
朝鮮は十三年
其の他は十二年

朝鮮の里程面積人口密度對比表

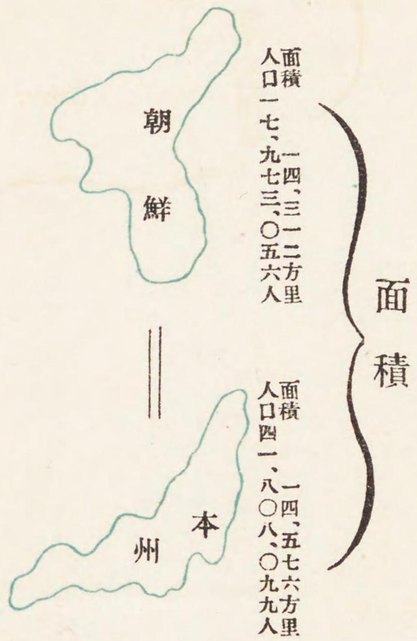


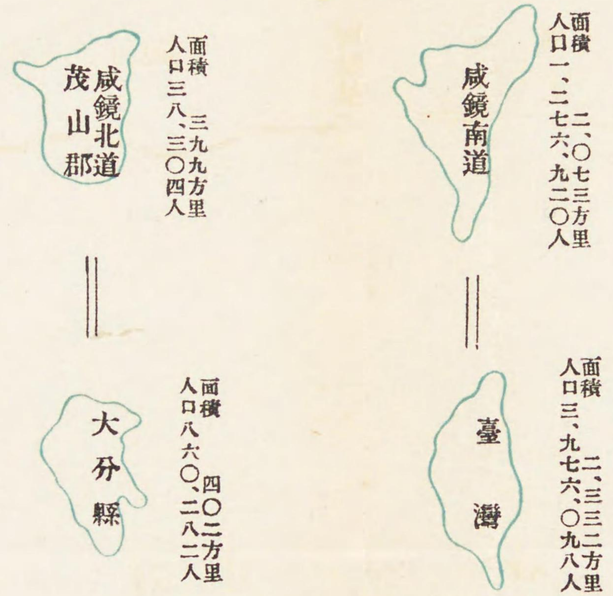


面積人口密度對比表

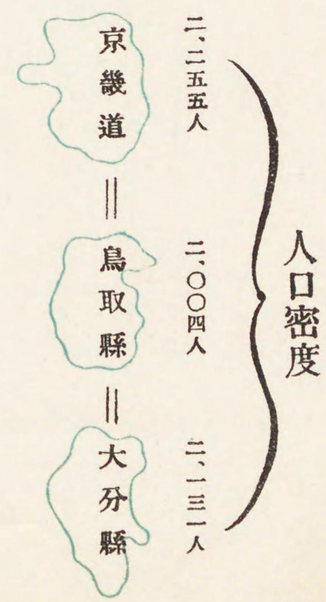


面積

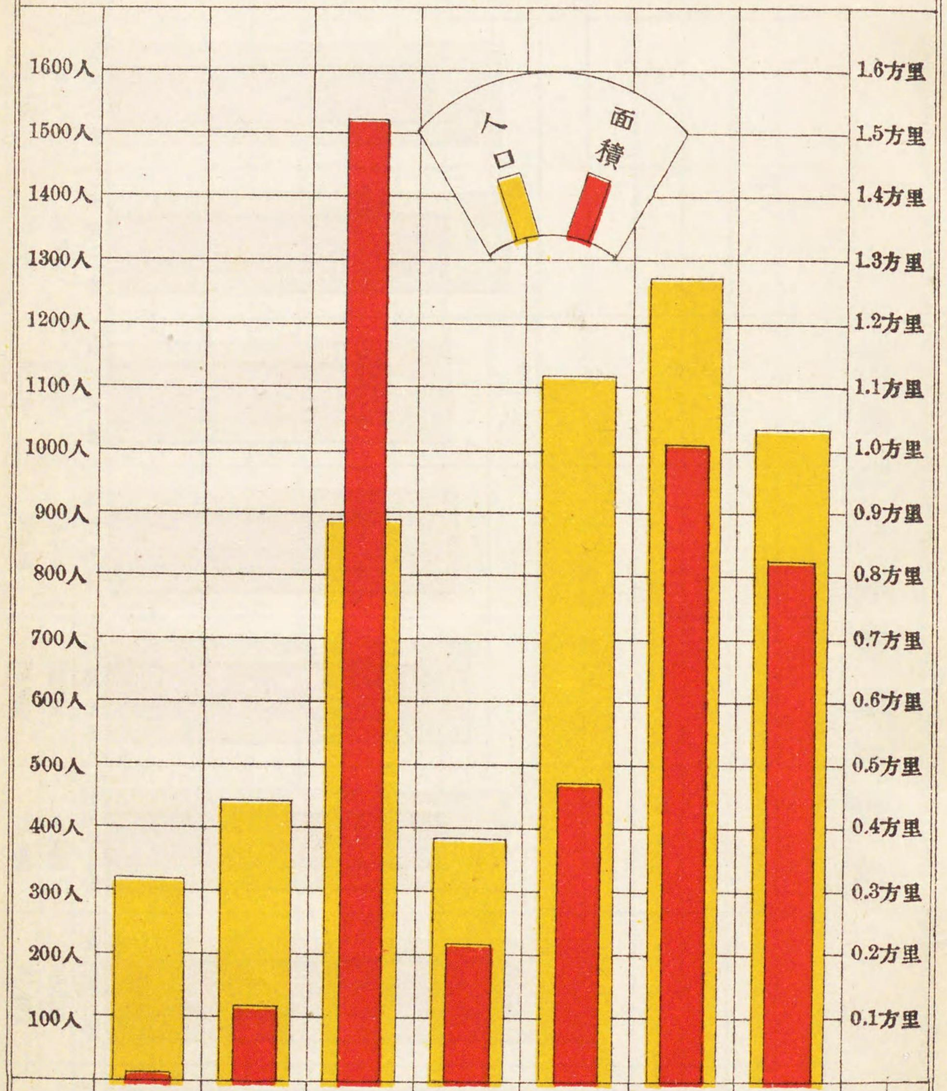




人口密度

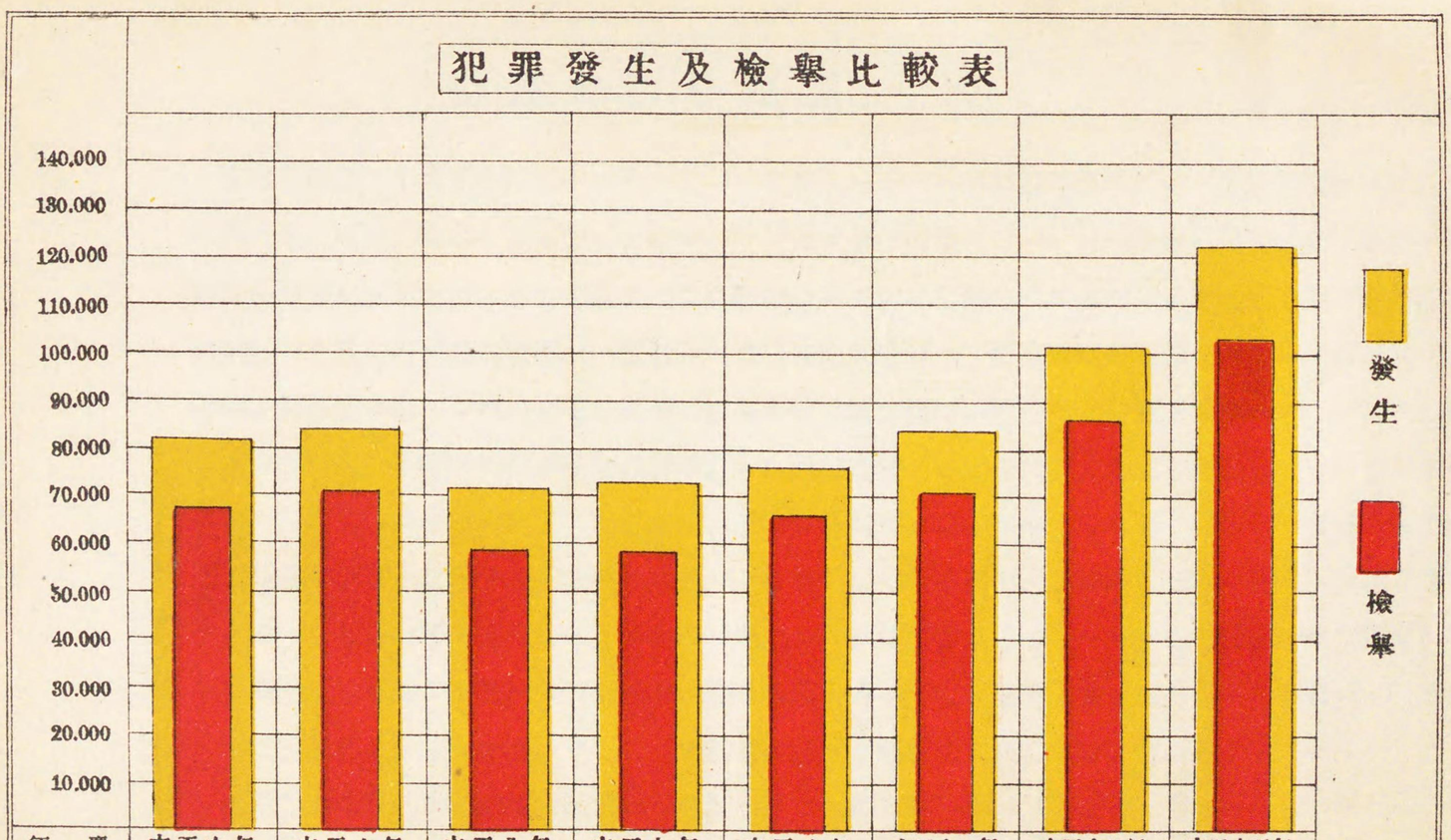


較比口人積面擔負り當人一査巡



負擔	地名	面積 人口	朝鮮は 十三年 其の他は 十二年
同上警察制度改正前	朝鮮	面積 〇、八二 人口 一、〇四〇	警視廳 面積 〇、〇一 人口 三〇九
	内地	面積 〇、四六 人口 一、一〇五	關東州 面積 〇、一二 人口 四二三
	臺灣	面積 〇、二二 人口 三八六	咸南 面積 一、五二 人口 八八二
	咸南	面積 一、五二 人口 八八二	臺灣 面積 〇、二二 人口 三八六
	關東州	面積 〇、一二 人口 四二三	内地 面積 〇、四六 人口 一、一〇五
	警視廳	面積 〇、〇一 人口 三〇九	同上警察制度改正前 面積 一、〇八 人口 一、二九五

犯罪發生及檢擧比較表



年度	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年
發生	80.294	84.583	72.109	74.072	75.884	83.524	100.603	120.106
檢擧	67.427	70.346	59.189	59.514	66.640	71.440	87.491	104.786

一　朝鮮警察の概觀

朝鮮の面積は一萬四千三百十二方里にして內地の本州より滋賀縣を除きたると略相同じきも人口は內地本州の四千三百九十四萬餘人に對し一千七百九十七萬餘人にして約五分の二に過ぎず、然れども朝鮮を南北に大別するときは北鮮は人口稀薄なるも南鮮は內地の人口密度と相異ならず、全羅南道は大分縣より忠淸北道は宮城縣より何れも人口の密度濃厚なり、地勢は高山峻嶺の著しきものに乏しきも其の起伏頗る烈しく到る處山岳重疊し民家は其の間に點在し隣邑互に十數里を隔つること敢て珍らしからず、從つて尙未だ交通不便の域を脫せず殊に降雪出水等の爲交通杜絕の狀態たること少からざるなり、然れとも鐵道は釜山、新義州間を連ねる半島縱貫の一線を其の幹線とし之より馬山、木浦群山、咸興、鎭南浦に達する支線及び淸津より會寧、朱乙、平壤より勝湖里に達する線ありて其の延長一千百七十七哩に達し輕便鐵道も亦各地に敷設せられ其の延長二百七十七哩以上に達し殊に南鮮に於ては殆んど各郡邑を連絡する定期連轉の乘合自動車あり北鮮と雖樞要地には自動車の交通あり、道路の改修と相俟つて益々發展しつゝありて僻地を除き一般地方の旅行には不便なきに至れり。

氣候は大陸の影響を受けて同緯度の內地よりは寒氣に於て酷し又京城を中心とし以南と以北とは寒暑に著しき相違あり。

面積の廣大あると交通の不便氣候の不順なるに加へて陸接國境竝に人情風俗の著しき相違は警察實務の遂行及施設に於て容易ならざるなり。

行政區劃は十三道を置き之を十二府二百十九郡二島、二千五百一面に分つ、各區劃の面積は一般に廣く咸鏡南道の如きは二千七十三方里にして略ぼ內地の關東地方即ち一府六縣又は臺灣の面積に匹敵し面に於ても咸鏡北道茂山郡三社面の如き百四十六方里の面積を有し神奈川縣に略同じ。

警察制度は總督府に警務局を置き局長以下事務官、通譯官、屬通譯生等を配置し警察及衞生事務を分掌し、地方に在りては道知事警察及衞生の事務を司り道に警察部を置き警察部長は道事務官を以て之に充て警視、港務官、港務醫官、獸醫官、警部、港務醫官補、獸醫官補、技手、通譯生、警部補、巡査等を配置し以て警察及衞生事務を分掌せしめ、各府郡島には警察署を其の下に駐在所、派出所、出張所を設置し、所要の警察官吏を配置せるが重要なる駐在所には特に警部補を配置し輕易なる事件は警察署若は署長の名に於て處理せしめ以て治安維持及保護を徹底を圖れり。

警察官は各道の面積人口及地形民情等を考査し定員配置を定め、京畿道及國境方面の各道は他の道と事情を異にするものあり特に多數を配置せり。

大正八年三月以來世界思潮の混亂と相俟て鮮內各地に騷擾を惹起し荏苒二箇年に亘り不逞計劃暗殺暴行等を逞ふしたるも、已に警務制度刷新の初程を過ぎ警備力充實し漸次整備の域に達し威容亦備り着々として鎭撫の効を奏し匪賊の首魁陸續として摘發せられ不逞事件の多くは其の未發に發覺せられ被害著しく減少し諸般の物情緩和し民心新政に賴らむとするの念益々加り何れも生業に勵みつゝありて曾て治安維持に全力を傾注し殆んど他を顧るの遑なかりし警察事務も其の方針を變じて着々新規に計劃施設し時世の進運と實情とに伴はしむべく之か完備を期しつゝあり。

朝鮮と內地との面積及距離對比表

	朝鮮全道	面積	人口	內地	本州	關東區	九州	臺灣	樺太
面積	一四、三二二方里	一四、五七一方里	四一、八〇八、〇九九人	二、〇七八方里	二、〇六九方里	六、七四二、九三八人	二、三三二方里	三、九七六、〇九八人	二、三四〇方里
面積	一七、九七三、〇五六人	二、〇七三方里	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人	一、二七六、九二〇人

朝鮮全道	面積	人口	內地	本州	關東區	九州	臺灣	樺太
面積	一四、三二二方里	一七、九七三、〇五六人	一四、五七一方里	四一、八〇八、〇九九人	二、〇七八方里	二、〇六九方里	二、三三二方里	二、三四〇方里
面積	二、〇七三方里	一、二七六、九二〇人	二、〇七八方里	一一、一二七、九九五人	六、七四二、九三八人	三、九七六、〇九八人	一四〇、三六一人	一四〇、三六一人

（道の最大なるもの）

積			巨	離
忠清北道（道の最小なるもの）	面積	四八二方里	釜山新義州間	朝鮮海岸線
	人口	七七四、八三五人		
咸鏡北道茂山郡（郡の最大なるもの）	面積	三九九方里	豆満江	
	人口	三八、三〇四人	鴨緑江	三三哩 四九一哩
忠清南道燕岐郡（郡の最小なるもの）	面積	三方里		
	人口	五五、〇六八人		
咸鏡北道茂山郡三社面（面の最大なるもの）	面積	一四六方里		
	人口	三、三二九人		
忠清北道清州郡清州面（面の最小なるもの）	面積	〇、〇五方里		
	人口	二一、七八七人		

地域別	測候所	氣温（△印は氷點以下） 最高極	氣温 最低極	濕度（平均）	風 最大速度	天氣日數 快晴日	曇天日	降水日	暴風日
		度	度	%	米秒				
北清	宮崎縣	三九・〇	△一四・〇	六七	二五・八	八四	一三八	一〇八	一三〇
群馬縣		三九・〇	△一八・六	六七	二〇・一	八二	一三四	一〇七	七三
大分縣		三六・一	△一四・二	七七	二九・三	五一	一五五	一四四	一九〇
福島縣石井郡									
岡山縣勝田郡									
神奈川縣									
沖繩縣									
東京市									
下ノ關江尻（靜岡縣）間									
下ノ關黒磯（栃木縣）間									
横濱桑港間									
横濱布哇間									

氣象の比較

地域別	測候所	氣温 最高極	氣温 最低極	濕度	風 最大速度	天氣日數 快晴日	曇天日	降水日	暴風日
		度	度	%	米秒				
朝鮮	釜山	三五・〇	△一四・〇	六七	二五・八	八四	一三八	一〇八	一三〇
	大邱	三九・〇	△一八・六	六七	二〇・一	八二	一三四	一〇七	七三
	木浦	三六・一	△一四・二	七七	二九・三	五一	一五五	一四四	一九〇
太亞	敦賀	三三・五	△三九・一	八一	二五・三	四四	一三五	一三一	一一八
	安別	—	—	七七	二五・八	四二	一五八	一八〇	一二六
	港	—	—	七四	三二・六	四七	一二九	一七〇	一九一

氣象の比較

地域別	測候所	氣溫(△印は氷點以下) 最高極(度)	氣溫 最低極(度)	濕度(平均)%	風 最大速度(米秒)	天氣日數 快晴日	天氣日數 曇天日	天氣日數 降水日	天氣日數 暴風日
朝鮮	釜山	三五・〇	△一四・〇	六七	二五・八	八四	一二八	一〇八	一三〇
	大邱	三九・〇	△一八・六	六七	二〇・一	八二	一三四	一〇七	七三
	木浦	三六・一	△一四・二	七七	二九・三	五一	一五五	一四四	一九〇
	全州	三六・一	—	七五	一七・〇	五〇	一三五	一三一	三〇
	仁川	—	△二〇・九	七四	二七・二	七八	一一七	一三四	一四四
	京城	三七・五	△二三・三	六九	一三・六	七八	一三〇	一二八	一四
	平壤	三六・四	△二八・五	七二	一七・九	六八	一一三	一一三	一二
	江陵	三七・三	△二〇・二	六七	二三・三	八五	一三八	一二〇	一三四
	元山	三九・六	△二一・九	六四	一九・〇	九八	一二四	一一一	九九
	城津	三七・五	△二四・六	七一	二七・九	八四	一〇八	九五	一六六
	雄基	三六・四	△三三・六	六五	四四・〇	七五	一三八	一一四	二四七
	中江鎭	三六・七	△四一・一	七二	一六・四	七〇	一三三	一五八	三四
	龍岩浦	三五・〇	△二六・七	七六	二三・〇	九二	九五	一〇九	七八
臺灣	恒春	三四・五	一〇・一	七八	二八・一	五一	一一三	一五四	一四〇
	臺東	三九・〇	七・四	七九	一七・五	一五	一七六	一五〇	七二
	臺南	三六・九	二・四	七九	一六・九	八二	八八	八一	七三
	澎湖島	三三・五	七・三	八〇	二九・二	五四	一五三	七五	二三五
	花蓮港	—	—	七八	一四・〇	一五	二〇八	一八〇	三〇
	臺中	三七・二	一・〇	七九	一一・五	六九	一〇二	九五	七
	臺北	三七・五	△〇・二	八〇	二一・七	三七	一六〇	一五二	一〇五
樺太	大泊	二八・五	△三三・七	八一	二六・三	三四	一三五	一七六	一九三
	本斗	—	—	七八	二九・七	三三	二〇三	一九八	二〇九
	眞岡	三〇・一	△三三・〇	七六	三〇・八	二〇	一八〇	二〇一	二三五
	落合	三三・七	△四〇・〇	七八	二四・八	二四	一三七	一九九	一六三
	敷香	三三・五	△三九・一	八一	二五・三	四四	一三五	一三一	一一八
	安別	—	—	七七	二五・八	四二	一五八	一八〇	一一六
	亞港	—	—	七四	三二・六	四七	一二九	一七〇	一九一
關東洲	大連	三五・七	△一九・三	六八	二五・八	一一二	九〇	七五	二四六
	旅順	三五・四	△一九・三	六九	二八・七	一一三	八三	八四	一五八
	營口	三六・九	△三一・〇	六四	二三・四	一一七	五四	九七	一四〇
	奉天	三九・三	△三三・九	六一	二〇・七	一一七	七七	一〇七	四六
	長春	三八・三	△三六・〇	七〇	二〇・二	一〇一	七七	一三五	八四
	青島	三五・四	△一五・四	七三	三三・四	九一	一三七	八一	二四一
	漢口	三九・八	△七・五	七二	一〇・四	六六	一三七	一一六	一四
南洋群島	サイパン	三三・八	二一・七	—	—	—	—	二五二	—
	パラオ	三三・三	二一・七	—	—	—	—	二六三	—
	ヤップ	三一・六	二三・九	—	—	—	—	一九二	—
	トラック	三五・六	二三・三	—	—	—	—	二五四	—
	ポナペ	三六・六	二二・一	—	—	—	—	二六七	—
	ヤルート	三一・二	二三・三	—	—	—	—	二一五	—
內地	那覇	三五・五	△四・九	七八	五一・一	四三	一四三	一九五	二一五
	熊本	三八・三	△九・二	七七	二四・三	七三	一五〇	一六四	七六
	廣島	三七・八	△八・六	七六	二七・一	三二	一五三	一五五	一六三
	大阪	三七・六	△七・一	七二	二九・三	二五	一五〇	一六七	一三四
	東京	三六・六	△八・二	七六	二五・五	三七	一八二	一七〇	九五
	水澤	三五・〇	△二〇・五	八二	一七・二	一五	一九五	二〇〇	四四
	札幌	三三・四	△二五・六	七七	四五・八	一三	二四八	二	三九

主要都市人口比較表

四ノ二

朝鮮		內地		臺灣		樺太		關東州		滿鐵附屬地		南洋群島	
都市名	人口	都市名	人口	都市名	人口	都市名	人口	都市名	人口	都市名	人口	都市名	人口
京城	二八八、二六〇	横濱	四三一、九四二	臺北	一八六、七六八	大泊	一六、二五九	旅順	二一、六七〇	營口	△四、一八四	サイパン	五、二三九
仁川	四〇、九三二	釧路	三九、三九二	基隆	五六、二五八	豊原	一六、一三	大連	一四五、六八四	瓦房店	八八二 九、五三五	パラオ	五、三三

明治三十七年帝國政府より推薦せる警察顧問により刷新改善を圖り漸く其の體を爲すに至りたるを

主要都市人口比較表

都市名	人口
朝鮮	
京城	三一二、六二五
仁川	六六、三六〇
釜山	二九、九三二
大邱	三一、三三五
平壌	二九、九八四
鎮南浦	二八、三五三
新義州	二八、六三五
元山	一九、九四三
清津	一八、三五四
咸興	一八、〇九三
羅津	四、三四七
鏡城	三、一六五
内地	
東京	二、一七四、〇三二
大阪	一、二五二、〇〇〇
横浜	四二五、二〇〇
名古屋	四二四、〇〇〇
神戸	三九〇、〇〇〇
京都	三七九、〇〇〇
長崎	一六〇、〇〇〇
函館	一〇五、〇〇〇
小樽	一〇四、〇〇〇
佐世保	一〇一、〇〇〇
舞鶴	八五、〇〇〇
呉	八四、〇〇〇
横須賀	七八、〇〇〇
台湾	
台北	一五六、七六六
基隆	三九、三五二
淡水	一四、四八〇
陸運	一三、三五九
新竹	一二、〇九四
蘭嶼	一、一六七
台中	五六、二三五
彰化	一九、〇九四
南投	一一、三〇〇
嘉義	四三、三九七
雲林	一六、三五二
斗六	一二、〇三五
台南	六三、四九七
安平	一一、三五九
鳳山	一一、三五三
屏東	一〇、三五五
恒春	三、一六五
澎湖島	一八、四七七
樺太	
大泊	一六、三五九
豊原	一二、〇三五
真岡	五、三四〇
野田	五、七五六
泊居	三、四七二
岡本	二、一四〇
関東州	
大連	三四、六四〇
旅順	三一、六七〇
金州	一四、六四〇
満鉄附属地	
撫順	三一、六七〇
奉天	一八、三五五
鞍山	九、五三五
瓦房店	四、六二四
営口	一一、三五三
公主嶺	一一、三五三
四平街	一一、三五九
長春	二七、六四九
鉄嶺	二七、〇二六
開原	二七、三五五
遼陽	二七、〇二六
本渓湖	二五、二七五
安東	二五、〇四九
撫順炭	二四、三五五
南満鉄附属地	
大連	一七、六六六
奉天	一七、五五九
撫順	一七、四三三
鞍山	一七、〇〇〇
遼陽	一六、九四四
瓦房店	一六、九四四
営口	一六、九四四
公主嶺	一六、九四四
四平街	一六、九四四
長春	一六、九四四
鉄嶺	一六、九四四
開原	一六、九四四
本渓湖	一六、九四四
安東	一六、九四四
撫順炭	一六、九四四
南洋群島	
ヤップ	五、三九
パラオ	五、三三
サイパン	四、六二四
ヤルート	三、五二四
トラック	三、五二四
ポナペ	三、五二四
ルオット	三、五二四
ヤルート	三、五二四
ナウル	三、五二四
ペリリュー	三、五二四
コロール	三、五二四
アンガウル	三、五二四
満鉄附属地欄中△印は領事館管轄地内の人口にして外書とす	

朝鮮と各地の定員面積戸數等の比較

區別 / 地方別	定員 警視	定員 警部	定員 警部補	定員 巡査	面積	警部補巡査一人當リ負擔	戸數	同上一方里密度	人口	同上一方里密度	警部補巡査一人當リ負擔
朝鮮	内地人 三七	内地人 一二	内地人 四八	内地人 三三	方里 一四、三一三	方里 、七九	戸 三、四〇四、一八一	戸 二八三	人 一七、八四、九六三	人 一、二五〇	九九五
	朝鮮人 一三	朝鮮人 計	朝鮮人 計	朝鮮人 九五							
	計 五〇	計 六〇	計 八三	計 一二八							
内地	二五八			一、七六三	五三、一三九	、四四五	二一、二三一、〇五三	四三八	五八、四八一、五〇〇	一、三五八	一、〇五一
臺灣	三			二六一	二、二三三	、二〇九	七五三、六三六	三三三	三、九七六、〇九八	一、七〇五	三、五四
關東州	一〇			四七	一、四四〇 四六〇	、一〇九	一一一、六三	五一〇	七〇六、六七三	三、二四三	三五四
警視廳	五四			一五三	二一、九六六	〇、〇〇九	七七一、六二六	五、五九一	三、八九九、四三八	二六、六三三	二九五
北海道	一四			九〇	二、四一〇	〇、二四	四四九、七八三	七三	二、三五九、一八三	三八四	九二九

二 朝鮮警察制度の沿革大要

警察創始時代 舊韓國政府時代に於ける警察制度は名あるも實なく權門の手足となり誅求を擅にするに過きすして弊害百出混沌の狀態なりき、之を以て民生の塗炭の苦を救ふには警察の改善より先なるものなきにより明治二十七年帝國政府より警察顧問を推薦せしも外交上の消長に伴ひ施設半途にして了り爾後露國、佛國等より顧問を聘せしも徒らに政爭の爪牙となるに過きさりき。

明治三十七年帝國政府より推薦せる警察顧問により刷新改善を圖り漸く其の體を爲すに至りたるを

始めとす。

帝國は領事裁判權を有するを以て外務省警察官を置きて領事に隷屬せしめ在留帝國臣民の保護取締に任せしめたりしも明治三十八年十一月の協約により公使館領事館を撤廢して新に統監府理事廳を設置し統監府警察官を配置したり。

先之帝國は其の架設せる電信保護の目的を以て各地に憲兵を駐屯せしめありしか明治三十九年二月憲兵をして韓國に於て軍事警察の外行政警察及司法警察を掌らしめ行政警察及司法警察に付ては統監の指揮を承けしむることに定め、越へて明治四十年十月憲兵は主として治安維持に關する警察を掌り其の職務の執行に付統監に隷屬し兼て軍司令官の指揮を承け軍事警察を掌ることゝなれり、斯くて憲兵、統監府警察官、顧問警察官何れも統監の下に統轄せられ警備機關は漸次整備の緒に着けりと雖尙當時は匪徒草賊各地に出沒し所在に良民を剽掠し劉滅容易ならさるものありしなり。

警察權の委託　舊韓國政府は公安の維持、內外人の生命財產の保障とを完全ならしむへく一層警察機關の統一敏活の要あるを認め、之か制度を完全に改良するの目的を以て明治四十三年六月警察事務の一切を擧けて帝國政府に委託し、舊韓國內部大臣の補助機關たる警務局及觀察使の補助機關たる警察部は勿論其の統轄に屬したる警視廳、警察署、同分署等は之を廢止せり、茲に於て明治四十三年六月二十九日帝國政府は統監府警察官署官制を發布し警務總監部、警務部及警察署の官署を設け警

務總長、警務官、警務部長、警視、警部、技師、通譯官、技手、通譯生、警察醫、巡査、巡査補を以て之を組織し統監の直屬として地方行政機關の外に特立せしめ、中央に警務總監部を各道に警務部を置き警務總長には韓國駐箚の憲兵の長たる陸軍將官を以て充て警務總監部の長となり統監の命を承け部務を總理し、警務部長は各道の憲兵隊長たる佐官を以て之に充て警務總長の命を承け部務を掌理す、然れとも京城は舊韓國の首都たり且つ特殊の事情あり之を他の地方と同一に律し難きに依り警務部長を置かす直接警務總長に於て警察事務を掌理せり、斯くて韓國駐箚憲兵の長たる司令官及憲兵隊長は一面統監府警察官として一般警察官を指揮すると共に、憲兵も亦統監府警察官の指揮を受けて普通警察及衞生警察事務を掌ることゝなれり、警察署長には警視、警部を以て充て警察署を置かさる地に於ける警察事務は憲兵分隊分遣所をして警察官署として之を取扱ふことに定めらる、依つて憲兵隊長同分遣所長たる憲兵將校下士は勿論其の他の憲兵將校下士をして必要に應し警視又は警部に任することゝせり、爾後軍事警察を除くの外警察と憲兵は各其の任務を均くし命令亦一途に出て從來の憲兵と察察との重復配置なきに至れり、而して各道內に於ける警察管轄區域は地方の狀況に適應する如く整理し其の統一と保護の普及とを圖り大體に於て鐵道沿線及開港地地方には警察機關に充つるに警察官を以てし、軍事警察上主要の地及僻遠の地竝に國境地方に憲兵を配置し、事情止むなきものゝ外彼此重復することを避け警察事務の能率增進を圖りたり。

明治四十三年八月締結せられたる韓國併合條約か同年十月一日を以て實施せられ統監府を廢止して新に朝鮮總督府を設置し、統監府警察官署は朝鮮總督府警察官署に改正せられ從來各國居留地に存在せる居留地警察官は韓國と列國との條約か當然無效に歸したる結果として之を撤去せり、而して憲兵警察の統合制は當時の現狀に鑑み已むを得さる權宜の施措として依然此の制度を踏襲せられたるものなり。

總督府設置以降は一層制度施設の整備に努め明治四十三年十二月憲兵及警察の管轄區域及職員配置を改正し、集團配置の制なりしを可成分散配置とするの方針を採り數次に涉りて散在制度を實施し、從來一駐在所に巡査巡査補を通して多きは十餘名最少五六名を下らさりしを改めて內地人巡査一名或は二名の外巡査補二名乃至四名とせり。

水上警察は舊韓國時代より承繼せる警備船十隻ありしも其の船體狹少にして海上風波に堪へす平時に於ても遠く陸地を離れて活動する能はさるものに屬し陸上警備力の餘力を以て漸く水上の治安を維持するに過きさりき、然るに明治四十三年十二月南滿洲に黑死病猖獗を極め檢疫、警戒は一日も忽緖に附すへからさるに至りしより陸軍より數次に船舶を借入れ漸く水上警察の基礎を確立するに至れり。

明治四十五年三月官制を改正し港務官、港吏、港務醫官、港吏、港務醫官補、獸醫官補を增置し總督府內

務部に屬したる衞生行政、稅關に屬したる港務警察及開港檢疫、農商工部に屬したる移出牛檢疫事務は警務總監部の管掌に移せり蓋し如斯各種の機關に分掌せしむるは不便尠からさりしに依る。

大正四年三月警察官署官制を改正し從來警務總監部に於て直接掌理せし京城に於ける警察及衞生事務の掌理を京畿道警務部長の權限に移し、尙各道警務部長の部令を發布するに當りては先つ道長官の承認を要することゝなれり。

爾後職員の增減、管轄區域の整理及時代に伴ふ諸法規の發布等施設改善を加ふる所ありしも警察憲兵の合一制度には著しき消長を見さりき。

憲兵制度の撤廢　警察憲兵の統合制度を實施すること十年に及ひしも社會の狀態年と共に變遷し特に歐洲大戰以來時勢の進展急劇を極め警察憲兵統合制度廢止の議盛に起り、廟議も亦總督政治の根本的革新と共に憲兵を警察執行機關より除き全く普通警察に更改するの必要を認め、大正八年八月十九日總督府官制を改正し總督府に警務局を置き警察及衞生事務を分掌せしめ、同時に警察官署官制を廢止し地方官官制を改正して警察權を道知事に移屬し各道に第三部を置き（第三部は後に警察部と改む）道事務官を警察部長と爲し各府郡島に警察署を設け警視警部を警察署長に充て、是等地方官をして警察衞生事務執行の任に當らしめ以て民衆的警察制度の確立を期し又警視警部の下に新に警部補を設け、從來朝鮮人に限り任命したる巡査補の階級を廢して一律に巡査となし以て警察官吏

の待遇を改善せり。

警察事務の引繼　朝鮮の警察は斯の如く根本的に革新せられ内地と同様の制度に面目を一新し制度上茲に全く憲兵と分離することゝなりしも、之に代るべき警察官吏の要員は固より直ちに全部を補充し得さるを以て、新に警察署を設置したるも遽に要員の配置を爲す能はさる地方に在りては、一時權宜の處置として其の地駐在の憲兵分隊又は分遣所職員をして當分の間引續き警察事務を執行せしめ、其の間着々警察官の任用補充に努め制度改正後即ち大正八年十一月四日を以て全部憲兵よりの事務引繼を了し茲に朝鮮警察は名實共に面目を一新するに至りたり。

現在　警察制度の更新と共に管轄區域の整理及時代に伴ふ諸法規の發布警備電話の增架設、警備船の增配警察廳舍の建築被服の改善等擧けて數ふへからさる警察施設を以てし又從來の施設に對しても改善を加ふる所少からす殊に警察職員は多數の增員を見たり即ち大正八年八月制度改正と同時に警視內地人八八人、鮮人五八人、警部百二十一人、（鮮人警部は十二人を減す）警部補內地人五百九十六人鮮人二百六十五人、巡査內地人四千八百二十八人、鮮人四千六百四十九人、計一萬五百六十一人を增加したるか制度改正前の警察力即ち憲兵を警察官と看做したる總員は一萬四千四百八十八人なりしを以て事實上二千三百九十五人增加したるものなり。

然るに治安維持上警察官署の增設並に職員增加の必要に迫れるを以て更に之れか要員として大正九年二月警視內地人三人、警部內地人六十一人、鮮人八人、警部補內地人百二十三人、鮮人二人、巡査內地人二千九百八十三人、鮮人七十二人、計三千二百五十一人を又大正十一年國境駐在憲兵及守備隊兵員の減員に依り警視一、警部八、警部補一二、巡査六百人を增員し總計二萬七百五十八人となりしか大正十二年四月行政整理の爲大正十一年增員したる警視內地人一、警部內地人八、警部補內地人一二、鮮人六人を減員せられ、更に大正十三年十二月の行政整理に依り警視以下二千百八九人の減員あり現在に於ける總員警視以下一萬八千四百四十五人とす。

大正八年警察制度改正前後に於ける警察官吏の定員比較表

種別＼期別		制度警察				改正前憲兵				合計			
		警務總長 憲兵司令官	警務官 憲兵佐官	內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計	內地人	朝鮮人	計	
制度直後	警務局長	一											
	警務部長 憲兵隊長		一										
	警察部長			一三	三	一六	九六	三	九九	一〇九	六	一一五	
	警視		二	二一	三	二四	一三	一	一四	三四	四	三八	
	憲兵尉官									一三	一	一四	
	憲兵下士									四八	二	五〇	
	警部補 憲兵上等兵			二六	一	二七	一三		一三	三九	一	四〇	
	巡査 憲兵補助員			一、四四三	一	一、四四四	九六七	一	九六八	二、四一〇	二	二、四一二	
	合計			一、四九三	一一	一、五〇四	一、一二三	一	一、一二四	二、六一六	一二	二、六二八	
改正前	警務部長 憲兵隊長	一								一		一	
	警務部 憲兵隊長		一							一		一	
	警察部長			一三	三	一六	九六	三	九九	一〇九	六	一一五	
	警視		二	二一	三	二四	一三	一	一四	三四	四	三八	
	憲兵尉官									一三	一	一四	
	憲兵下士									四八	二	五〇	
	警部補 憲兵上等兵			二六	一	二七	一三		一三	三九	一	四〇	
	巡査 憲兵補助員			一、四四三	一	一、四四四	九六七	一	九六八	二、四一〇	二	二、四一二	
	合計			一、四九三	一一	一、五〇四	一、一二三	一	一、一二四	二、六一六	一二	二、六二八	
增減				八〇		八〇	一〇		一〇	九〇		九〇	

改正後 行政整理前	一	｜	｜	｜	一三	四〇	一四	五四	三六九	一〇五	四七四	七一八	二〇〇	九一八	一一、〇三八	八、〇一六	一九、一八八	二〇、六四八
改正後 現在	一	｜	｜	｜	一三	三七	一一	四八	三三三	九五	四二八	六一二	一七〇	七八二	一〇、一三二	七、〇五七	一七、一八八	一八、四五九
比較増減	｜	減四	減二	減六	減一三	減八五	減一〇	減九五	減六三四	減四九	減六八三	増六一二	増一七〇	増七八二	増四、九八九	減一、〇三二	増三、九五八	増三、八四二

備考　制度改正前に在りては憲兵數を倂せて掲記し警察官吏の定員と看做して增減比較をなす

同上　警察官署比較（大正十四年五月末調）

期別＼種別	警務部又は憲兵隊（警察部）	警察署又は憲兵分隊（憲兵分遣所）	警察官派出所又は憲兵派出所	警察官駐在所又は憲兵駐在所	合計
制度改正前 警察	一三	一〇〇	一〇七	五三三	七五三
制度改正前 憲兵	一三	七八 分遣所 九八	七	八七七	一、〇六〇
制度改正後	一三	二四七	一三一	一、四三八	一、八二九
行政整理前	一三	二五一	一六七	二、四二四	二、八五五
制度改正前と整理前の增減比較	｜	減二五	增五三	增一、〇一四	增一、〇四二
現在	一三	二五〇	一五八	二、三二九	二、七五〇

行政整理前後增減比較	｜	減一	減九	減九五	減一〇六

舊韓國政府、總督府新設當時及現在に於ける警察機關の比較

一　警察官署

舊韓國政府時代	内部	警視廳（漢城府及京畿道の警察、消防及衛生事務を掌理す）		警察署 警察分署	巡査派出所 巡査駐在所
		觀察道	警察部	警察署	巡査駐在所
朝鮮總督府新設當時	朝鮮總督府	警務總監部（朝鮮全道の警察事務を總理し兼て京城の警察事務を掌る）	警務部（道内の警察事務及管内警察の監督を掌る）	警察署 警察分署	巡査派出所 巡査駐在所
				憲兵分隊 憲兵分遣所	憲兵派遣所 憲兵出張所
現在	朝鮮總督府	警務局			
		道	警察部	警察署	警察官派出所 警察官駐在所 警察官出張所

二　警察職員

舊韓國	内部大臣		警務局長（警視總監）	警視副總監	警察署長（警視）	警視、通譯生、警部、警察醫、通譯生、巡査
			觀察使（各道）	警察部長	警察署長（警視又は警部）	警視、警部、警察醫、通譯生、技手、巡査
新設當時	朝鮮總督	政務總監	警務總長	警務部長	警察署長（警視又は警部）	警務官、警視、通譯官、技師、屬、警部、警察醫、技師、通譯生、巡査、巡査補

現在	朝鮮總督	政務總監	警務局長	事務官、技師、通譯官、屬、技手、通譯生
			道知事	警察部長(道事務官)
				警察署長(警視又は警部)
				警視、獸醫官、獸醫官補、警部、港務醫官、港務醫官補、技手、警部補、巡査

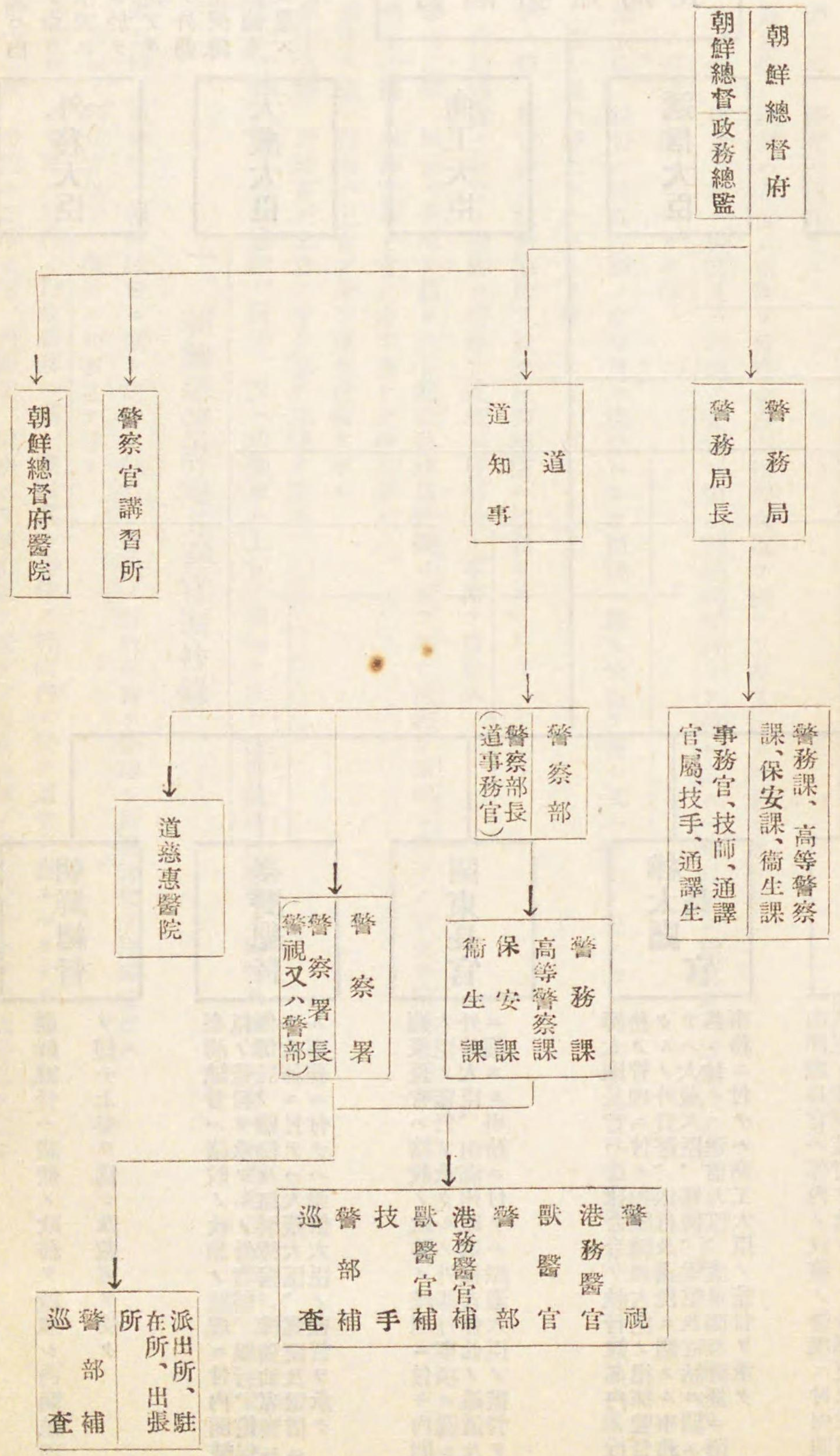
三 警察職員數

		舊韓國時代(警視廳)	同各道	現制度新設當時	現在
勅任	警視總監	一	一(觀察使)	一(警務總長)	—
勅任或は奏任	警視副總監	一	—	—	—
奏任	警察部長	—	内地人一三	一三(警務部長)	一三
奏任又は勅任	港務官	—	—	二	—
奏任	警視	三	内地人一一 朝鮮人一三	内地人三六 朝鮮人一六	内地人三七 朝鮮人一二
奏任	港務醫官	—	—	—	一
奏任	獸醫官	—	—	—	一
奏任	技師	—	—	一	一〇
奏任	通譯官	飜譯官二	—	三	—
判任	屬	—	—	内地人二 朝鮮人六	—
判任	警部	七五	内地人一三〇 朝鮮人六八	内地人一六七 朝鮮人一〇一	内地人三三三 朝鮮人九五
奏任或は判任	警察醫	五	六六	六八	—
判任	港務醫官補	—	—	—	六
判任	獸醫官補	—	—	—	二
判任	技手	—	—	—	三
判任	通譯生	飜譯官補四	飜譯官補 内地人一九 朝鮮人五三	内地人二 朝鮮人五八	—
判任	警部補	—	—	—	内地人六二一 朝鮮人一七〇
判任待遇	巡査	一、一一三	内地人一、六八七 朝鮮人二、五一七	内地人一、七三三 朝鮮人一七二	内地人一〇、一三一 朝鮮人七、〇五七
	巡査補	—	—	三、一六七	—

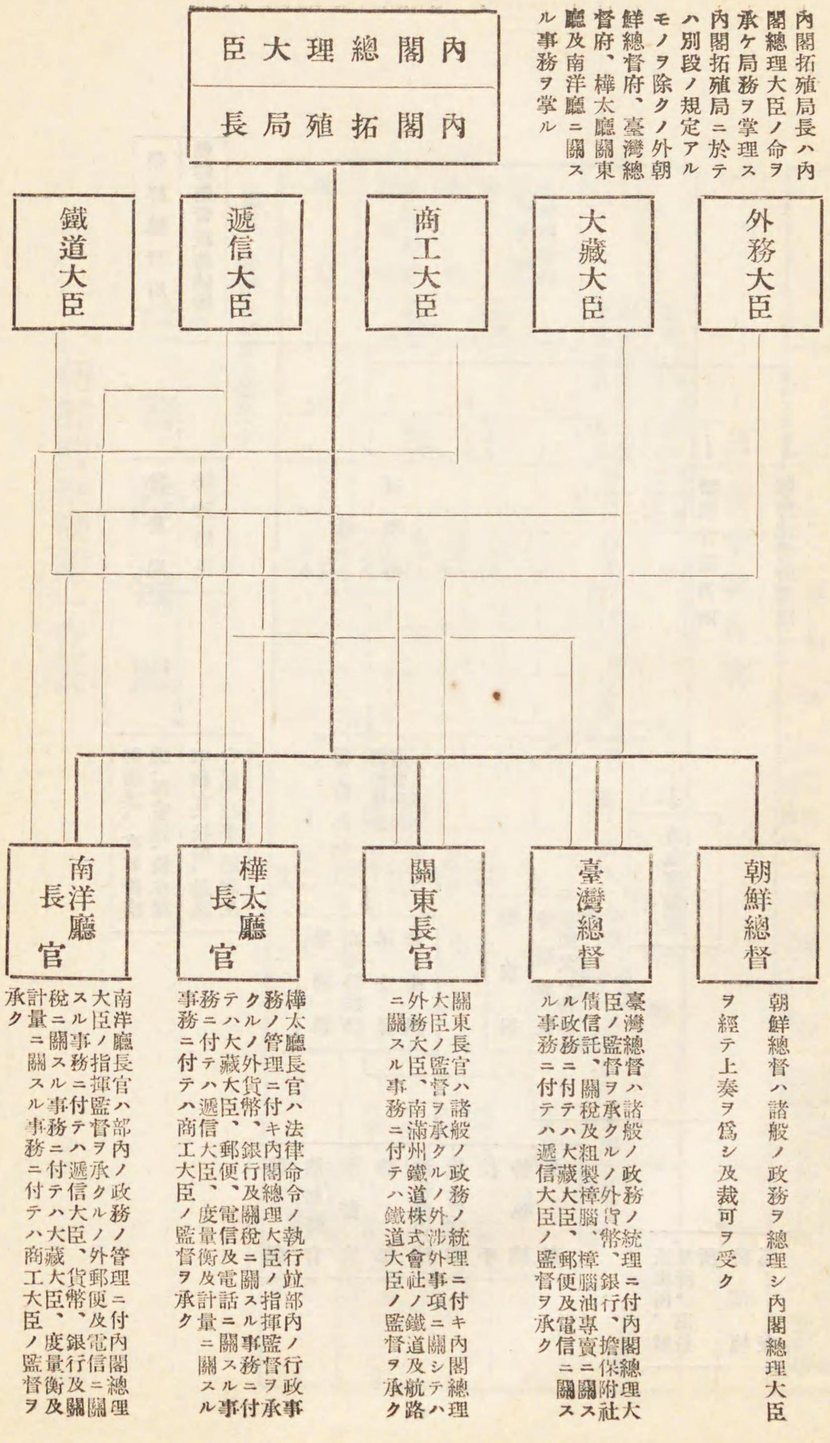
備考 警務局職員は除外す

三 警察機關

朝鮮警察機關一覽表



官署系統調



朝鮮總督府官制抄錄

第一條　朝鮮總督府ニ朝鮮總督ヲ置ク

第二條　總督ハ親任トス

第三條　總督ハ諸般ノ政務ヲ統轄シ內閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及裁下ヲ受ク

第四條　總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ朝鮮總督府令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條　總督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第八條　總督府ニ政務總監ヲ置ク政務總監ハ親任トス
政務總監ハ總督ヲ輔佐シ府務ヲ統理シ各部局ノ事務ヲ監督ス

第十二條　局長ハ各局ノ長トナリ總督及政務總監ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第十七條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ府務ヲ掌ル

第十八條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十九條　通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ通譯ヲ掌ル

第二十條　屬、編修書記、技手、又ハ通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務敎科用圖書ノ編修及檢定ニ關スル事務技術又ハ通譯ニ從事ス

一　朝鮮總督府地方官官制抄錄

第五條　道知事ハ朝鮮總督ニ隷シ法令ヲ執行シ管內ノ行政事務ヲ管理シ所部ノ判任官以下ノ進退ハ知事之ヲ行フ

第六條　道知事ハ管內ノ行政事務ニ關シ職權又ハ委任ノ範圍內ニ於テ道令ヲ發スルコトヲ得

第十二條　各道ニ知事官房、內務部、財務部及警察部ヲ置ク官房及各部ノ事務分掌ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十三條　部長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ道知事ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警察部長ハ警察及衛生事務ノ執行ニ關シ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ警視、警部、警部補、巡査及消防手ヲ指揮監督ス

第十五條ノ二　警視ハ知事ノ命ヲ承ケ警察及衛生事務ヲ分掌シ部下ノ警部警部補巡査及消防手ヲ指揮監督ス

第十五條ノ四　港務醫官ハ上官ノ命ヲ承ケ海港檢疫及醫務ヲ掌ル

第十五條ノ五　獸官ハ上官ノ命ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫、檢査、及醫務ヲ掌ル

第十五條ノ六　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十六條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ徒事シ部下ノ警部補巡査及消防手ヲ指揮監督ス

港務醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ海港檢疫及醫務ニ從事ス

獸醫官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ獸畜ニ關スル檢疫檢査及醫務ニ從事ス

技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡査及消防手ヲ指揮監督ス

第十六條ノ二　各府郡島ニ警察署京城府ニ消防署ヲ置ク但シ朝鮮總督ハ地方ノ必要ニ應ジ別ニ區域ヲ定メテ警察署ヲ置クコトヲ得警察署及消防署ノ位置及管轄區域ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十六條ノ三　警察署長及消防署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

警察署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ警察及衛生事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

消防署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ管内ノ消防事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條ノ四　各道ニ巡査ヲ置ク判任官ノ待遇トス

京畿道ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

消防手ハ消防署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

巡査及消防手ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

二　朝鮮總督府事務分掌規程抄錄

第十一條　警務局ニ警務課、高等警察課、保安課及衛生課ヲ置ク

警務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察區劃及配置ニ關スル事項

二　警察被服及附屬品ニ關スル事項

三　警察ノ服務及紀律ニ關スル事項

四　警衛及警備ニ關スル事項

五　局内他課ノ主管ニ屬セサル事項

高等警察課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　高等警察ニ關スル事項

二　新聞雜誌出版物及著作物ニ關スル事項

保安課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　行政警察ニ關スル事項

二　消防ニ關スル事項

三　犯罪即決事務ニ關スル事項

衛生課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公衆衛生ニ關スル事項

二　醫師、醫生、藥劑師、產婆、看護婦及種痘認許員ニ關スル事項

三　病院ニ關スル事項

四　藥品營業、入齒、理髮、按摩及鍼灸術營業ニ關スル事項

五　墓地及埋火葬ニ關スル事項

第四條　警察部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　警察ニ關スル事項

二　衛生ニ關スル事項

三　警察文書ノ往復記錄、編纂及保管ニ關スル事項

四　警察職員ノ進退賞罰其ノ他身分ニ關スル事項但シ判任官以上ノモノヲ除ク

四　朝鮮總督府委任事項規程抄錄

第二條　各局長、各部長、官房各課長、及會議室首席事務官ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　部下職員勤務ノ指定但シ課長及之ニ準スヘキ者ヲ除ク

二　部下職員ノ請暇ノ許否

三　部下職員ノ除服出仕命令

四　部下職員ノ官吏服務紀律ニ依ル願出ノ許否

五　部下職員ノ出張命令但シ外國出張ノ場合ヲ除ク

六　部下雇員ノ進退及賞與

七　事業費所屬傭人ノ進退及賞與

八　別ニ決裁ヲ受ケ內示シタル國庫補助ノ執行（補助金額等ニ變更アル場合ヲ除ク）

九　補助工事設計ノ變更但シ之カ爲補助金總額一萬圓ヲ超ユル場合ヲ除ク

十　報告及屆書ノ處理但シ重要ナルモノハ卽時總督ノ開覽ニ供スヘシ

十一　事務上定例アルカ又ハ輕易ナル事項ニ關スル照會、回答、通知竝請訓及具申ニ對スル措置

第八條　警務局長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　出版物取締ニ關スル事項（新聞紙ノ發行ノ認可停止及認可取消ヲ除ク）

二　醫師、醫生、齒科醫師及藥劑師ノ免許（再免許及禁止ノ解除ヲ除ク）

三　朝鮮總督府道慈惠醫院醫員委託生規則ニ依ル處分但シ委託生ノ決定ヲ除ク

四　警察職員定員變更ノ認可

五　警察官吏ノ道外應援派遣

六　警察官吏ノ被服及帶具ノ調製、給與及貸與

七　銃器彈藥ノ配備

八　勞働者募集取締規則第七條ノ規定ニ依ル處分竝同取扱手續第二條、第十條及第十四條ノ定ニ依ル指令

九　銃砲火藥類及取締令第一條ノ許可及第十四條ノ規定ニ依ル處分

十　引火質物貯藏所取締規則取扱手續第七條ノ規定ニ依ル指令

十一　汽罐汽機發動機取締規則取扱手續第四條ノ二ノ規定ニ依ル指令

十二　藝妓酌婦藝妓置屋營業取締規則第十八條ノ地域ノ制限及貸座敷娼妓取締規則第三條ノ指定ニ對スル指揮

十三　自動車取締規則取扱手續第八條第二項ノ指揮

十四　寄附金品募集取締規則第一條ノ許可

十五　市街地建築取締規則取扱手續第三條ノ規定ニ依ル指令

十六　狩獵免狀及特別許可ニ關スル取扱手續第十一條ノ規定ニ依ル指令

十七　行政執行令及同施行規則取扱心得第四條及第五條ノ指揮

十八　阿片取締法令取扱手續第二條ノ指定

十九　大正三年府令第六十三號第一條ノ寄港地ノ指定

二十　大正九年府令第百九十四號第一條及第二條ノ許可

五　朝鮮總督府所屬官署委任事項規程抄錄

第一條　各官署ノ長ハ特ニ規定スルモノノ外此ノ規程ニ依リ專行スヘシ

第二條　各官署ノ長ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　部下職員勤務ノ指定但シ道ニ在リテハ部長（以下省略）ヲ除ク遞信官署ニ在リテハ遞信局課長、遞信吏員養成所長、郵便爲替貯金管理所

二　部下職員ノ例規請暇及休暇中旅行ノ許否

三　部下職員ノ除服出仕

四　部下職員ノ官吏服務紀律ニ依ル願出ノ許否

五　部下職員ノ出張但シ鴨綠江、豆滿江對岸以外ノ外國出張ヲ除ク

第十二條　道知事ハ左ノ事項ヲ專行スヘシ

一　部下及所轄職員ノ死亡賜金、手當及諸給與

二　所轄職員ニ係ル第二條ノ事項但シ道慈惠醫院長、府尹、郡守、島司及高等官タル警察署長ニ係ル同條第一號ノ事項ヲ除ク

三　部下並所轄職員警察用務ノ爲滿洲ヘノ出張命令

四　褒賞條例第八條第二項ノ千圓未滿ノ寄附ニ對スル褒狀ノ賜與

五　一、二等道路臨時修繕ノ施行但シ特ニ指定シタルモノヲ除ク

六　一、二等道路ニ關スル道路規則第五十六條ノ許可

七　建物ノ增築、改築、移轉、取拂、模樣替及用途ノ變更竝不用中ノ官有財産ノ國ニ於ケル使用

八　建坪百坪以下ノ建物及二千坪以下ノ土地ノ期間三月ヲ超エサル貸付又ハ使用ノ許可

九　官有財産ニ屬スル土地以外ノ豫定價格千圓ヲ超エサル不用物件ノ處分

十　道路、河川、堤防、溝渠及溜池ニ關スル官有財産管理規則第十一條第二號及第三號ノ規程ニ依ル處分竝官有財産管理規則第十一條第二號ノ開設者ニ對スル舊同種類ノ土地ノ賣拂

十一　官有地（驛屯土及國有林野ヲ除ク）ノ道路、河川、堤防敷地組替

十二　官有財産臺帳ノ登錄並登錄ノ取消及訂正

十三　金融組合ノ資金借入認可組シ貸出資金ニ非サル借入金、特別低利借入金都市金融組合ニ於ケル短期貸出資金借入金ニシテ其ノ額拂込濟出資金、缺損補塡準備金及特別準備金ノ合計額ヲ超ユルモノ、村落金融組合ニ於ケル三萬圓ヲ超ユル短期貸付資金借入金並當座借越金ニシテ都市金融組合ニ於テハ五千圓、千圓、村落金融組合於テハ三千圓ヲ超ユルモノ又ハ借超期間二年ヲ超ユルモノヲ除ク

十四　金融組合理事ノ進退、給料及手當ノ指定並金融組合理事並金融組合聯合會理事長及理事服務及懲戒規程ニ依ル金融組合理事ニ對スル許可及減給

十五　見積價格千五百圓以下ノ土地、工作物又ハ物件ノ寄附ニ關スル處分但シ本府直轄施行ノ工事ニ係ルモノヲ除ク

十六　十町歩ヲ超エサル國有未墾地ニ關シ國用未墾地利用法及同施行規則ニ依ル處分

十七　道知事ニ於テ處分シタル「ヲノオレカンバ」輸移出ノ許可

十八　商業會議所特別評議員ノ任命、解任及清算人ノ認可及選任並役員ノ認可但シ會頭及副會頭ヲ除ク

十九　府縣社以下神社ノ社司社掌ノ定員認可及其ノ任命

二十　警察官派出所及警察官駐在所受持區域ノ設定

二十一　巡査定員配置

二十二　產婆免許證ノ下附

二十三　檢疫委員ノ命免

二十四　朝鮮總督府官立學校卒業者服務義務猶豫ノ許否

二十五　公立又ハ私立ノ普通學校ノ設立及廢止ノ認可

第十三條　前各條ノ規程ニ依リ委任シタル事項ト雖重要ナルモノハ意見ヲ具シ豫メ總督ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　專行事項ニシテ總督名又ハ總督府名ヲ以テ施行スヘキモノハ豫メ定例ヲ作リ總督ノ承認ヲ受クヘシ

四　警察管轄

管轄の概要　警察管轄は行政區域を基礎として一府郡に一警察署の設置を原則とせるも地方の事情に依り二警察署以上を配置せるものありて京城府に六警察署又咸鏡北道茂山郡或は平安北道江界郡の如き一郡に三警察署を設置せる即ち之なり、現在二百三十三府、郡、島に對し二百五十の警察署を設置し府郡數を超過すること十七箇所なり、之れが設置箇所は京城府内外の交通關係の變遷に依り一山警察署を西大門警察署に合併し一箇署を減したるの外前年と差異なし、各署共概して管轄面積廣大にして面積五十方里以上のもの百十九箇署あり其の最大なるものとして、咸鏡南道豊山署の如きは管轄面積二百五十四方里餘に渉れるものあるも又二十方里以下に過ぎざるもの十七箇署ありて其の最少なるものに至りては（府所在の警察を除く）咸鏡北道訓戎鎮署の如く十方里に過ぎざるものなきにあらず、而して一警察署の管轄區域の平均面積は六十方里に當れるか前記豊山署と訓戎鎮署に對する管轄面積に甚しき差等あるは一見奇異の感なきにあらざるも前者は山岳重疊の地にあり後者は支那琿春と對峙せるに依るものにして、警察署の配置は何れも地勢警備關係其の他各種の事情を考覈し最も適當と認める範圍に於て定めたるものとす、人口戸數は一般に稀薄にして一警察署の平均人口七萬一千餘人にして十五萬以上を管轄する警察署は全鮮中九箇所に過ぎず僅々二萬以下に過ぎざるもの十箇所あり、警察署管内に派出所、駐在所を設置す派出所は警察署所在地に駐在所は警察署所在地外に置く、而して駐在所は一面（面は内地の町村に該當す）一駐在所主義に據れるも地方の事情に依りては一面に二箇所以上を設置せるものあり出張所は國境方面の如き又は鐵道工事等の爲無頼者又工夫等多數集合し特に警戒を要する地點其他特種の事情に依り其の必要を認めたる場合道知事に於て臨時に設置す、駐在所派出所の設置箇所は昨年に比し派出所十、駐在所は百〇七を整理し現在駐在所は朝鮮全面數二千五百四に對し二千三百三十九箇所なるも市街地警察署約三十八箇所を除く他の警察署は所在地面を直轄するを以て殆んど一面一駐在所となれり、派出所は百五十七箇所なり出張所は主として國境に設置せられ其の數百七十八箇所なり、一駐在所の負擔の平均は面積六方里強人口七千六百八十人なるが一般に面積廣大にして著しきものを示せば咸鏡北道三長警察署農事洞駐在所は七十六方里同延社警察署水祐駐在所は四十二方里三社駐在所は四十八方里平安北道前川警察署化京駐在所は四十三方里を受持ち居れり、尙江原道の如き一駐在所にして面積三十方里に渉るもの十二箇所あり咸南北平南北の各道に於ても亦同樣多數あり而して面積二十方里以上のもの全道に於て六十一箇所あり。

警察署の管轄面積及人口別表の通にして一見面積の廣大なるに比し人口の稀薄なるを知り得べきも略同樣の面積を有する内地本州（滋賀縣を除く）に於ては警察署五百八十八箇所同分署三百五十二箇

所、駐在所一萬一千百三十一箇所、派出所二千八百七十九箇所の設置ありて之を朝鮮の警察署二百五十、駐在所二千三百三十九、派出所百五十八に對比するときは警察署は十分の二、六駐在所は十分の二派出所は百分の五に過ぎざるなり。

定員配置　各道の定員配置は面積人口に依るの外地方の情勢を顧慮せり即ち國境方面は鮮人匪徒の潜入のみならず動もすれば支那馬賊の侵入掠奪を受くるの虞あるを以て這回の行政整理に於ても監督者級に於て三十七名を減員したるのみにて巡査は一名も減員せず却つて教習に充つべき鮮人巡査の定員七十名を增加せり其の他の各道に在りては警察部は三十八警察署は二十人派出所は四人乃至六人駐在所は三人を配置標準とし之れに汽車、連絡船、警備船乘組、騎馬及特種警備等特種の勤務を要する人員を加へ決定なる。

巡査の負擔率　制度改正前に於ては憲兵、上等兵、憲兵補助員を巡査と看做し面積人口戸數に比するに巡査一人當りの負擔は、面積一・〇八方里戸數二百四十二戸八口一千二百九十五人にして内地に比し將又朝鮮の狀況より見て其の警備力は極めて稀薄の感ありしが、大正八年騷擾事件あり以後時局の影響と制度改正と相俟つて極力充實を期したる爲大正十二年末に於て面積、七一方里戸數一六九戸人口九一九人の負擔となれるが大正十二年十二月行政整理に依り巡査二千人の減員ありたる爲現在に於ては面積〇・八三方里戸數百九十五戸人口一千四十五人の負擔なり、而して警部補以下警察官全部に對する負擔面積七九方里人口九九五人となれるも、之等より國境に於ける特種警備勤務に服する巡査を除外するときは一層其の負擔を增大し一般に過重なる負擔を以てし加之内地人巡査にして鮮語未熟鮮人にして法律智識に缺くる者何れも其の數少からず此等は各單獨を以て完全に職務を遂行する能はす内鮮人巡査を合せて漸く職務の執行を爲し得るを普通とす、而かも内鮮人巡査の素質は各徑庭ありて職務執行上適不適の場合少からず、殊に各駐在所間及駐在所と警察署間交通不便其の受持區域廣大なるを以て些少の事故に對しても多大の勞力と時間とを要し處理上困難なる場合多し、其の他日常の勤務に於ても國境警備、沿岸警備、關稅事務、郵便護衛、執達吏事務、民事爭訟調停、林野保護政府專賣品の取締等警察事務以外の事務尠からずして勤務複殖を極む尙施政諸般の整備する道程として助長行政援助思想善導其の他警察施設を要するもの頗る多く、實際の負擔率は倍加せらるゝものにして常に職員の不足を訴へつゝあり、而して内地に於ける内務省の巡査一人當り負擔標準は市又は北海道若は沖繩縣の區に於て人口三百乃至八百に付一人郡に於て人口六百乃至二千に付巡査一人の割なるが、朝鮮に於ては駐在所出張所に於て一、三七八名の負擔なり警部補巡査一人當りの負擔を内地其の他と比較するに人口は内地と同率なるも臺灣に二、五倍し面積は内地に一、七倍し臺灣の夫れに三、五倍し居れり以て如何に朝鮮警察官の負擔が過重あるかを知り得べし。

警察管轄區域表

（大正十三年十二月末現在）

道名	警察府署數	郡數	面數	町洞里數	內地人及外國人 戶數	內地人及外國人 人口 男	內地人及外國人 人口 女	朝鮮人 戶數	朝鮮人 人口 男	朝鮮人 人口 女	計 戶數	計 人口 男	計 人口 女	計 人口 計	面積
京畿道	二五	二〇 ×二	二四九	二、五九九	二六、六二四 ×一、九三八	五三、三六六 ×七、六八九	五〇、七三三 ×一、三四七	三四三、〇四一	九〇一、七九四	八五九、一五三	三七一、六〇三	九六二、八四九	九一一、二三一	一、八七四、〇八〇	八三一
忠淸北道	一〇	一〇	一一〇	一、五一八	一、九一五 ×二四五	三、五三〇 ×七四七	三、三一五 ×六八	四七、五二一	三九五、八五三	三七一、三二二	一四九、七一一	四〇〇、一三〇	三七四、七〇五	七七四、八三五	四八一
忠淸南道	一四	一四	一七五	二、二五〇	四、八三八 ×六四一	九、五四〇 ×二、一五五	八、九七九 ×一六九	二二二、〇九七	五九九、五一二	五六五、七一三	二二七、五七六	六一一、二〇七	五七四、八六一	一、一八六、〇六八	五二六
全羅北道	一四	一四 ×一	一八八	一、七七八	四、七七八 ×三九四	九、三六一 ×一、三三〇	八、六二九 ×九九	二四五、三七七	六四二、三九六	五九八、七二三	二五〇、四七五	六五三、〇八七	六〇七、四五一	一、二六〇、五三八	五五三
全羅南道	二二	二一 ×二	二六九	三、〇八五	七、五二四 ×三五〇	一五、二七三 ×一、二二二	一四、三三四 ×一〇九	三九五、四三九	九八九、六三七	九五二、七三八	四〇三、三一三	一、〇〇六、一二三	九六七、〇八一	一、九七三、二〇四	九〇〇
慶尙北道	二三	二三 ×二	二七二	三、一七五	八、八二八 ×三九八	一七、三三五 ×一、三四一	一六、三六八 ×一一六	四〇八、六六三	一、一〇八四、一七	一、〇四三、八八九	四一七、八八九	一、一三七、〇八三	一、〇六〇、三七三	二、一八七、四五六	一、二三一
慶尙南道	二三	一九 ×二	二五七	二、六二三	一七、七八七 ×三三〇	三六、四二一 ×一、一八五	三五、六五六 ×一〇三	三四八、八九四	九〇九、〇四四	八七〇、八〇〇	三六七、〇一一	九四六、六四〇	九〇六、五五九	一、八五三、一九九	七九八
黃海道	一八	一七	二二六	二、〇六七	四、三二五 ×六三四	七、七三一 ×二、〇五一	七、一四九 ×三一四	二六九、七八八	六八四、八三九	六六九、四一八	二七四、七四七	六九四、六二一	六七六、八八一	一、三七一、五〇二	一、〇八五
平安南道	一六	一四 ×二	一六五	一、九三二	六、六〇〇 ×七三九	一二、八五六 ×二、七〇四	一二、一九一 ×五六九	二二一、三一八	五六四、一九四	五四一、六二八	二二八、六五七	五七九、七五四	五五四、三八八	一、一三四、一四二	九六八
平安北道	二四	一九 ×一	一九〇	一、四二九	五、一二八 ×二、六一二	七、七七六 ×七、一〇四	六、六五六 ×一、八六七	二二七、六六九	六四八、五〇二	六二三、九〇七	二三五、四〇九	六六三、三八二	六三二、四三〇	一、二九五、八一二	一、八四四
江原道	二二	二一	一七八	一、九七一	二、六二三 ×二八六	四、三三六 ×一、〇六九	三、八五二 ×四〇	二三三、五一三	六二五、三七二	五七九、三三五	二三六、四二二	六三〇、七七七	五八三、二一七	一、二一三、九九四	一、七〇三
咸鏡南道	二〇	一六 ×一	一四二	二、九四〇	五、四六二 ×七二〇	九、八九八 ×二、四六九	九、二九四 ×三五三	二一二、〇七六	六四六、五五五	六〇八、三五一	二一八、二五八	六五八、九二二	六一七、九九八	一、二七六、九二〇	二、〇七三
咸鏡北道	一九	一一 ×一	八一	七〇九	五、八〇四 ×八五三	一〇、一〇六 ×三、二〇二	九、四三四 ×二四一	八八、二九九	二七九、三五五	二六八、九六九	九四、九五六	二九二、六六三	二七八、六四四	五七一、三〇七	一、三一九
合計	二五〇	二一九 ×一四	二、五〇二	二七、九六四	一〇二、二三六 ×一〇、一四〇	一九七、五一九 ×三四、三五八	一八六、四八九 ×五、三九五	三、二四三、六九五	八、九九五、四七〇	八、五六三、九三五	三、三五六、〇五一	九、二二七、二三七	八、七四五、八一九	一七、九七三、〇五六	一四、三一二

警察署管轄面積及人口表

（大正十三年十二月末調）

道名	管轄面積 二十方里以下ノモノ	二十方里以上ノモノ	五十方里以上ノモノ	八十方里以上ノモノ	百方里以上ノモノ	百五十方里以上ノモノ	二百方里以上ノモノ	計	管轄人口 二萬以下ノモノ	二萬以上ノモノ	五萬以上ノモノ	十萬以上ノモノ	十五萬以上ノモノ	計
京畿道	五	一五	五	—	—	—	—	二五	—	一	二〇	四	—	二五
忠淸北道	—	四	六	—	—	—	—	一〇	—	三	六	一	—	一〇
忠淸南道	—	一二	二	—	—	—	—	一四	—	—	一一	三	—	一四
全羅北道	—	一二	二	—	—	—	—	一四	—	一	七	六	—	一四
全羅南道	—	一七	四	—	一	—	—	二二	—	二	一五	三	二	二二
慶尙北道	一	一一	六	四	一	—	—	二三	一	一	一三	四	四	二三
慶尙南道	四	一四	五	—	—	—	—	二三	一	一	一四	七	—	二三
黃海道	一	五	九	一	二	—	—	一八	—	三	一三	一	一	一八
平安南道	一	七	五	一	二	—	—	一六	—	五	九	二	—	一六
平安北道	—	八	七	三	四	二	—	二四	三	九	九	三	—	二四
江原道	—	二	一二	四	四	—	—	二二	—	八	一四	—	—	二二
咸鏡南道	一	四	六	二	二	四	一	二〇	四	六	六	二	二	二〇
咸鏡北道	四	三	四	四	三	—	一	一九	一〇	五	三	一	—	一九
合計	一七	一一四	七三	一九	一九	六	二	二五〇	一九	四五	一四〇	三七	九	二五〇

警察官派出所駐在所出張所調

（大正十四年三月十一日調）

道名＼種別	警察官派出所 行政整理前	警察官派出所 行政整理後	警察官派出所 増減比較	警察官駐在所 行政整理前	警察官駐在所 行政整理後	警察官駐在所 増減比較	警察官出張所 行政整理前	警察官出張所 行政整理後	警察官出張所 増減比較
京畿道	六一	六一		六三	一六	一六		一六	一
忠清北道	二	一	×	一六六	九二	×	五	五	
忠清南道	五五	五五		一五八	一五八	×	一	七	○
全羅北道	九	九		一四	一三	×	六	六	
全羅南道	七	七		二一	二一	×	八	八	
慶尚北道	二	二		一五五	一四〇	×	三	三	
慶尚南道	一九	一九		二三八	二三八		一〇	一〇	
黄海道	四	三	×	二一三	二一三		二	二	
平安南道	二一	二一		一六三	一三八	×	二五	二	
平安北道	七	七		一五九	一五九		八七	八七	
江原道	二	二		一六七	一六七		三	三	
咸鏡南道	六	六		一八〇	一八〇		三	三	
咸鏡北道	五	五		一三五	一三五		二六	二六	
計	一五九	一五七	× 二	二、四一〇	二、二五九	× 一三八	一七七	一七八	○ 一

備考　一、増減欄×印ハ減ヲ○印ハ増ヲ示ス

警部補巡査定員一人當の負擔面積人口表

（大正十三年十二月末現在）

道別	面積	戸数	人口 内地人及鮮人	人口 内地人	人口 鮮人	警察署所在地	警察署所在地外
京畿道 京城府内	〇、〇〇〇、七	一八	三一	一二	一九	警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
京畿道 京城府外	〇、〇〇二	五三	七六	三一	四八	警察署所在地 警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
忠清北道	〇、〇〇三	七六	一二八	七六	五二	警察署所在地	同所在地外 同
忠清南道	〇、〇〇四	一八	三一	一二	一九	警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
全羅北道	〇、〇〇二	五三	七六	三一	四八	警察署所在地 警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
全羅南道	〇、〇〇三	七六	一二八	七六	五二	警察署所在地	同所在地外 同
慶尚北道	〇、〇〇四	一八	三一	一二	一九	警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
慶尚南道	〇、〇〇二	五三	七六	三一	四八	警察署所在地 警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
黄海道	〇、〇〇三	七六	一二八	七六	五二	警察署所在地	同所在地外 同
平安南道	〇、〇〇四	一八	三一	一二	一九	警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
平安北道	〇、〇〇二	五三	七六	三一	四八	警察署所在地 警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
江原道	〇、〇〇三	七六	一二八	七六	五二	警察署所在地	同所在地外 同
咸鏡南道	〇、〇〇四	一八	三一	一二	一九	警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
咸鏡北道	〇、〇〇二	五三	七六	三一	四八	警察署所在地 警部補巡査定員一人當管區受持巡査定員一人當	同所在地外 同
計	〇、〇〇三	七六	一二八	七六	五二	警察署所在地	同所在地外 同

南道	同	一、五三〇	一、九〇〇	、八五〇	六三三	七八六	三五一	三、三一三	四、一一三	一、八三五
	同	一、五六〇	一、九〇〇	、八六〇	六四三	七八六	三五四	三、三六六	四、一一三	一、八三五
全羅北道	同	、一三三	、二四八	、〇八〇	一三九	二四三	八四	六一八	一、一五六	四〇三
	同	、二二〇	、三三〇	、二一二	二一五	三一三	一二七	一、〇二八	一、四九一	六〇八
同	同	一、八二三	一、九七三	、九四七	七八〇	八四五	四〇五	三、九四七	四、二七六	二、〇五三
	同	一、八二八	一、九七三	、九四九	七八三	八四五	四〇六	三、九六一	四、二七六	二、〇五六
全羅南道	同	〇、三一一	〇、三二九	〇、一六三	二六九	二八一	一三九	一、二〇八	一、二八一	六三二
	同	〇、三五二	〇、三四〇	〇、一七三	三〇七	二九五	一五〇	一、三七〇	一、三三〇	六七三
同	同	一、七七一	二、三七四	一、三七四	七二五	九七四	四一五	三、六二五	四、八二八	二、〇六三
	同	一、七八九	二、三七四	一、〇二一	七二四	九七一	四一七	三、六四四	四、八三一	二、〇七七
慶尚北道	同	〇、二〇三	〇、二九〇	〇、一一九	一五六	三二四	九二	七五六	一、〇八六	四四五
	同	〇、四八八	〇、五七八	〇、二六四	三七七	四四六	二〇三	一、八二八	二、一六四	九九〇
同	同	二、一七八	二、二四六	一、一〇六	六七五	六九六	三四二	三、五七八	三、六九〇	一、八一六
	同	二、二一七	二、二四六	一、一二五	六八六	六九六	三四五	三、六四〇	三、六九〇	一、八三三
慶尚南道	同	〇、一二〇	〇、二一〇	〇、〇八〇	一六六	二八六	一〇五	七六九	一、三一二	四八六
	同	〇、二五〇	〇、三七〇	〇、一五〇	三四三	五一〇	二〇五	一、五八六	二、三六一	九四九
同	同	一、八七〇	二、〇七〇	〇、九八〇	七五四	八三三	三九六	三、八七四	四、二七九	二、〇三三
	同	一、八九〇	二、〇七〇	〇、九九〇	七六一	八三三	三九八	三、九一三	四、二七九	二、〇四四

黄海道	同	〇、二〇三	〇、二三四	〇、一〇七	一四〇	一五六	七一	六四九	七三二	三三八
	同	〇、六〇五	〇、四二八	〇、五二五	三八五	二七六	一五九	一、七六〇	一、二八一	七四七
同	同	二、三〇三	三、〇一八	一、三〇九	五二九	六八三	二九六	二、六八四	三、四六一	一、五七八
	同	二、五六六	二、九七三	一、三五九	五九〇	六九〇	三一三	三、〇〇四	三、四七七	一、五八七
平安南道	同	〇、二三四	〇、三六二	〇、一四二	一三一	二〇二	七九	六三六	九八一	三八六
	同	〇、五三七	〇、七二〇	〇、三〇八	三〇〇	四〇三	一七二	一、四五六	一、九五四	八〇三
同	同	二、二四七	二、七三二	一、二三七	四三八	五三二	二四〇	二、三七〇	二、八五〇	一、二八六
	同	二、三二四	二、七三三	一、二五六	四五三	五三二	二四四	二、四二四	二、八五〇	一、三一〇
平安北道	同	、三六四	、八〇六	、三〇八	一三七	一三三	八五	六九四	一、一二四	四三〇
	同	、五五五	、八八八	、三五三	一五二	二四四	九四	七七三	一、二三九	四七六
同	同	一、〇〇九	二、八七七	、七四八	一一六	三三八	八六	六四五	一、八三七	四七七
	同	一、〇一九	二、八七七	、七五九	一一七	三三八	八六	六八二	一、八三七	四八四
江原道	同	〇、六〇三	〇、五三一	〇、二七九	一四七	一二七	六八	七七二	六六七	三五八
	同	一、六八五	〇、九六一	〇、六一二	四二	二三五	一四九	二、一五八	一、二三〇	七八三
同	同	四、六八八	八、一〇八	二、九六二	五七七	一、〇〇三	三六六	三、一〇九	五、四〇一	一、九七三
	同	九、二五三	八、〇八七	四、三三一	一、一四五	一、〇〇三	五三四	六、一六三	五、四〇一	二、八七八
咸鏡南道	同	〇、六九七	〇、七七七	〇、三六七	一三八	一五四	七三	七五三	八四〇	三九七
	同	一、五九二	一、三四二	〇、七二八	三一六	二六六	一四五	一、七二一	一、四五一	七八七
同	同	三、〇一九	五、一二三	一、九〇〇	二九四	四九九	一八五	一、七四〇	二、九五二	一、〇九五
	同	三、一〇三	五、一二三	一、九三三	三〇二	四九九	一八八	一、七九一	二、九五二	一、一二四

咸鏡北道	同	同	〇、四四四	〇、六六一	〇、二六六	六六	九四	三八	三三	四八〇	一九三
		同	一、〇五七	一、二九一	〇、五八一	一五一	一八四	八三	七六七	九三七	四二三
	同	同	二、三三八	四、一三七	一、四九四	一四四	二五五	九二	一一三	一、六一三	五八三
		同	二、三七六	四、一三七	一、五〇九	一四六	二五五	九三	九二七	一、六一三	五八九
平均	警察署所在地	同	、三四三	、四三六	、一八八	一四八	二〇三	八五	七三七	九九六	四一八
		同	、七四八	、七三二	、三八九	三二一	三四〇	一六〇	一、五八四	一、六六五	七八八
	同所在地外	同	二、二七四	三、二三九	一、三九〇	五八三	七六七	三三六	二、八八一	三、八〇五	一、六四三
		同	二、八一三	三、三一六	一、五二三	六六一	七九二	三五四	三、三四五	三、八五八	一、七七四
	平均	同	一、四〇七	一、九七三	、八二九	三六二	四八六	二六〇	一、八五六	二、五六八	一、〇五九
		同	一、七八〇	二、三八八	一、〇九〇	五一四	五八八	二六八	二、六二一	三、〇〇五	一、三七八
	道勤務ノ警部補及巡査ヲ包含シタルモノ	總平均	一、三三三	一、九八〇	〇、七九六	三一七	四七一	一八九	一、六六五	二、四六四	九九五
大正十三年	同	同	、三四八	、四七四	、一九八	一三八	一九九	八一	六四五	九八三	三七五
		同	、七二六	、七〇〇	、三六六	三〇六	三〇〇	一四三	一、四四一	一、四七七	七〇〇
	同	同	二、〇一四	二、七二五	一、一三七	四七九	五八七	二六三	二、四九九	三、〇八七	一、三六五
		同	二、二九七	二、八二四	一、二五七	五三〇	五九五	三四三	二、八二六	三、一四八	一、四六一
	同	同	一、三五三	一、八二四	、七四四	三三四	四三三	三〇二	一、七八八	二、二六〇	九七三
		同	一、九一八	二、〇一〇	、九七九	四四五	四八五	二五九	一、九五四	二、五〇一	一、一六三
	同	同	一、二五八	一、四九六	、七一三	三〇九	四一八	一六九	一、二九五	二、一七七	九一九

巡査一人當面積人口文書件數及犯罪件數負擔表

種別／道名	面積負擔率 内地人	面積負擔率 鮮人	面積負擔率 内鮮人	人口負擔率 内地人	人口負擔率 鮮人	人口負擔率 内鮮人	文書件數負擔率 内地人	文書件數負擔率 鮮人	文書件數負擔率 内鮮人	犯罪件數負擔率 内地人	犯罪件數負擔率 鮮人	犯罪件數負擔率 内地人
京畿道	六二九	九八六	三八四	一、三九八	二、一九〇	八五三	二、一二五	三、三二九	一、二九七	一一、四	一七、九	七、〇
忠清北道	一、四〇九	二、一七一	八五四	二、二四四	三、四五六	一、三六一	一、七五一	二、六九七	一、〇六三	七、四	一一、四	四、五
忠清南道	九七四	一、五四〇	五九七	二、一四〇	三、三八三	一、三一一	一、三五七	二、一四五	八三一	一〇、七	一六、九	六、五
全羅北道	九一六	一、四七五	五六五	二、〇五七	三、三一三	一、二六九	一、九九六	三、二一五	一、三三三	一三、五	二一、八	八、三
全羅南道	一、〇七三	一、七三五	六六三	二、三一一	三、七三六	一、四二七	一、三三一	一、九九二	七六二	一三、八	二〇、七	七、九
慶尙北道	一、三五〇	一、二〇二	八三七	二、三三七	三、八一六	一、四五〇	一、四一七	二、三二二	八七八	一三、五	三三、〇	八、三
慶尙南道	八八二	一、四二二	五四五	二、〇〇八	三、二三七	一、二四〇	一、六一七	二、六〇五	九九八	一三、七	三三、〇	八、四
黃海道	一、五四一	二、四九四	九五二	一、九三〇	三、一二三	一、一九三	一、三二一	二、一二一	八一〇	八、四	一三、六	五、二
平安南道	一、三九七	二、一九五	八五三	一、六二五	二、五五四	九九三	一、六一四	二、五三六	九八六	一〇、八	一六、八	六、六
平安北道	一、五六九	二、四二〇	九五二	一、一四四	一、七六四	六九四	一、一二九	一、七四三	六八五	六、〇	九、二	三、六
江原道	二、七〇七	四、〇七四	一、六二六	一、九〇三	二、八六四	一、一四三	一、七三二	二、六〇六	一、〇四一	八、六	一三、〇	五、二
咸鏡南道	二、五三六	三、五二六	一、四七四	一、五四四	二、一五一	八九九	一、一九四	一、六六三	六九五	六、〇	八、三	三、五
咸鏡北道	一、八五〇	二、四七〇	一、〇八五	七九六	一、〇六三	四五五	九二八	一、二三九	五三一	四、七	六、二	二、七
總計	一、四〇三	二、一六八	八五二	一、七四六	二、六九七	一、〇六〇	一、四九六	二、三一二	九〇八	九、九	一五、三	六、〇

五　文書及圖書

文書　警察事務の處理は本來の性質上文書に依らざるもの多く、加之警察署に於ては特に形式上書類を以てするを必要とするものにあらざる限り可成口頭申告の受理を奬勵しつゝあり從つて處理方法に於ても可成簡捷を旨とせるを以て事務に比し文書通數少し然れども文書件數は逐年益々增加するのみにして實に大正十二年に比し十二萬五千餘通を增加し更に制度改正前たる大正八年中に比較するときは四百五十九萬餘件を增加し居れり、斯の如く增加を示せるは畢竟警察事務の膨脹せる實證に外ならず從つて之に伴ひ文書處理に主として從事する內勤巡查警部補以上の定員を大正十一年に於て巡查百二十八人を增加し大正十二年中に八名を增加したるが大正十三年に於ては百四十四人を增員し一人一日の取扱件數の平均十二通にして大正十一年と同樣あり。

圖書及印刷物　警務彙報と稱する常識修養、執務參考資料、法令例規、和歌等を揭載せる約百三十頁の刊行雜誌を發行す其の部數每月二萬冊を下らず、其他朝鮮警察法令聚を發刊し警察及衞生に關する法令例規を加除訂正し得る體裁を以て編輯し爾後每年數回加除追錄を發行し實費を以て職員及希望者に頒ち居れり、其の他警察官必携朝鮮語須知警察綱要等執務參考の書籍を發刊せり。

以上の圖書は朝鮮警察協會本部に於て經營せるも事實上警務局就中警務課職員に於て本務の餘暇執務處理しつゝあるものにして尙發行の計劃中なるものあるが各道支部に於ても警務彙報類似の月刊雜誌其の他執務上參考の圖書を編纂發行せるもの少からず。

警察文書件數　（大正十三年中）

種別	文書件數					一ヶ月平均			一日平均			警部、警部補內勤巡查ノ數	同上一人一日ノ取扱件數
道名	收受 文書	收受 口頭	收受 計	發送	合計	收受	發送	計	收受	發送	計		
京畿道	一、二四三、二八一	二二六、三九六	一、四六九、六七七	一、〇九二、七五五	二、五六二、四三三	一二三、四七三	九一、〇六二	二一三、五三五	四、〇二六	二、九九〇	七、〇一六	四二八	一七
忠清北道	二四四、三五七	三、四七四	二四七、八三一	二五一、五五七	四九九、三八八	四六、六六八	三五、七九七	八二、四六五	一、五九二	一、二〇五	二、七九七	一六二	一七
忠清南道	四二五、一一五	一一、六四三	四三六、七五八	四五四、三三三	八九一、〇八一	三四、九七九	三七、〇四二	七二、〇二一	一、一九六	一、二三九	二、四三五	一七一	一四
全羅北道	五一二、一九八	七、八七四	五二〇、〇七二	七一一、八〇〇	一、二三一、八二三	四三、三三九	五八、三〇九	一〇一、六四八	一、四二四	一、九五〇	三、三七四	二〇一	一六
全羅南道	四七九、七九六	九、六五六	四八九、四五二	四九六、五四〇	九八五、九九二	四一、〇〇〇	四一、六七一	八二、六七一	一、三六三	一、四一〇	二、七七三	二三一	三
慶尙北道	六一五、七五〇	一五、七七三	六三一、五二三	六三〇、三三三	一、二六一、八五五	五二、六〇八	五二、五一六	一〇五、一二四	一、七六一	一、七二一	三、四八二	三二六	一一
慶尙南道	六八八、二一三	一一、二三〇	六九九、四四三	六六六、二四七	一、三六五、六九〇	五八、二八七	五五、五二一	一一三、八〇八	一、九一七	一、八二五	三、七四二	三四四	一一
黃海道	五〇四、三六〇	六、一三三	五一〇、四九三	六五一、〇一九	一、一六一、五一二	四二、五四一	五四、二五一	九六、七九二	一、三九九	一、七八四	三、一八三	三三六	一三
平安南道	五五八、三五四	一一、二五二	五六九、六〇六	五五二、〇〇一	一、一二一、六〇七	四七、四六六	四六、〇〇〇	九三、四六六	一、五六〇	一、五一二	二、〇七二	二一〇	一五
平安北道	五五七、七五八	七、八一三	五六五、五七一	五一五、三〇六	一、〇八〇、八七七	四五、四八三	四二、三五一	八八、一九四	一、五三八	一、四一一	二、九三九	一三〇	二四
江原道	五八五、九二八	一七、八八〇	六〇三、八〇八	六一二、五九九	一、二一六、四〇七	五〇、三〇五	五一、〇三九	一〇一、三四四	一、六六〇	一、六七八	三、三三八	三三三	一四
咸鏡南道	四四五、二九七	六、二七四	四五一、五七一	四六八、〇五四	九一九、六二五	三七、六三一	三九、〇〇四	七六、六三五	一、二三四	一、二七九	二、五一三	二五〇	一〇
咸鏡北道	三五五、八三一	五、四二七	四〇一、二五八	二八八、六八六	六八九、九四四	三三、四三九	二四、〇五七	五七、四九六	一、一〇一	七八八	一、八八九	二五七	七
總計	七、三五六、二三八	二四〇、八二五	七、五九七、〇六三	七、三九一、二一九	一四、九八八、二八二	六五六、五七九	六二八、六二〇	一、二八五、一九九	二一、七六一	二〇、七九二	三三、五五三	三、一六九	一三
大正十二年	七、二三〇、四五八	一三一、〇一七	七、三五一、四七五	七、八一三、九九四	一五、一六五、四六九	六一二、六三二	六五一、一六六	一、二六三、七八八	二〇、一四一	二一、四〇八	四一、五四九	三、〇二五	一三
大正十三、十二年比較增減	増 一二五、七八〇	増 一〇九、八〇八	増 二四五、五八八	減 四二二、七七五	減 一七七、一八七	増 四三、九五七	減 二二、五四六	増 二一、四一一	増 一、六二〇	減 六一六	増 一、〇〇四	増 一四四	減 一

六法令

大正八年八月朝鮮總督府警察官署官制廢止せられ之と同時に總督府令一三二號を以て元朝鮮總督府警務總長の命令を以て定めたる事項は朝鮮總督府令を以て定めたるものとせらる、即ち總督府令として依然効力を存續する事となりたり、故に元警務總監部の訓令、內訓、通牒等は當然失効せしものなるが斯くては事務取扱上甚しき支障を生するが故に其の內容に於て失効の取扱を爲すへき事項及大正十二年三月總監部訓令又は內訓を以て定めし取扱手續及心得の外は凡て該訓令通牒等に準據することゝし順次之れが整理をなしつゝありて改廢せられしもの少しとせず。

大正十三年中發布せし諸法令

記號　法令ノ件名要旨　發布月日

訓令　一　朝鮮總督府警察禮式　一月十六日

府令　九　警察署ノ名稱、位置、管轄區域改正ノ件　三月四日

訓令　四　朝鮮總督府警察操典中改正ノ件　三月二十七日

府令　一八　肺ジストマ病豫防ニ關スル件　四月三十日

告示　七七　朝鮮總督府醫院及道慈惠醫院收價規程中改正　四月十五日

勅令　九五　朝鮮總督府警察官服制中改正ノ件　四月二十三日

府令　二八　清涼飲料水及氷雪營業取締規則中改正ノ件　五月十七日

制令　三　傳染病豫防令中改正　六月二日

訓令　一二　巡査宿舍料支給ニ關スル土地ノ等級改正　六月二十八日

府令　四〇　朝鮮總督府巡査朝鮮總督府道巡査給與品及貸與品規則中改正　七月七日

訓令　一五　朝鮮總督府警察官服裝規則改正ノ件　七月七日

府令　四五　銃砲火藥類取締令施行規則　八月二十八日

府令　五〇　傳染病指定　九月六日

府令　五二　齒科醫師規則中改正　九月十五日

府令　五八　火藥類船舶輸送及貯藏規則中改正　九月三十日

訓令　二七　銃砲火藥類ニ關スル取扱手續改正　九月三十日

訓令　二三　朝鮮總督府道警察點檢規則中改正　九月十二日

訓令　二五　朝鮮總督府警察操典中改正　九月二十七日

府令　六二　警察署ノ名稱位置及管轄區域中改正　十月二十五日

府令　六六　十一月十二日　警察署ノ名稱及管轄區域中改正
訓令　二九　十一月二十日　朝鮮總督府道巡査配置及勤務規程中改正
府令　九四　十二月廿九日　警察署ノ名稱位置及管轄區域中改正
訓令　三〇　十二月十一日　朝鮮總督府巡査部長ニ關スル件中改正

七　警察職員

警察職員の數　警察職員は大正十二年四月行政整理の爲大正十一年增員したる警視內地人一、警部內地人八、警部補內地人一二、鮮人六人を減員し更に大正十三年十二月の行政整理に於て警視六、警部四六、警部補一三七、巡査二〇〇〇合計二千百八十九人減員したるを以て現在に於ける總員一萬八千四百四十五人なり此の外警察官吏にして警察事務に從事せるもの即ち警務局職員を始め各道に於ける技師港務醫官等を合せて現在一五三名なり。

進退　退職者は警察職員中巡査を以て大部分を占むるが採用當時素質及體格の選擇を嚴にし一面に於て待遇の向上を圖り他官署の職員に比し優れる給與を以てし採用後の指導監督敎養を勵行し改善に努め漸次優良の警察官を充當し居れるに依り輕佻浮薄の態度を全く脫し着實性を帶び著しく減少しつゝあり、別表に依れば前年に比し內地人七四九名鮮人七四六名を增加せるが右は行政整理に依るものにして病氣に依る免職事務都合に依る免職等何れも減し居るものなり

警察官の昇進は從前の經歷竝技倆に依り遲速ありて一定せずと雖判任文官以上の資格を有するものに至りては概ね採用後一年乃至二年にして巡査部長に昇進し更に一年乃至三年にして警部補に進み尙二年乃至五年にして警部に昇進するを通例とす而して判任文官たる資格を有せざるものに對しては試驗制度に依る即ち巡査部長試驗合格者を巡査部長に昇進し警部、警部補特別任用令に依る考試々驗合格者を警部補に任用し更に警部に任用せり現在の昇進者は此の試驗に依るもの大部分を占む而して昇進したる者の總數內地人二一五名鮮人三二名にして前年に比し行政整理に依り減少すべき筈なるに三十一名增加し居れり就中警視の定員內地人三十七名に對し警部より警視に昇進せるもの二十三名の多きを示せるが如き如何に新進登用に努め居れるかを示すものと云ふべし

死傷　警察官の死亡は其の總計百三十四名にして前年に比し二十七名增加せり而して其の病氣に依る死亡率は氣候風土の影響に依り內地人は鮮人に二倍し居れり

勤續年數　警察官中には制度改正前（少數なるも領事館時代より勤續せるものあり）より勤續せるもの及制度改正の際內地各府縣より出向に依るものあるも現在に於ては其の數比較的極めて少數にして制度改正に依る一萬三千八百十二人の增員及其の後退職に處する補充の爲め新規採用したる者大部分なるか殊に警部補の如きは從來其の制なかりしを以て何れも其の在職期間短き者を以て多數を占

む、別表は任地を問はず且つ在職期間は前職中の期間も通算したるものなるが尚五年未滿即ち誓約期間內の者大部分を占め、二箇年未滿の者の如き大正九年中內地人巡査は總員に對し七割四分にして鮮人巡査は八割七分を占む其の他の階級に於ても同樣在職期間短かゝりしが大正十二年末に於ては二年以上五年未滿のものを以て約二分の一を占め、短期間の者著しく減少したり、之等は一面に於て制度改正の影響の大なるを現實に示すと同時に一般に着實性を帶ぶるを認むべき證左たり、大正十三年末に於ては五年以上の者警部十一名警部補八十九名巡査一千九百二十二名を增し別表に示す如く五年以下の者に於て著しく減少し居れり

年齡別 警視階級には四十年以上の者最も多く警部、警部補級にありては三十年以上四十年迄の者巡査にありては二十五年以上三十年以下の者最も多し、而して內地人巡査に在りて三十年以下の者は總員五割を占め之に四十年以下の者を加ふるときは總員の六割を占む五十年以上の者は僅かに十七名に過ぎず、鮮人巡査は一層年齡若く三十年以下の者は總員中約七割弱を占め四十年以下の者を加ふるときは九割四分にして五十年以上の者は二名に過ぎず、斯の斯の如く朝鮮警察官は四十歲以下の壯年のみを以て充され居れりと言ふも過言にあらず

別表中各欄共前年に比し減少し居れるは行政整理に依り定員減少したるに依るものにして其の比率は昨年と大差なし

本籍別 內地人警察職員は鹿兒島縣出身最も多く九百六十一名に上り熊本縣、福岡縣、廣島縣、佐賀縣と相次ぎ大體に於て九州、中國方面の出身者多數なるが逐年增加の傾向なり反之出身者の少き地方は四國及近畿、北海道等にして奈良縣滋賀縣各三十餘名和歌山、香川の各八十餘名にして年々減少の傾向に在り

鮮人警察職員は生活關係により各本籍地の道巡査を志願するの傾向あり故に其の本籍別は概ね定員に比例し居れるも咸鏡北道は由來仕官する者少く現員四百三十三名に對し他道出身のもの九十一名(十分の二)に及び本道の者にして他道の職員たる者は巡査にて二名あるのみ

警務局職員定員表

(大年十三年十二月末現在)

警務局長	事務官 內地人	事務官 鮮人	技師	通譯官	屬 內地人	屬 鮮人	技手	通譯生	雇員	計
一	五	—	四	六	二〇	六	六	一	六二	一一〇

警察職員定員表

（大正十三年十二月末現在）

道名＼種別	事務官	警視 内地人	警視 朝鮮人	技師	港務醫官	獸醫官	警部 内地人	警部 朝鮮人	警部補 内地人	警部補 朝鮮人	港務醫官補	獸醫官補	技手	道巡査 内地人	道巡査 朝鮮人
京畿道	一	一〇	一	一	一		四四	二〇	八一	一六	一		五	一、一三四	九二四
忠清北道	一	一	一	一	一		一五	四	二七	八			一	二九三	二四四
忠清南道	一	一	一	一	一		一九	五	三六	九			一	五二〇	四一二
全羅北道	一	一	一	一	一		一九	五	三五	八			一	四六三	三七三
全羅南道	一	二	一	一	一		二七	六	四九	一四	一		三	七一八	五六八
慶尚北道	一	二	一	一	一		二八	六	五四	一五	一		一	七七七	六一五
慶尚南道	一	二	一	一	一		二九	六	五三	一四	一	二	一	七八四	六一三
黃海道	一	一	一	一	一		二三	六	四三	一〇	一		一	六〇三	四七六
平安南道	一	二	一	一	一		二三	六	四八	一四	一		一	六三〇	四八四
平安北道	一	二	一	一	一		二三	六	四八	一四	一		一	六八〇	四八四
咸鏡南道	一	二	一	一	一		二四	六	四八	一二	一		一	五三九	四五七
咸鏡北道	一	二	一	一	一		二五	七	四八	一六	一		一	八五九	五八八
總計	一三	三七	一二	一〇	一	一	三三三	九五	六一二	一七〇	六	二	三三	一〇、一三一	七、〇五七

巡査の勤務別

道名＼種別	巡査部長 内地人	巡査部長 鮮人	内勤 内地人	内勤 鮮人	外勤 内地人	外勤 鮮人	特務 内地人	特務 鮮人	刑事 内地人	刑事 鮮人	鮮人教習生	合計 内地人	合計 鮮人	總計
京畿道	一九九	一八	一八〇	五四	六三三	七二四	四三	三五	六〇	六四	—	一、一一五	八九五	二、〇一〇
忠清北道	七〇	四	五三	二四	一四九	一八四	一	四	一一	一五	—	二八三	二三一	五一四
忠清南道	一一〇	九	五九	一六	二六七	三二二	一三	二三	二	一三	—	四五一	三六二	八一三
全羅北道	九八	九	九七	三	二八一	三四三	一二	一八	一九	二〇	—	五〇七	四一一	九一八
全羅南道	二三三	一〇	一〇四	四三	二四五	四三三	一七	一	二二	二一	—	七〇九	五四〇	一、二四九
慶尚北道	一五六	九	一二八	四六	四五三	四九二	一七	七	一九	一七	—	七六六	六〇四	一、三八〇
慶尚南道	二二五	一三	一二八	三七	四六九	五六八	八	三	四九	三一	—	七六九	五八三	一、三五二
黃海道	一六三	一六	七八	三三	三三四	三八三	一四	一三	一一	一八	—	六〇〇	四六二	一、〇六二
平安南道	一六三	一三	七八	三五	三三四	三七八	二九	一四	一二	二八	—	六一六	四七八	一、〇九四
平安北道	二三五	二三	一三七	二七	三四五	三八五	一六	八	五二	三〇	—	七六九	五八三	一、三五二
咸鏡南道	一二三	一〇	九三	二九	四九二	五五五	一八	二	二一	二二	—	八〇二	五〇三	一、三〇五
咸鏡北道	一七〇	一四	九五	二五	四九二	五五五	一八	二	二一	二二	—	八〇二	五〇三	一、三〇五
總計	二、〇九五	一八七	一、三一一	四三一	六、〇四二	七、〇二六	一、一五七	八七五	一、一五三	一、〇二六	—	一九、九〇二	一二、六三〇	三一、五三二

警察官吏進退及死亡者表

（大正十三年十二月末）

官職名	内鮮人別	免職	依願免職 病氣	依願免職 家事都合	依願免職 其の他	依願免職 計	事務都合に依り休職	出向	在職中死亡 職務の爲	在職中死亡 其の他	在職中死亡 計	總計	昇進 警視に	昇進 警部に	昇進 警部補に
警視	内地人	—	一六	—	一七	三三	—	一七	—	一	一	五二	—	—	—
	朝鮮人	—	一	—	三	四	一	五	—	—	—	一〇	—	—	—
警部	内地人	—	二〇	三	五五	七八	—	一五	二	三	四	一〇一	二三	—	—
	朝鮮人	—	四	四	一五	二三	—	一	—	一	一	二九	三	—	—
警部補	内地人	—	三六	九	七三	一一八	一	八	二	五	七	一三四	—	八八	—
	朝鮮人	—	九	二	一〇	二一	—	一	一	—	一	二四	—	三〇	—
巡査	内地人	一〇九	四一五	一三九	一,〇一三	一,六七二	一七四	一二七	二〇	六三	八〇	二,一六〇	—	—	一〇八
	朝鮮人	三三	四四三	五一	九七六	一,七九二	一三二	一五	五	三五	四〇	一,九七九	—	五	二〇
總計	内地人	一〇九	四八七	一五一	一,一五八	一,九〇一	一七五	一六七	二四	七二	九二	二,四四六	二三	八八	一〇八
	朝鮮人	三三	四五七	五七	一,〇〇四	一,八四〇	一三三	二二	六	三六	四二	二,〇四二	三	三五	二〇
大正十二年	内地人	二六八	七六七	四三	六一	八七一	三〇二	一七九	一四	六〇	七四	一,六九七	一七	七〇	一三八
	朝鮮人	四三	五九八	一九	二五	六四二	一七二	一〇	一	三三	三三	一,二九六	四	一〇	一八
大正十二、十三年比較増減	内地人	減一五九	減二八〇	増一〇四	増一,〇九七	増一,〇三〇	減一二七	減一二	増六	増三	増一八	増七四九	増六	増一五	減三〇
	朝鮮人	減一〇	減一四一	増三八	増九七九	増一,一九八	減三九	増一二	増五	増四	増九	増七四六	減一	増二五	増二

警察上死傷せし人員表　其の一

（大正十三年中）

道名	内鮮人別	死亡 警部	死亡 警部補	死亡 巡査	死亡 人民其の他	死亡 計	負傷 警視	負傷 警部	負傷 警部補	負傷 巡査	負傷 人民其の他	負傷 計
京畿道	内地人	—	一	—	—	一	—	—	—	一二	—	一二
	朝鮮人	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	三
忠淸北道	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠淸南道	同	—	—	—	—	—	—	一	—	三	一	五
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全羅北道	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一三	—	一三
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	三
全羅南道	同	一	一	—	—	二	—	一	—	一三	—	一四
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	三	—	三
慶尙北道	同	—	—	一	—	一	—	—	一	一〇	—	一二
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
慶尙南道	同	—	—	一	—	一	—	—	—	六	三	九
	同	—	—	二	—	二	—	—	—	二	—	二
黄海道	同	—	—	—	—	—	—	—	—	七	一	八
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
平安南道	同	—	—	—	—	—	一	—	—	八	—	九
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二
平安北道	同	一	—	一七	—	一八	—	—	一	一〇	—	一二
	同	—	—	三	—	三	—	—	—	—	—	—

江原道	内地人	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二
	朝鮮人	—	—	—	一	一	—	—	—	一	三	四
咸鏡南道	同	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	四
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
咸鏡北道	同	—	—	一	—	一	—	一	—	一三	—	一四
	同	—	一	—	—	一	—	—	—	三	—	三
總計	同	二	二	二〇	—	二四	一	三	二	一〇〇	五	一一一
	同	—	一	五	一	七	—	—	—	二〇	三	二三
大正十二年	同	一	—	一三	一	一五	—	三	五	六五	一二	八五
	同	—	一	一	一六	一七	—	—	一	二三	一二	三六
大正十二、十三年比較増減	同	減一	—	増九	減一	増八	増一	—	減三	増三五	減七	増二六
	同	—	増一	—	減一五	減一四	—	—	減一	減三	減九	減一三

警察上死傷せし人員表　其の二

（大正十三年中）

種別	内鮮人別	死亡 警部	死亡 警部補	死亡 巡査	死亡 其の他	死亡 計	負傷 警視	負傷 警部	負傷 警部補	負傷 巡査	負傷 其の他	負傷 計
犯人捜査に際し	内地人	—	—	二	—	二	—	—	一	三四	—	三五
	朝鮮人	—	—	—	—	—	—	—	—	八	—	八
水火災防禦に因り	同	—	—	—	—	—	—	一	—	九	五	一五
	同	—	—	—	一	一	—	—	—	四	三	七
傳染病豫防救治に因り	同	—	一	二	—	三	一	—	一	五	—	七
	同	—	一	三	—	四	—	—	—	—	—	—
演武に因り	同	一	一	—	—	二	—	一	—	二七	—	二八
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	四
暴行者及發狂者取押に因り	同	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一
	同	—	—	一	—	一	—	—	—	一	—	一
人命救助に因り	同	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	二
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
匪賊討伐の爲め	同	一	—	一六	—	一七	—	—	—	七	—	七
	同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其の他	同	—	—	—	—	—	—	一	—	五	—	六
	同	—	—	一	—	一	—	—	—	三	—	三
總計	同	二		二〇	—	二四	一	三	二	一〇〇	五	一一一
	同	—	一	五	一	七	—	—	—	一〇	三	一三

警察官吏勤續年數表

（内地人）

（大正十三年十二月末現在）

年次／道名	京畿道	忠淸北道	忠淸南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	總計	大正十二年	大正十二、十三年比較
一年未滿 警視	三	一	—	三	二	一	—	一	一	二	一	二	三	二〇	一三	增七
一年未滿 警部	三	三	五	五	五	七	二	一	七	四	四	四	四	五四	六三	減九
一年未滿 警部補	一五	三	一一	一一	九	四	一〇	一〇	一〇	六	七	七	七	一一〇	一三八	減二八
一年未滿 巡查	五〇	一五	一七	三〇	二〇	四八	二三	二九	五〇	四九三	三二	七五	六二	九四三	一、四二三	減四八〇
一年以上 警視	一	—	—	—	—	一	一	—	一	—	—	—	一	五	二	增三
一年以上 警部	六	三	二	四	七	二	二	三	一	二	六	七	二	四七	二六	增二一
一年以上 警部補	一〇	一〇	七	四	一二	七	一〇	七	七	一四	一二	八	一二	一一七	九六	增二一
一年以上 巡查	一九四	五三	五三	八八	九三	一四一	一二一	八五	一二四	一三六	九三	一二四	一一六	一、四七九	一、九二六	減四四七
二年以上 警視	四	—	—	—	—	—	一	—	一	—	—	二	—	八	一一	減三
二年以上 警部	一六	三	七	五	八	九	一三	七	八	一五	一三	九	一三	一二四	一六八	減四四
二年以上 警部補	二五	八	七	九	一〇	一七	二〇	一三	一六	二四	二〇	二〇	九	一九七	三六五	減一六八
二年以上 巡查	四八〇	一〇八	一九九	二三一	二三〇	三四八	三四五	二八八	三一五	八六一	二六〇	三七〇	四〇〇	四、四三五	六、〇二六	減一、五九一
五年以上 警視	二	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	三	—
五年以上 警部	一一	五	四	三	六	七	一〇	七	七	七	四	四	五	八〇	六九	增一一
五年以上 警部補	一三	三	四	六	一一	一三	一三	一〇	三	一三	四	六	九	一一五	二六	增八九
五年以上 巡查	三三四	一〇三	一七六	一五五	二七〇	二三三	二六七	一九一	一三三	三五四	一四七	二三八	二〇四	二、七九四	八七二	增一、九二二
十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	減一
十年以上 警部	三	—	一	二	一	二	一	三	—	—	—	—	—	一三	二〇	減七
十年以上 警部補	二	—	—	—	一	—	—	一	—	—	—	—	—	四	五	減一
十年以上 巡查	二六	三	七	二	六	一四	一六	七	四	—	一	五	六	一九七	二〇九	減一二
十五年以上 警視	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一	—
十五年以上 警部	四	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	五	六	殘一
十五年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	一	—	增一
十五年以上 巡查	一八	一	—	四	—	二	六	—	二	—	—	—	一	三四	七二	減三八
二十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二十年以上 警部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	減二
二十年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二十年以上 巡查	一三	一	—	—	—	一	一	—	—	—	—	—	—	一六	四七	減三一
三十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三十年以上 警部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	減一
三十年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三十年以上 巡查	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	減三

警察官勤續年數表（鮮人）（大正十三年十二月末現在）

年次／道名	京畿道	忠淸北道	忠淸南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	總計	大正十二年	大正十二、十三年比較增減
一年未滿 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—
一年未滿 警部	一	三	二	—	—	—	一	—	三	—	一	二	—	一三	七	增六
一年未滿 警部補	一	二	—	一	一	二	三	二	三	三	一	三	一	二三	二一	增二
一年未滿 巡查	一三九	二六	六五	七四	八〇	八八	八七	六四	五八	五八	五七	五八	四一	八八五	一、二二二	減三三七
一年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	二	減一
一年以上 警部	一	—	—	—	一	—	—	—	—	二	三	—	一	八	七	增一
一年以上 警部補	四	一	一	—	五	一	一	一	—	五	二	一	—	二二	四〇	減一八
一年以上 巡查	一二四	三〇	六七	五五	一二一	八六	三六	六七	六三	一一三	八五	五六	八七	九六九	九三八	增三一
二年以上 警視	—	—	—	一	一	—	一	一	一	一	一	—	—	七	八	減一
二年以上 警部	七	—	二	二	三	二	一	二	—	五	—	四	一	二九	三八	減九
二年以上 警部補	六	二	六	四	三	八	六	一	八	四	二	四	一	五五	六一	減六
二年以上 巡查	三二四	八八	一三二	一六六	一六三	二五〇	三三九	一八四	一八九	三〇六	一一六	二〇三	一九六	二、四三五	四、一五二	減一、七一七
五年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	一	一	—
五年以上 警部	四	—	一	二	二	三	二	三	四	二	一	一	二	二七	三四	減七
五年以上 警部補	一	—	—	三	—	—	一	—	—	—	—	—	一	六	—	增六
五年以上 巡查	三一九	八五	一〇三	一〇七	一七四	一六三	二二四	一四二	一六〇	一六三	一八八	一八三	九七	二、一〇八	七六〇	增一、三四八
十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十年以上 警部	三	—	—	—	—	—	二	—	—	一	—	—	一	七	一一	減四
十年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	減一
十年以上 巡查	三七	三	六	一一	三	一七	一四	五	九	一〇	二	五	二	一五三	三九二	減二三九
十五年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十五年以上 警部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	減三
十五年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十五年以上 巡查	三七	—	—	—	—	—	三	—	一	—	二	—	一	四四	六九	減二五
二十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二十年以上 警部	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	—	增一
二十年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二十年以上 巡查	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五	一五	減一〇
三十年以上 警視	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三十年以上 警部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三十年以上 警部補	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三十年以上 巡查	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

警察官吏年齡別表（内地人）

（大正十三年十二月末現在）

道名	二十五年以下 警視	二十五年以下 警部	二十五年以下 警部補	二十五年以下 巡査	三十年以下 警視	三十年以下 警部	三十年以下 警部補	三十年以下 巡査	四十年以下 警視	四十年以下 警部	四十年以下 警部補	四十年以下 巡査	五十年以下 警視	五十年以下 警部	五十年以下 警部補	五十年以下 巡査	五十年以上 警視	五十年以上 警部	五十年以上 警部補	五十年以上 巡査
京畿道	—	—	—	一〇一	二	—	一二	四〇八	—	二四	四四	四八八	五	一九	一七	一一一	三	—	二	七
忠清北道	—	—	—	二九	一	—	四	一〇〇	—	八	一八	一三九	—	五	二	一五	—	—	—	—
忠清南道	—	—	—	二七	—	—	七	一九三	—	一四	一八	二〇六	—	四	四	二四	一	一	—	二
全羅北道	—	—	—	五一	—	—	七	二五〇	三	一三	二一	一八五	—	五	二	二四	—	一	—	—
全羅南道	—	—	—	一四三	—	—	六	二九八	一	一七	二五	二一四	一	二	六	五四	—	八	五	—
慶尚北道	—	—	—	八八	—	—	九	三三三	一	一五	二〇	三三七	一	一〇	一一	三八	一	三	—	一
慶尚南道	—	—	—	七二	—	—	一	二七七	—	一五	三八	三六〇	二	九	一三	五八	—	三	—	二
黃海道	—	—	—	六八	—	—	六	二三〇	—	一五	三〇	二六八	一	六	五	三四	—	—	—	—
平安南道	—	—	二	八二	—	—	七	二六二	—	一一	二〇	二一五	三	一一	六	五九	—	一	一	—
平安北道	—	—	—	三九一	—	—	一三	八九一	一	一四	三六	五九四	一	一四	九	六〇	一	—	—	三
江原道	—	—	一	七六	一	—	九	二三四	—	一七	二五	二〇五	—	七	七	一六	—	二	—	一
咸鏡南道	—	—	—	一〇五	—	一	五	三八一	二	一六	二三	二七八	二	七	四	三八	—	—	—	—
咸鏡北道	—	—	—	一〇一	—	—	六	四一三	—	一三	二三	二五一	四	一〇	七	二三	—	一	—	一
總計	—	—	三	一、三三四	四	一	九〇	四、二五八	八	一九二	三五〇	三、七三〇	二〇	一〇九	九三	五五四	六	二〇	八	一七
大正十二年	—	—	三	一、五〇一	—	二	七五	四、四六二	二	一八六	四二九	三、八七一	二五	一四四	一一二	六九一	一三	二三	一一	五一
大正十三、十二年比較増減	—	—	—	減一六七	増四	減一	増一五	減二〇四	増六	増六	減七九	減一四一	減五	減三五	減一九	減一三七	減七	減三	減三	減三四

警察官吏年齡別表（朝鮮人）

（大正十三年十二月末現在）

道名	二十五年以下 警視	二十五年以下 警部	二十五年以下 警部補	二十五年以下 巡査	三十年以上 警視	三十年以上 警部	三十年以上 警部補	三十年以上 巡査	四十年以上 警視	四十年以上 警部	四十年以上 警部補	四十年以上 巡査	五十年以下 警視	五十年以下 警部	五十年以下 警部補	五十年以下 巡査	五十年以下 警視	五十年以下 警部	五十年以下 警部補	五十年以下 巡査
京畿道	—	—	—	一五六	—	二	一	三〇四	—	三	一一	三五一	—	二	—	八二	—	—	—	二
忠清北道	—	—	一	六四	—	—	三	一〇六	—	三	一	六〇	—	—	—	一	—	—	—	—
忠清南道	—	—	—	八九	—	—	三	一七四	—	五	四	九七	—	—	—	二	—	—	—	—
全羅北道	—	—	一	一三五	—	—	一	一八四	一	二	六	九〇	—	二	—	四	—	—	—	—
全羅南道	—	—	—	二〇四	—	—	三	二三一	一	五	六	一〇八	—	一	—	七	—	—	—	—
慶尚北道	—	—	一	一九四	—	—	四	二六四	—	五	三	一四三	—	—	三	三	—	—	—	—
慶尚南道	—	—	—	一三三	—	—	五	二九四	一	五	六	一五七	—	一	—	九	—	—	—	—
黃海道	—	—	—	一一九	—	一	三	一九〇	—	四	一	一四五	一	—	—	八	—	—	—	—
平安南道	—	二	—	一一七	—	五	二	二三〇	一	—	九	一三五	—	—	—	七	—	—	—	—
平安北道	—	—	—	一四二	—	一	四	二七四	一	八	八	二一三	—	一	—	二一	—	—	—	—
江原道	—	—	—	一三〇	—	一	三	二一五	一	四	二	一〇〇	—	—	—	五	—	—	—	—
咸鏡南道	—	—	二	一一八	—	二	四	二四〇	—	四	二	一三三	一	一	—	一四	—	—	—	—
咸鏡北道	—	—	—	八二	—	一	—	二〇〇	一	三	三	一三一	—	一	—	二	—	—	—	—
總計	—	二	五	一、六七三	—	一三	三六	二、八九六	七	六一	六二	一、八五二	二	九	三	一七四	—	—	—	二
大正十二年	—	—	六	一、七一五	—	一六	四八	三、二八九	九	六七	六四	二、二一一	三	一七	五	二九八	一	—	—	五
大正十三、十二年比較増減	—	増二	減一	減四二	—	減三	減一二	減三九三	減二	減六	減二	減三五九	減一	減八	減二	減一二四	減一	—	—	減三

警察官吏本籍別表

（大正十三年十二月末現在）

府縣別	警察部長	警視	警部	警部補	巡査	合計	大正十二年
東京府	—	—	一一	七	一二五	一四三	一八五
京都府	一	一	七	一三	六七	八九	九一
大阪府	—	—	二	六	四五	五三	五四
神奈川縣	—	—	一	三	七九	八三	八三
兵庫縣	一	一	四	六	八七	九九	一一〇
長崎縣	一	二	四	一六	二七一	二九四	二七六
新潟縣	一	—	一三	一〇	一六三	一八六	二二〇
埼玉縣	—	—	—	七	九九	一〇六	一二六
千葉縣	—	二	一〇	一五	一八九	二一六	二五一
茨城縣	—	一	七	一〇	二八五	三〇三	三六三
群馬縣	—	一	一	五	一四八	一五五	一七四
栃木縣	—	—	五	三	一三一	一三九	一五〇
奈良縣	—	—	二	—	三八	四〇	四八
三重縣	—	—	三	三	九七	一〇三	一〇八
愛知縣	—	—	六	一一	一四〇	一五七	一七六
靜岡縣	—	一	三	八	一一六	一二八	一六二
山梨縣	—	一	二	七	一五〇	一六〇	一七六
滋賀縣	—	一	一	四	四〇	四六	四七
岐阜縣	—	—	五	五	一二三	一三三	一三四
長野縣	一	二	七	一四	三五九	三八三	三九六
宮城縣	一	三	一六	二三	三八七	四三〇	四七七
岩手縣	—	—	五	五	一二七	一三七	一四九
福島縣	—	—	一二	一八	二八〇	三一〇	三六〇
青森縣	—	一	一	六	六八	七六	九四
山形縣	—	一	四	九	一九三	二〇七	二三六
秋田縣	—	二	三	六	一四一	一五二	一七七
福井縣	—	—	四	六	九〇	一〇〇	九九
石川縣	—	一	五	一一	一〇〇	一一七	一四九
富山縣	—	—	六	一〇	九二	一〇八	一一八
鳥取縣	—	—	五	四	九一	一〇〇	一〇九
島根縣	—	一	六	八	一二七	一四二	一三二
岡山縣	—	三	一五	三二	四〇七	四五七	四三九
廣島縣	二	—	二一	二六	五一四	五六三	五四八
山口縣	一	二	一〇	二四	三八四	四二一	四二二
和歌山縣	—	—	二	七	八三	九二	九八

徳島縣	—	—	五	六	七三	八三	九七
香川縣	—	—	四	四	一三四	一四二	一三八
愛媛縣	—	—	四	九	一九四	二〇七	二三四
高知縣	一	一	二	六	二三七	二四七	二七五
福岡縣	—	三	一三	二六	五六五	六〇七	六三四
大分縣	—	三	一六	二三	三七六	四一八	四三五
佐賀縣	二	二	一六	二三	四九八	五四一	五四七
熊本縣	—	二	一七	四一	七〇三	七六三	八一七
宮崎縣	—	—	七	一三	三六六	三八五	四一二
鹿兒島縣	一	—	三〇	四三	八八八	九六二	一、〇四七
沖繩縣	—	—	—	一	一八	一九	一三
北海道	—	—	一	二	四三	四五	五三
合計	三	二八	三三三	五四四	九、九二八	一〇、八四六	一二、四九三

警察官吏本籍別表（鮮人）

道名	警視	警部	警部補	巡査	合計
京畿道	一	二五	二	八四六	—
忠清北道	—	四	五	二六五	—
忠清南道	—	四	八	四六九	
全羅北道	—	三	七	三四七	
全羅南道	一	四	八	五四八	
慶尙北道	一	四	八	六一二	
慶尙南道	一	七	一四	五八九	
黄海道	一	一	二	四三三	
平安南道	一	九	一四	五三八	
平安北道	一	一〇	一六	七〇二	
江原道	—	四	四	四五三	
咸鏡南道	一	一〇	七	五一四	
咸鏡北道	一	—	二	三四四	
合計	九	八五	一〇六	六、六四九	

朝鮮在勤警察官吏調査表

（大正十三年十一月五日現在）

役種別 ＼ 等級別		警察部長	警視	警部	警部補	巡査	計
豫備	將校	—	一	—	七	× 一二	× 一九
	准士官	—	—	—	二	× 一八	× 一〇
	下士	—	—	三	× 四三 五	× 三四九 五六	× 三九五 六二
	卒	—	—	—	× 一三 一	× 一、五九〇 四一三	× 一、六〇三 四一三

	後備				補充	歸休	計			合計	總計	現在員	現員ニ對スル百分比
	將校	准士官	下士	卒			將校	准士官	下士	卒			
一													
二													
三													
四													
五													
六													
七													
八													
九													
一〇													
一一													
一二													
一三													
一四													
一五													
一六													
一七													
一八													
一九													
二〇													
二一													
二二													
二三													
二四													
二五													
二六													
二七													
二八													
二九													
三〇													
三一													
三二													
三三													
三四													
三五													
三六													
三七													
三八													
三九													
四〇													
四一													
四二													
四三													
四四													
四五													
四六													
四七													
四八													
四九													
五〇													
五一													
五二													
五三													
五四													
五五													
五六													
五七													
五八													
五九													
六〇													
六一													
六二													
六三													
六四													
六五													
六六													
六七													
六八													
六九													
七〇													
七一													
七二													
七三													
七四													
七五													

備考　×印ハ國境警備勤務ニ從事シアルヲ以テ戰時召集ヲ猶豫スルノ必要アルモノヲ示ス

八　服務狀態

服務　職員就中巡査は各其の前歷系統を異にし動もすれば服務上融和統一を缺くの事例なきにあらざるも新規採用當時本府警察官講習所に於て所定の敎育を受けしめ固有の弊風を一掃し刷正に努め居れり、然れとも朝鮮は地理、民情、風俗、言語等內地の夫れと大に趣を異にするは勿論多數の住民中には徒らに舊韓國專政時代を追懷し全く時代の推移を理解せざる頑迷の兩班、儒生あり、或は所謂過激思想を妄信し唯た粗暴詭激の言を弄する分子あり、其の然らざるも一般に未だ敎育普及せざるを以て是非を識別するの能力を缺き徒らに古來の風習に囚はれ又は附和雷同する風あり或は施設の趣旨方針當局の指導保護等に付往々誤解し警察事務に對する了解甚だ稀薄なり、而已ならず警察職員の過半數が內地人なる爲朝鮮事情の不明、言語の不通に依る執行務の不徹底竝通信機關の設備不充分に加ふるに受持區域の廣袤なる等特殊の事情存在し、其の服務上困難且つ支障を告げつゝあるもの少なからず動もすれば努力に比し效果の伴はざるものあるは止むを得さる所なりとす。

日常の勤務に於ても國境警備、關稅事務、郵便護衞、執達吏事務、民事爭訟調停、林野保護、政府專賣品及漁業取締等警察事務以外にして法令又は制度上當然執行すべき特殊の事務を擔任せざるべからず、而已ならず助長行政の援助民智の開發、思想の善導に努力を要し地方事情に顧みては人事

相談事務、法令の傳達周知、談話會、講習會の開催、無料宿泊所、托兒所の監理、共同浴場融和會不就學兒童及地方民に對する夜學會の開設、口頭受付事項の擴張、駐在所に救急藥品を備付し施療の需めに應すること保安衞生組合等幾多の施設竝事項を擔當處理せざるべからず、斯くの如く地理民情風俗言語を異にし、加ふるに繁劇なる事務を擔任し、加之僻陬地に於ては生活上幾多の不便苦痛と無聊寂寞を感じ服務上の過勞困難は到底內地の比にあらざるなり。

紀律　一般思想界の變調に伴ひ警察官の紀律の肅正には頗る苦心努力せる處なるが格段の注意を拂ひ且つ嚴正なる監督を以てし苟も非行に對しては毫も假借することなく必罰の法に出て進て不良警察官の淘汰を斷行するの方針を以てせるに依り、懲戒免職の處分に附したる者巡査に於て內地人一〇九鮮人三二二人あり而して鮮人の懲罰犯者は內地人に比し三倍せり、然れとも之を前年度と比較するに內地人一五九人鮮人一一一人を減し更に之を大正九年に比較するときは五分の一以下に減少せるものとす。

懲罰事由は內地人は誓約違反最も多く職務拋棄威信失墜素行不修等相次ぎ鮮人は威信失墜、官規紊亂、素行不修等の事由に依る者殊に多數を示す、鮮人巡査の懲罰事由たる官尊民卑の因習に囚るゝこと多きに依るならんも亦一面に於て節制修養の不足に依るものなるを以て鮮人職員の指導監督には一層注意しつゝある處なり。

由來鮮人は些少の問題に對しても直に請願をなし又は他人を中傷讒誣する等徒らに請願投書を爲す習僻あり從つて其の爲す所概ね針小棒大に流るゝを常とす、殊に警察官吏の處置に對して一層此の聲を大にするの風あり又新聞記事にも同樣此の傾向ありて常に警察批難の記事を以てし紀律の馳緩を指摘しつゝあり。之等投書事項及新聞記事に對しては大小輕重の別なく毫も忽にせず嚴密調査の上嚴正に夫々處分し、紀律の肅正に意を注けるか其の多くは虛構のものにして眞に懲罰事由となるものは極めて稀なり、當局の嚴密なる處分に對しては一般に此の誠意を認めつゝあり。

職員中には前記の如く懲戒に處せらるゝ者相當多數あるも一般に不逞鮮人の檢擧勦滅には格段の努力を以てし、一旦事變あるに際しては士氣著しく高潮し勇敢且つ機敏にして能く上司の命を遵守する等其の行動は朝鮮警察の爲最も喜ぶべきことに屬す、警察官の職務上の死傷者の如き前年に比し殉職者十名負傷者二十九名增加せるも亦一證左たるべし、而して之等死傷者は常に鮮人より內地人に多し蓋し其の行動勇敢なるに外ならざるなり、尙殉職は匪徒討伐に依るもの大部分を占め負傷は犯罪搜查の場合多し今や社會狀態の著しき變遷世運の進步は益警察事務の繁劇を來し其の職員も日を逐ふて重きを爲すに至れるを以て、一層綱紀の肅正を期し之等美點の擧揚に努めんとするの意氣は朝鮮警察界一般に漲れる處たり、殉職者には夫々其の功績を厚く追賞するは勿論永遠な表彰の方法を講し又其の遺族に對しても救恤の方法を講し又負傷者に對しても治療費を給し其の待遇に努め

つゝあり。

大正十年四月警察協會主催にて京城に於て殉職警察官の招魂祭を盛大に執行したるを始めとして爾後毎年一回之を開催しつゝあるが各道に於ても同樣招魂祭を催し切に慰藉に努めつゝあり尙協會より相當の金圓を贈與しつゝあるを以て家族に至る迄當局の厚意に感激し警察官の志氣に惡しき影響を及ぼすこと絶對になし。

巡査の勤怠　巡査の執務は一般官廳の例に依るを本則とするも外勤巡査は警察署に在りては隔日勤務駐在所は日曜祭日等を休日とせず七日間に一日の休日を與ふ、然れとも犯罪捜査、警戒査察、戸口調査等事務の性質上非番執務甚だ多く規定の休日を得ることは相像外に少きを普通とし時に依りては數十日に亘り連日不眠不休の勤務に從事することあり殊に國境勤務警察官の多くは全然休日なき過重の勤務を繼續する狀態にあり。

巡査には六箇月皆勤に對し七日間一箇年皆勤に對し二十一日間の休暇を附與することを得るの制を設け各人の願出に對し事務に支障なき限り附與せり、此の休暇は皆勤者に對する恩與たると同時に精勤を奬勵するの意に出たるものにして皆勤者は當然此の恩與に浴するものなるか、巡査の多くは止むを得ざる事情の生せざる限り休暇を要求せざるの狀態なるを以て比較的休暇日數少く而も特勤日數を以て相殺するときは寧ろ過勤の狀態に在り、休暇及缺勤者（特勤に依り相殺せざるもの）は全道に於て一日間内地人三六二人鮮人三三一人の休暇缺勤者あり之を年末現在員に對比するに一箇年中一人に付平均十三日餘の率を示せり。

以上の休暇缺勤率は前年と大同小異なるが茲に注目すべきは前年に比し缺勤日數俄然減少し休暇日數を增加せることゝす。

警察賞與　警察官の勤務は不眠不休の努力を要求し職責上冱寒氷上或は炎熱砂上に連日連夜活動せざるべからざる場合あり而も銃火の上に立つこと屢々ありて其の勞苦尠少ならざるなり故に警察官に對しては犯人逮捕、匪賊討伐、人命救助、水火災惡疫流行其の他天災地變に對する防禦救濟、猛獸「ヌクテー」の捕獲等にして其の功勞特に顯著なる場合道知事より警察賞與を行ふ、警察賞與は（イ）賞狀、（ロ）五十圓以下の賞與、（ハ）五十圓以上五百圓以下の特別賞與の三種にして大正十二年中に於ける受賞者の數は平安北道に於て七百五十四人金額三千七百九十二圓賞狀二百四十三人咸鏡南道に於て三百十三人金額一千六百一圓賞狀六十二人咸鏡北道に於て百三十二人金額八百三十九圓賞狀十七人なり而して右賞與せられたる事實は犯人逮捕、匪賊討伐其の大部分を占む。

功勞賞　警察官中其の行動勇敢功勞拔群にして一般警察官吏の模範たるべき者に對しては嚴密なる審査を遂げ功勞賞を附與して之を表彰す功勞賞に對しては月額五圓を給與せり。

其の他の恩賞

（イ）國境方面勤務の警察官には一箇月の勤務に對し一箇月半の恩給期間を加算するの特典あり。

（ロ）職務の爲傷痍を受け又は職務上疾病に罹りたるものに對しては療治料として一日二圓以內（若し二圓を超過するときは實費）を支給す。

（ハ）在職中死亡したる者に對しては弔祭料を支給す、弔祭料は死亡當時に於ける月俸一箇月分とし之に勤續一年以上九年に至る迄一年を加ふる每に死亡當時に於ける月俸額三分の二を增加するものなるが以上の外前記療治料を受くる原因に依り死亡したる者に對しては月俸六箇月分を增加して支給す。

以上の通警察官優遇の途を講しありと雖匪徒の爲死傷したる警察官吏は別表の通多數なるに拘らず未だ之に對する恩賞の制度なし大正十年以來匪徒に依る被害官吏に對する給與金支給に付攻究中なるも、本件恩賞の實施は單に殉職者に對する同情に止まらず一般警察官吏の士氣振興上多大の好影響を齎すものなるを以て之が實施を急ぎ居れり。

功勞賞の授與　警察官の行動勇敢にして其の功勞拔群の成績を示し眞に一般警察官吏の模範たるべき受賞者の數は內地人三千二百九十六人鮮人四千三百一人にして現員に對し內地人は百分の二十四、鮮人は百分の四十三の割合なり。賞與額は內地人二萬七千餘圓に達せり受賞の種別は犯人逮捕又は檢擧に依るもの最多く匪徒討伐之に次ぎ此の兩者の合計は總計の約八割を占む。

ものに對しては最嚴密なる審査を遂げ功勞賞を附與して表彰す。功勞賞に對しては月額金五圓を給與するの外或は感狀を授與し或は物品を贈與する等其の表賞に付ては最考慮を拂ひあり。

功勞記章は大正八年七月全羅北道巡査石川宗四郎に對し附與せられたるを始めとして大正十年五名大正十一年九名大正十二年三名大正十三年三名合計二十一名にして之が官職別は警部五名警部補一名巡査十五名なり更に內鮮人別にすれば內地人十七名鮮人三名なり左に大正十三年附與されたる功勞事實の概要を摘記すべし。

功勞賞授與者功績

平安北道警察部勤務
朝鮮總督府道警部　金　惠　基

右ハ大正九年八月道巡査ヨリ道警部補ニ昇任大正十一年一月道警部拔擢セラレ頭書勤務被命平素格勤ノ處大正十一年十月以來北京ニ於ケル義烈團長金元鳳ハ團員ヲ鮮內ニ潛入セシメ爆彈ヲ密輸入シ官公署ノ破壞及官公吏ヲ殺戮セントスル大陰謀ヲ企畫セルヲ探知シ爾來寢食ヲ忘レテ之レカ內偵捜査ニ從事シ日子ヲ費スコト數ケ月其ノ間或ハ身ヲ窶シテ安東及奉天ニ於ケル諜報機關タル危險分子ノ間ニ身命ヲ賭シテ出入シ或ハ北京天津上海ノ各地ニ密偵ヲ派シ內偵査察上具ニ艱苦ヲ嘗メ遂ニ三月十二日午後六時安東發南行列車ニテ金始顯、金世震、黃鉉及權東三ノ四名カ金團長ヨリ受ケ入レタル爆彈及拳銃ノ內爆彈十八個拳銃五挺ヲ携ヘ京城ニ向ヒ尙殘餘ノ爆彈十八個其ノ他不隱文書ヲ安東縣洪鍾祐方及新義州若竹町趙東根宅ニ隱匿シ五月中旬ヲ期シ一齊ニ鮮內樞要ノ官公署ノ破壞及官公吏ノ暗殺ヲ實行スヘク劃策セル事實ノ確證ヲ得ルニ至レリ而シテ之レカ檢擧ニ際シテハ徹宵苦心熟慮遂カニ京畿道ニ手配ヲ爲スト共ニ自己ハ安東ニ於テ新義州署及安東警務署員ノ應援ヲ求メ犯人ノ潛伏家屋タル安東六道溝洪鍾祐方ニ向ヒ身ヲ挺シテ眞先ニ突入シ不意ヲ襲ヒ洪鍾祐白英武趙東根及趙英子ノ四名ヲ逮捕シ爆彈十個不隱文書六百九十一歩ヲ押收續テ新義州若竹町趙東

根方ニ於テ爆弾八個ヲモ押收シ得タリ而シテ京畿道ニ於テハ前記手配ニ依リ一味金始顯黃鉉以下十名ヲ逮捕スルト共ニ爆弾十八個拳銃五挺ヲ押收セリ惟フニ如叙戰慄スヘキ義烈團ノ大陰謀ヲ根底ヨリ破壞シ一網打盡ニ犯罪ヲ檢擧シ得タルハ一ニ金警部ノ平素不屈不撓ノ努力ト事ニ當リ豪膽ニシテ周到機敏ナル行動トニ依ルモノニシテ其ノ功勞拔群一般ノ龜鑑トスルニ足ルモノト認ム

平安北道文興警察署勤務
朝鮮總督府道巡査　木村忠吾

右ハ大正十二年五月十五日江界郡高山面延上洞附近ノ山中ニ五六名ヨリ成ル匪賊ノ一團潛伏セル情報ニ接シタルヨリ之レカ捜査討伐ノ命ヲ受ケ巡査部長寺崎常次外三名ト共ニ同日文興警察署ヲ發シ險峻ナル山路ヲ晝夜兼行强行捜査ヲ續行スルコト四日間ニ亘リ目的地ニ到着シタルカ更ニ得ル所無ク加之身體ノ疲勞甚シク一行ノ志氣動モスレハ消衰セムトスル時木村巡査ハ假令賊團ニ遭遇スルコトナキモ渠等ノ逃路ニテモ探知セムコトヲ主張シ隊員ヲ激勵セル折柄高山面延上洞禿魯江ノ對岸ニ筏夫ノ服裝ヲ爲シタル擧動不審者一名徘徊セルヲ發見セルヲ以テ檢問ノ爲メ朴巡査一名ヲ同伴シテ先發柳田渡船場ヲ渡江シタルニ兩巡査ノ近クヲ見ルヤ被疑者ハ上流ニ向ヒテ歩ヲ進メタルニヨリ急速追跡セシニ渠ハ僅カノ地物ヲ利用シテ逃走漁雷面豐清洞河清場部落内ニ奏ヲ晦シタリ然レトモ兩巡査ハ此怪シキ行動ニ力ヲ得テ更ニ駈歩ニテ追跡シ河清場部落ノ西場獨立家屋ノ附近ニ差懸リタルニ突如一名ノ鮮人現ハレ俄然モーゼル拳銃ヲ發射シツヽ大聲ニテ「日本巡査カ來タ擊テ」ト叫フヤ四、五名ノ賊ハ屋外ニ飛出シ各地物ヲ利用シテ其ノ場ニ散開猛射セリ時ニ彼我ノ距離僅カニ約百五十米地形我ニ甚シク不利ニシテ彈雨危險極マリナク而モ我射擊効ヲ奏セサルヲ以テ木村巡査ハ朴巡査ニ後ヨリ援護射擊ヲ爲サシメ自己ハ彈丸雨飛ノ下ヲ潛リ約五十米ノ地點ニ肉迫地物ヲ得テ應戰中突然一名ノ賊木村巡査ノ左側四十米ノ處ニ現ハレ地物ニ據リ猛射ヲ爲スヲ以テ朴巡査ヲ激勵シテ之レニ當ラシメ自己ハ前面ノ賊ニ肉迫シ奮闘約十分賊ハ漸次退却ニ移リタルヲ以テ益々勇ヲ鼓シ其ノ退路ヲ絶ツヘク賊ノ左側三十米突ノ地點ニ進出射擊セシニ斃發ニシテ賊一名ヲ殪シ更ニ殘黨ヲ見廻ス刹那一名ハ何時シカ背後五、六米突ノ地點ニ肉迫セルヲ發見シ之レニ對向應射セントセシカ既ニ彈丸盡キテ如何トモ詮術ナク身ヲ挺シテ奮然所持セルモーゼル拳銃ヲ振リ上ケ賊ノ後頭部ヲ目蒐ケ一擊ヲ加ヘタルニ頭骨破碎シ其ノ儘絶命セリ此ノ狀況ヲ目擊セル殘黨ハ何時シカ山林深ク遁走遂ニ奏ヲ晦マシタリ此交戰約四十分木村巡査ノ行動ハ實ニ死生ノ巷ニ處シテ用意周到而カモ豪膽ニシテ機敏克ク寡ヲ以テ衆ヲ挫キタルモノニシテ其ノ功勞拔群以テ一般ノ龜鑑トスルニ足ルモノト認ム木村巡査ハ大正九年十月道巡査拜命高山鎭署ハ文興署ニ併合セラル）被命平素恪勤勵精事ニ當リ勇敢機敏ニシテ匪賊討伐ノ功依リ表彰セラレタルコト既ニ四回ニ及ヒ居ル者ナリ

盈德警察署長沙警察官駐在所勤務
朝鮮總督府道巡査　寺川明德

右ハ大正十三年六月九日午後五時長沙警察官駐在所ニ於テ主席村瀨巡査及吳巡査カ二名ノ不審者取調中拳銃ヲ以テ抵抗シ村瀨巡査ハ右大腿部及右上膊部ニ貫通銃創ヲ吳巡査ハ右下腿部ニ貫通銃創左大腿部ニ盲貫銃創右肩胛部ニ擦過銃創ヲ受ケ搏闘中ナル急報ニ接シ不取敢現場ニ駈付ケタルニ忽チ賊ノ爲左手示指ニ貫通銃創ヲ受ケタルモ屈セス村瀨巡査ノ組付ケル賊ニ飛付キ其ノ拳銃ヲ奪取セムト努メタルモ却テ賊彈ノ爲更ニ右大腿部ニ貫通銃創及右膝關節部ニ盲貫銃創ヲ受ケタリ玆ニ於テ賊ノ精銳ナル兇器ト頑强ナル必死ノ抵抗ニ對シテハ武器ヲ以テスルニアラサレハ到底目的ヲ達シ得サルノミナラス却ツテ賊彈ニ殪レ終ニ賊ヲ逃走セシムルニ至ルヘキ危機ニ迫リタルヲ想ヒ走リテ自宅ニ護身用拳銃ヲ求メ引返シタルニ村瀨巡査竝搏闘中ノ賊ハ其ノ場ニ在ラサルニ付先ツ吳巡査ト搏闘中ノ賊ヲ射殺シ更ニ轉シテ他ノ一名ノ賊ヲ追跡セル村瀨金兩巡査ノ應援ニ向ヒタルニ途中村瀨巡査カ鮮血ニ塗レ昏倒セル慘狀ヲ目擊シ俄ニ力落チ同時ニ傷部ノ激痛ト疲勞ヲ感シ一時其ノ場ニ躊躇シタルモ斯クテハ金巡査ノ安否モ判明セス若シ賊ヲ逸走セシムルカ如キコトアラムカ同僚ノ貴重ナル犧牲モ水泡ニ歸スルノミナラス自己ノ職責ヲ完フスル所以ニアラサルヲ痛感シ更ニ渾身ノ勇ヲ鼓シ稍々前進セシモ三ケ所ノ重傷ト極度ノ疲勞トニ堪ヘ兼ネ遂ニ其ノ場ニ昏倒シタリ然レトモ其ノ剛勇ト熾烈ナル責任觀念トハ暫時ニシテ本人ヲ蘇生セシムルニ至リ再ヒ起チテ銃聲ヲ尋ネテ跡漸クニシテ追付金巡査ト協力賊彈雨飛ノ中ニ危險ヲ冒シ奮戰苦闘更ニ左膝關節部ニ負傷セシニ不拘遂ニ殘黨ヲ斃スニ至リタリ此ノ交戰約一時間寺川巡査ノ行動ハ實ニ死生ノ巷ニ處シテ用意周到而モ剛勇果敢克ク其ノ職務ヲ完フシタルモノニシテ功勞拔群以テ一般ノ龜鑑トスルニ足ル

精勤者　巡査にして品行方正職務に勉勵し事務及語學熟達し滿三年間勤續したる巡査に對しては道知事より精勤證書を授與す、本證書授與者に對しては精勤加俸支給の制ありて內地に於ては已に實施中なるが朝鮮に於ては單に其の計畫にありて尙未だ支給し居らず。而して現任巡査は制度改正後採

用したる者多きを以て三年以上の勤續者比較的少く從つて之を授與せられたる者亦少なかりしが前年に入りて制度改正後の者と雖三箇年以上の勤續者を生じ尚鮮語修習の奬勵と相俟つて遽かに增加するに至り大正十三年末現在內地人二千二百四十四人鮮人千七百二十九人に達し之を前年度に比較するに內地人三百七十九名鮮人十五名を增加せり。

援助事務　朝鮮に於ては內地と事情を異にする關係上警務機關に於て助長行政其の他の事務に對し援助を爲しつゝある事項甚だ多し蓋し最下級機關たる面長の職務執行は尚未だ幼稚の域を脫せず到底內地に於ける町村長の比に非ざるが故に自然助長行政事務に關し其の依賴多く警務官憲も亦進んで之に應じ來りたる因習に依るものなり、而して之等援助事務に關し地方人民の警務機關に對する信賴は頗る深甚にして一般に警察官憲の指示命令は確實に遵守し其の效果を收むる上に於て多大の便宜を得るの實情なりとす故に可成助長援助するの方針にあるも同時に其の範圍を脫し或は當該官憲との連絡協調を缺ぎ本末を顚倒するが如きは絶對なからむを期しつゝあり。援助事務として主なる事項は道路修築、山林監守、國境地方關稅事務取扱、徵稅害虫驅除、產業奬勵、副業及貯金の奬勵不就學兒童の敎養、靑年會等の指導、漁業取締等にして此等は警察本然の事務以外に於て其の實施に關與し之れを援助しつゝあるものなり左に重なるもの二三項に付き其の狀況を述べむとす。

關稅は主として豆滿江及鴨綠江流域に沿へる國境地帶に於ける關稅事務を警察機關（警察署、駐在所）に於て取扱ふ。

森林に關する事務中盜伐火災等警察の任務上當然警防すべき事項は勿論援助事務として害虫の驅除を奬勵し森林の育成に關する事項に付道廳郡廳等と氣脈を通じ援助に當るの外山林監視を補助するの任に當れり。

農耕上に關する援助としては道廳郡廳の施設趣旨に依り之と連絡を保ち種子の精撰苗代の設置及手入堆肥の製造施肥の方法害虫驅除收穫時の乾燥方法等に至る迄之が普及と奬勵とに勗め特に害虫驅除に付重きを措き其の勵行を援助せり。

副業として養蠶、養蜂、養豚、養鷄、草鞋又は叺の製造等を奬勵し一面此等の收入に依り得たる利益を濫費するの弊を矯正すると同時に一般に勤儉貯蓄思想の涵養に努め貯金奬勵の援助を爲し巡査の內には其の成績の優秀なる爲遞信局長より感謝狀を受けたるものあり從つて貯金を爲す者の數は各地方共遞增の現況に在り。

不就學兒童の敎養は駐在所に於て些少の設備を爲し其の經費は概ね警察官に於て負擔し職務の餘暇（夜間）之に當るものにして一般に敎育熱勃興せる今日無上の歡迎を受けつゝあり。

檢事々務　地方法院支廳中檢事の配置なき支廳に於ける檢事々務は朝鮮總督府訓令第十三號に依り所轄地方法院檢事正の要求に基き警視又は警部をして該事務を取扱はしむ檢事々務取扱の箇所は京畿

道驛州外二十四箇所にして事件受理の合計大正十二年中一萬二千二百十六件にして內六百件以上を取扱へる箇所は忠淸南道洪城外十箇所あり之等の署にありては事件取調法廷の立會を爲す等の爲警察本務に夥しき支障を生じつゝあるが其の他の署に於て同じく少からざる手數を要し本務の忙殺に加ふるに一層の繁劇を以てし職務執行に至大の影響を及ぼし專任檢事の配置を要望して止まざるなり。

民事爭訟調停事務　明治四十三年制令第十一號を以て民事爭訟調停に關する件公布せられ裁判所所在地外の警察署長は二百圓を超過せざる金錢の債權又は價格に拘らず住家其の他の建物若は物品の引渡又は不動產疆界等に關する紛爭事件に付之が調停を爲すことゝなれり。

本制度は手續簡略取扱敏速にして多くの費用を要せざるが故に正式に裁判所に出訴するの煩に堪へざるが如き少額の債權者其の他の爭訟者にとりては頗る便宜なりとし歡迎せられつゝあり而して之が運用に付ては調停に際し强制を避け當事者の自由意思に任ずべきは勿論當事者雙方の主張の內容地方の習慣其の他事體の眞相を知るに力め以て雙方の主張を尊重し專ら圓滿なる調停を遂ぐるの方針を採らしめつゝあり其の結果として事件調停後に於ては之が履行に關し强制執行の手段に依るが如きこと殆んど稀にして多くは債權者に於て調停成立後進んで義務を遂行するの狀況なり別表中不成立件數比較的多きが如きも其の多くは申請調停前當事者間に於て圓滿なる和解を爲したるもの多く則ち間接に調停の目的を達したるものとす。

執達吏事務　朝鮮に於ては交通不便又は其の他の事情に由り內地に於けるが如く專務執達吏を置く能はざるを以て京城始め都市各所に於ける特例を除き殆んど警察官吏に於て取扱ひつゝあり然るに本制度實施の初めに於ては法令の普及せざると一般に其の手續に通曉せざりし爲申請件數極めて尠く之が執行に當りても往々被執行者の誤解を招き妨害を受くる等の事ありしと雖法令其の他の手續周知せらるゝに從ひ執達吏は債權者の權利の實行保全等に必要なる機關たることを漸次感知するに至り執行官吏も能く其の事務に習熟し執行上支障を釀す等の事例尠きに到れり。

警察上褒賞表

（內地人）　（大正十三年中）

種別	警部		警部補		巡査		人民		計	
	賞詞	賞金人員	賞金額	賞詞	賞金人員	賞金額	賞詞	賞金人員	賞金額	賞金額
犯人逮捕又は檢擧	一	六	七九・〇〇円	一四	六一	五九八・〇〇円	三四五	一、八九二	五、二六六・七五円	六、〇七六・七五円
人命救助	一	二	四七・五〇	二	二	四七・五〇	二三	一二七	三三五・六〇	一、一〇七・九〇
火災豫防	一	二	三九・〇〇	一	一	三九・〇〇	四五	一九三	七二四・八〇	三九・〇〇
害獸捕殺及捕獲	一	一	三九・〇〇	一	一	三九・〇〇	四	四	三九・〇〇	三九・〇〇
犯人逮捕を容易ならしめ又は助力	一	一	二〇三・〇〇	一	一	二〇三・〇〇	二	二六	二〇三・〇〇	二〇三・〇〇
匪賊討伐	二	二	七八・〇〇	一四	一九	三四一・〇〇	一二四	三一二	五、〇六〇・四〇	五、四八〇・四〇

警察上褒賞表

（朝鮮人）

（大正十三年中）

種別	警部賞詞	警部賞金 人員	警部賞金 金額	警部補賞詞	警部補賞金 人員	警部補賞金 金額	巡査賞詞	巡査賞金 人員	巡査賞金 金額	人民賞詞	人民賞金 人員	人民賞金 金額	計賞詞	計賞金 人員	計賞金 金額
犯人逮捕又は檢擧	一	一九	七七・〇〇	五	三三	一八一・七〇	三三一	二、二二九	五、五四七・九〇	八	七二	一九〇・五〇	三四五	二、三五二	六、〇九七・一〇
人命救助	—	—	—	—	一	一〇・〇〇	二九	九八	三〇九・七〇	一〇九	七二二	二、一五三・五〇	一三八	八二一	二、四七三・二〇
火災豫防	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	一	二・〇〇	七	一	二・〇〇
害獸捕殺及捕獲	—	—	—	—	—	—	—	一	三・五〇	—	三七一	二、〇三六・九〇	—	三七二	二、〇四〇・四〇
犯人逮捕を容易ならしめ又は助力	—	—	—	—	—	—	—	一	二〇・〇〇	四	五七	一五四・五〇	四	五八	一七四・七五
賊徒討伐に勇敢なる行動又は助力したるもの	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
匪賊討伐	—	三	一〇五・〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六	一七六	二、九六〇・八〇
水災豫防	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八	三・〇〇
傳染病早期發見及救治	—	六	七六・〇〇	—	六	三八・〇〇	四九三	二、三七九	一〇、八〇二・二五	四七	二五〇	一、一三六・八〇	五六五	二、七三一	一三、一九七・五五
其の他	—	—	—	—	—	—	三六三	二、〇〇四	六、九一一・七〇	五三	三二〇	一、三五九・五〇	四三八	二、四八八	一〇、二七二・七〇
總計	二	一四	二三三・〇〇	二三	八八	一、〇二五・五〇	四九三	二、三七九	一〇、八〇二・二五	四七	二五〇	一、一三六・八〇	五六五	二、七三一	一三、一九七・五五
大正十二年	三	三九	一、〇五三・五〇	一九	一二五	九四八・〇〇	三六三	二、〇〇四	六、九一一・七〇	五三	三二〇	一、三五九・五〇	四三八	二、四八八	一〇、二七二・七〇
大正十二年十三年比較增減	減一	減二五	減八二〇・五〇	增四	減三七	增七七・五〇	增一二七	增三七五	增三、八九〇・五五	減六	減七〇	減二二二・七〇	增一二七	增二四三	增二、九二四・八五

種別	傳染病早期發見及救治	通信機關復舊の爲	其の他	總計	大正十二年	大正十二、十三年比較增減
犯人逮捕又は檢擧	—	—	—	—	一	—
人命救助	—	—	—	—	二三	增一七
火災豫防	一	—	—	一	一八七・〇〇	增六七・〇〇
害獸捕殺及捕獲	五・〇〇	—	—	五・〇〇	五	增一二〇・〇〇
犯人逮捕を容易ならしめ又は助力	—	—	—	—	五三四	—
賊徒討伐に勇敢なる行動又は助力したるもの	—	—	—	—	二二	增一三
匪賊討伐	—	—	—	—	一九三・七〇	增一二〇・二〇
水災豫防	一	—	—	一	三六六	增八〇
傳染病早期發見及救治	—	—	—	—	二八六	增五九四
其の他	—	—	—	—	二、五二〇	八、八八三・九〇
總計	一	—	—	一	二八六	增三、四一七・二〇
大正十二年	二・〇〇	—	—	二・〇〇	一二八	減一一
大正十二、十三年比較增減	—	—	—	—	一、二二四	增二二三
犯人逮捕又は檢擧	一〇	—	—	一〇	一、〇〇一	減四〇・二〇
人命救助	—	—	—	—	四、五七九・六〇	增六九
火災豫防	—	—	—	—	五〇〇	增一三
害獸捕殺及捕獲	四四・〇〇	—	—	四四・〇〇	三、八〇一	增八三八
犯人逮捕を容易ならしめ又は助力	—	—	—	—	一三、八〇四・〇〇	增三、六一七・二〇
賊徒討伐に勇敢なる行動又は助力したるもの	—	—	—	—	一〇、一八六・八〇	
匪賊討伐	—	—	—	—	五三・〇〇	
水災豫防	—	—	—	—	—	

巡査精勤證書授與者調表

（大正十三年十二月末現在）

道名	授與者 前年ヨリ越員 内地人	授與者 前年ヨリ越員 朝鮮人	授與者 本年授與 内地人	授與者 本年授與 朝鮮人	授與者 計 内地人	授與者 計 朝鮮人	授與者の内 轉出死亡 内地人	授與者の内 轉出死亡 朝鮮人	授與者の内 辭職 内地人	授與者の内 辭職 朝鮮人	授與者の内 免職沒收 内地人	授與者の内 免職沒收 朝鮮人	授與者の内 計 内地人	授與者の内 計 朝鮮人	轉入及再勤 内地人	轉入及再勤 朝鮮人	年末現在 内地人	年末現在 朝鮮人
京畿道	二九〇	三二五	五二	三七	三四二	三六二	二三	七	八三	九三	二	五	一〇八	一〇五	二四	一三	二五八	二七〇
忠清北道	五一	五六	五七	一七	一〇八	七三	一〇	五	一四	三二	—	—	二四	二七	七	四	九一	五〇
忠清南道	一〇〇	一三三	三二	一一	一三二	一四四	一〇	四	三〇	四五	—	一	四〇	五〇	三	二	九五	九六
全羅北道	一三七	一二一	九九	四五	二三六	一六六	二〇	四	三二	三一	三	三	五五	三五	五	二	一八六	一三三
全羅南道	二〇一	二二八	一〇二	七一	三〇三	三〇〇	一八	一〇	五一	八四	三	一四	七二	一〇八	九	七	二四〇	一九九
慶尙北道	九六	一二八	四〇	二一	一三六	一四九	一三	九	二六	四五	—	一	三九	五五	一一	四	一〇八	九八
慶尙南道	二七九	一七四	七二	三三	三五一	二〇七	二五	一一	三四	一二	—	二	五九	二五	一六	七	三〇八	一八九
黃海道	一三〇	八八	一〇三	七〇	二三三	一五八	一八	七	三三	二七	一	二	五二	三六	七	四	一八八	一二六

巡査懲罰表

（大正十三年）

道別	種別	内地人 免職	内地人 減俸 人員	内地人 減俸 金額	内地人 譴責 人員合計	朝鮮人 免職	朝鮮人 減俸 人員	朝鮮人 減俸 金額	朝鮮人 譴責 人員合計
京畿道		二三	四五	四二六、〇〇 円	一三	四〇	六二	四三一、〇〇 円	二五	一二七
忠清北道		一	一〇	三三、八六	三	二	一三	四七、八九	四	二八	九〇
忠清南道		一〇	二〇	一〇五、九五	四	二九	一四	六三、八〇	八	一七	五一	三五
全羅北道		一二	一七	九二、九五	二	二九	一四	六三、八〇	八	一七	五一	三五
全羅南道		二	一九	一〇八、五七	八	三二	一四	六三、八〇	八	一七	五一	三五
慶尚北道		二	一三	一七二、六〇	八	三二	一四	六三、八〇	八	一七	五一	三五
慶尚南道		一五	一六	一三〇、八五	一五	四六	二四	九四、〇四	一六	六〇
黄海道		一五	二四	一三五、八八	一四	五三	三八	一〇一、一三	九	一〇〇
平安南道		六	一四	三九、三九	一五	五六	二六	六二、四〇	六	八五
平安北道		五一	五六	一、二七三、七〇	一〇	三一	一四一、一六	六九	六	六九	六〇	二
江原道		五	一三	六六、三〇	一二	三一	一四一、一六	六九	六	六九	六〇	二
咸鏡南道		二〇	三一	一五五、〇五	一二	三一	一四一、一六	六九	六	六九	六〇	二
咸鏡北道		二五	二六	四五三、四〇	一二	三一	一四一、一六	六九	六	六九	六〇	二
總計		一五五	一六	一三〇、八五	一五	四六	二四	九四、〇四	一六	六〇
大正十二年	減	二六八	五三八	四、〇五二、五九	一四二	九四八	三〇九	三、四九六、九八	一三七	一、一六九	二七三
大正十二、十三年比較	增減	六三	二三五	八五八、〇九	二二	三〇九	一〇八	三、一九四、五〇	二二	八九六

巡査懲罰事由表

（大正十三年）

種別	内地人 免職	内地人 減俸 人員	内地人 減俸 金額	内地人 譴責 人員合計	朝鮮人 免職	朝鮮人 減俸 人員	朝鮮人 減俸 金額	朝鮮人 譴責 人員合計
職務拋棄	三七	七	三六、九〇	五	三八	三	一九、〇〇	四一
誓約違反	五九	—	—	四	—	—	—	—
素行不修	二七	二七	二八、七〇	—	一〇八	一三	八〇、九七	五九
官紀紊亂	三三	五六	六六、三八	一四	二五	一四	六九二、八七	一四九

巡査休暇及缺勤調表

（内地人）　（大正十二年十二月末現在）

種別 / 道名	現員及勤務延人員	休暇日數 病氣	休暇日數 其の他	缺勤日數 合計	一日平均人員	現員に對する百分比
京畿道	一、一二四、四〇三、三七四	五、九二六	三、二四五	五、五三六	四〇・二	一三・一
忠清北道	二八三、一二四、二一〇	一、五一三	二、一三四	一、八一二	一四・九	一九・四
忠清南道	四五一、一七四、三三五	二、五七四	三、三五二	一、〇八三	七、〇〇九	一五・五
全羅北道	五一〇、一七六、四六四	二、八二八	二、九一四	二、六八〇	八、三三六	一六・三
全羅南道	七〇九、二六九、九〇四	三、五二八	四、六二七	三、三四九	二一、五一四	一六・七

種別 / 道名	現員及勤務延人員	休暇日數 病氣	休暇日數 其の他	缺勤日數 合計	一日平均人員	現員に對する百分比
慶尚北道	七七六、二七九、八八五	四、七六五	四、一四	二、六四四	一一、五二三	一四・八
慶尚南道	七七三、三〇一、三六三	三、九六四	四、三五九	一、九二六	一〇、二四九	一三・二
黄海道	六〇三、二一〇、三六〇	二、八三七	三、九六七	一、八五四	八、六五七	一四・三
平安南道	六一八、二二六、八三五	二、九三八	三、四九六	二、四六八	八、九〇二	一四・〇
平安北道	一、九五九、六〇〇、六七四	五、九四五	五、八一四	六、五八七	一八、三四六	五〇・〇
江原道	五三二、二一四、〇三三	二、八八九	三、四七五	二、七〇〇	九、〇六四	二四・九
咸鏡南道	八〇二、二八八、四一四	三、二〇六	三、九七九	二、八八三	九、八六八	二七・八
咸鏡北道	七八九、二八一、六三五	二、四五三	三、二六四	二、九一四	八、六三一	二三・六
總計	九、二八、一、四九六	四五、三七五	四八、六七四	三八、三一五	一三二、二六四	一三・三
大正十二年	三、五三七、三七九	四三、四八〇	四三、四八四	四七、九八四	一三四、〇三八	一三・六
大正十二、十三年比較增減	增 二九、九一七	增 一、八〇五	增 六、一八五	減 一、七七四	減 五・二	增 ・七

巡査休暇及缺勤調表

（朝鮮人）　（大正十三年十二月末現在）

種別 / 道名	現員及勤務延人員	休暇日數 病氣	休暇日數 其の他	缺勤日數 合計	一日平均人員	現員に對する百分比
京畿道	三三三、六二〇 八九五	五、七五三	二、六五七	三、六七七	三一、一	一三・五

種別 / 道名	職權濫用	職務怠慢	威信失墜	監督不行屆	義務違反	瀆職	其の他	總計
京畿道	三	九	三八	—	一	七	一	二〇四
忠清北道	二	一一七	五七	—	三三	二	六	三一七
忠清南道	六〇、七七	一、一五八、六三	四三、四一	—	五三、二五	四、九五	五〇、七六	三、二三、七五
全羅北道	四	六二	七	—	一七	一	九	一二三
全羅南道	一九	一八八	一〇三	—	五一	一六	九	六四三
慶尚北道	八	一二	五三	—	一〇	六	二	三〇七
慶尚南道	二六	一五〇	七五	—	四六	五	二	四二四
黄海道	二〇、六五	八二七、一一	四五六、五〇	—	三六五、四五	二一、五一	二、九六	二、五七、一二
平安南道	一	五三	一三	—	一七	四	一	一一〇
平安北道	二五	二一五	一四一	—	七三	一五	一五	八四一
江原道	一	五三	一三	—	一七	四	一	一一〇
咸鏡南道	一	五三	一三	—	一七	四	一	一一〇
咸鏡北道	一	五三	一三	—	一七	四	一	一一〇
總計	六〇、七七	一、一五八、六三	四三、四一	—	五三、二五	四、九五	五〇、七六	三、二三、七五
大正十二年	六二	一八八	七五	—	四六	一七	九	六四三
大正十二、十三年比較增減	增 一八	增 三〇	增 一〇	—	減 一	減 一	減 一	減 一

忠清北道	二三二	一〇六、五一四	一、三四一	一、八五二	六六四	三、八五一	一〇・五	一六・五
忠清南道	三六二	一四〇、二四一	一、七四七	一、九五七	六六二	四、三六六	一一・九	一二・一
全羅北道	四一一	一四七、〇四九	二、五二七	二、五九六	一、四九〇	六、六一三	一八・一	一六・一
全羅南道	五四〇	一九八、八一一	二、六四三	二、九三六	一、五九七	七、一七六	一九・六	一三・二
慶尙北道	六〇四	二二七、〇四六	三、二七八	三、七二二	一、六六一	一、六六一	二三・七	一四・三
慶尙南道	五八三	一九三、九七三	三、〇〇七	三、二三〇	一、三七〇	七、六〇七	〇・八	一三・〇
黃海道	四六二	一七六、六四五	二、七七一	二、三三三	九九九	六、一〇三	一六・七	一三・二
平安南道	四七八	一七二、八三五	二、四七三	一、八九七	一、三九七	五、七六七	一五・八	一二・一
平安北道	七一一	二二八、九四五	二、三〇〇	一、六九六	一、二七六	五、二七二	一三・六	七・四
江原道	四四九	一九五、三六二	二、九五五	三、一四四	一、三九八	七、四九七	二〇・五	一六・六
咸鏡南道	五〇三	一七九、二〇一	二、一四一	一、五一一	九八一	四、六三三	一二・六	九・二
咸鏡北道	四二四	一五七、九五三	一、九五三	一、〇五二	八六一	三、八六六	一五・九	九・一
總計	六、六五四	二、四四八、一九五	三四、八八九	三〇、五八三	一八、〇三三	八三、四九九	二三一・八	一二・五
大正十二年	二、五五〇、〇〇四	二、五五〇、〇〇四	三四、二六七	三一、二四二	一九、二九〇	八四、七九九	二三二・三	一一・二
大正十二、十三年比較增減	減 一〇一、八〇九	增 六二二	減 六五九	減 一、二五七	減 一、三〇〇	減 五	增 一・三

民事爭訟調停事件累年比較表

年次	受理件數	既濟 成立	既濟 不成立	既濟 取下	既濟 移送	既濟 却下	既濟 其の他	既濟 計	未濟
大正七年	六、二八八	二、三四二	一、五四一	二、二九二	一	一七	八	六、二〇一	八七
大正八年	四、二四六	一、二三六	一、一五一	一、七五〇	—	二五	一八	四、一八〇	六六
大正九年	四、五一六	一、四九四	一、三八九	一、五三七	—	一〇	一四	四、四四四	七二
大正十年	五、一六二	一、八九一	一、二九六	一、八三四	—	五	七六	五、一〇三	五九
大正十一年	四、二一四	一、四五〇	九九九	一、二一四	三三	六	四九一	四、一九三	二一
大正十二年	四、四九六	一、七四九	一、三一九	一、三六五	一	七	二二	四、四六三	三三
大正十二、十一年との比較增減	增 二八二	增 二九九	增 三二〇	減 一五一	減 三二	增 一	減 四六九	增 二七〇	增 一二

執達吏事務取扱件數累年比較表

年次	區分	受理件數	既濟 執行	既濟 取下	既濟 不能	既濟 計	未濟
大正七年	內地人及外國人	二、二八四	一、七六三	四〇四	七七	二、二四四	四〇
	朝鮮人	二四、二四七	一五、一八九	六、三三九	一、三七五	二二、九〇三	一、三四四
	計	二六、五三一	一六、九五二	六、七四三	一、四五二	二五、一四七	一、三八四

大正八年	內地人及外國人	一、六一六	一、二〇八	二二一	一六六	一、五九五	二一
	朝鮮人	一八、六三九	一一、四九三	三、九九九	二、五五七	一八、〇四九	五九〇
	計	二〇、二五五	一三、七〇一	四、二二〇	二、七二三	一九、六四四	六一一
大正九年	內地人及外國人	二、三六二	一、四九四	四八三	二〇二	二、一七九	一八三
	朝鮮人	一五、〇九九	九、〇八五	三、三八五	一、三三八	一三、八〇八	一、二九一
	計	一七、四六一	一〇、五七九	三、八六八	一、五四〇	一五、九八七	一、四七四
大正十年	內地人及外國人	三、五三四	二、一九七	七三〇	四五九	三、三八六	一四八
	朝鮮人	二五、二〇二	一六、〇九八	四、八一五	二、九三六	二三、八四九	一、三五三
	計	二八、七三六	一八、二九五	五、五四五	三、三九五	二七、二三五	一、五〇一
大正十一年	內地人及外國人	三、〇三七	二、〇四一	六八六	二八八	三、〇一五	一二二
	朝鮮人	一八、五八九	一三、二二二	二、九七五	二、四三八	一七、六三五	九五四
	計	二一、七二六	一四、二六三	三、六六一	二、七二六	二〇、六五〇	一、〇七六
大正十二年	內地人及外國人	三、四二〇	一、八三一	一、一一九	三七七	三、三二七	九三
	朝鮮人	一七、三七五	一〇、四三七	三、九一二	一、九六七	一六、三一六	一、〇五九
	計	二〇、七九五	一二、二六八	五、〇三一	二、三四四	一九、六四三	一、一五二

九　警察官の教養

教養方法　朝鮮警察の現狀に鑑み警察官に對する教養の必要なるを認め新規採用の巡査に對しては警察官講習所又は各道教習所の教養機關を設け實務上の基本となるべき所要の學術科を教養し現に實務に從事せる警察官に對しては教養規程を設け法令、普通學、語學、實務講習、修養訓話、操練、武術捕繩術、體操、水泳、船舶、信號法、艦船の識別、方法及操船術等を理論を避け實用を主として各階級に應じ職務執行上必要なるものを一週間四回四時間以上道警察部長及警察署長をして教養せしむ之等現任巡査の教養は日常の劇務に追はれ豫定の實施を期し難き憾なきにあらざるも各道及各署何れも實施を競ひつゝある狀況なり、現任警察官に對しては部署に於ける教養の外警察官講習所に各道警察官の幹部を毎年召集し九ヶ月乃至一ヶ年を一期とせる長期の講習を爲すを始めとし其の他刑事、會計、銃砲火藥等の短期間講習を實施せり又各道に在りても之等特種科目の講習を實施し居れるが此の外內地の警察講習所に開催さるゝ特種科目の講習會に派遣しつゝあり斯の如く積極的に教養に努むるの外警察協會に於ては毎月警務彙報を發刊し修養の資に充ても各道に於ても亦類似の修養冊子を發刊し或は巡回文庫の設置新聞雜誌の講讀勸誘自修促進の試驗施行等各種の施設を爲し教養の徹底を圖れり。

鮮語の修得督勵　鮮語の修得は最も必要の事項なるを以て警務局に於て鮮語必携なる小冊子を發刊し常に携帶せしめ以て自習を促し或は朝鮮語に限り特に教養時間を定め教育し或は定期試驗を行ひ其の成績表を昇給の資料に充つる等諸種の方法を設け其の成績優秀者には一ヶ月一圓乃至二十圓の月

手當又は鮮語奬勵規程に依り五圓以上五十圓迄の手當を給する等其の奬勵に努力したる結果現在警察官は殆ど大正八年以降のものなるに拘らず鮮語を全く解せざるものは警部二名警部補三名巡査一〇二名計一〇七名にして百分の一強に過ぎず前年に比するも著しき減少にして今や殆ど自用を辨せざる者なき程度に進みつゝあり、朝鮮人警察官の國語は一般に巧にして會話通譯に差支なき者のみにして自用を辨せざる者一名もなし、然れ共内地人の鮮語と相俟つて鮮人の國語も亦須要なるが故に内地人巡査と同樣に試驗の上優秀者に手當を給せり。

教養機關　警察官吏養成の機關として京城に警察官講習所あり各道に巡査教所習あり制度改正前の教養機關は警務總監部の一分課として警察官練習所を設け所長以下小數の兼務教官を以て一期の定員五十名とする内地人巡査の教習及警部以上に對する短期間の教養を實施したるに過ぎさりしか大正八年八月警察制度改正と共に警察講習所官制發布せられ朝鮮總督の管理に屬する獨立の官府とし所長以下教授四名助教授五名書記二名其の他講師囑託等の職員を置き教務に大改善を加へ百二十坪の二階建寄宿舍一棟及百十坪の二階建教室一棟其の他附屬建物の新增築模樣替修繕等を行ひ引續き大正十年度に於て更に寄宿舍其の他の新築增築等を行ひ設備既に完全せり、本所は講習科教習科の二科を置き講習科は更に本科及別科に分ち本科は現に監督者たり又は將來監督たらしめむとするものに對し一ヶ年を一期とし毎期百名を收容し教習科は初任内地人巡査に對し四箇月を一期とし毎期四百名乃至五百名を收容し教科内容に洗練を加へ必要と認むる訓育教養を施し素質の向上を圖り居れり、各道に於ける教習所は道警察部に之を置き初任鮮人巡査の教養機關に充て教習人員は缺員に應じて採用し三ヶ月乃至四ヶ月を教習期間とし各道警察部の職員を以て教官に充てあり。

教習期間は内鮮人共三ヶ月若は四ヶ月を以て一期とするを原則とせるも内地人に對しては五ヶ月若は六ヶ月に延長せんとす、教習科目は概ね訓育、法學大意、警察法、刑事法、衞生大意、執達吏事務、消防、朝鮮事情（内地人に對してのみ）朝鮮語（朝鮮人に在りては國語）警察實務點檢禮式及操練武道にして其の終業期間の終りに於て卒業試驗を行ふ試驗は各科目四十點以上平均六十點以上を以て及第とし及第に至らざる者に對しては更に次の教習期間に教習を行ふことゝせり、尚採用前の個人的習慣を脫せしむる爲常住座臥最も嚴正なる紀律の下に生活することを慣熟せしむるの要あるを以て全部寄宿舍に收容し一般官吏服務紀律を格守せしむべきは勿論生徒心得を定め之に依準せしめ紀律觀念の徹底を期しつゝあり。

素養程度　は警察官中巡査の教育程度は内地人に在りては小學校卒業者程度大部分にして總員に對し百分の七十七に相當せり、小學校を卒業せざる者百分の三あるも前年に比し百十三名を減し又鮮人に在りても普通學校卒業者最も多數を示し書堂教育に過ぎざる者總員の七九一名ありて多數を示せるも昨年に比するに四四六名減少し内鮮人共何れも漸次學校教育を受けたる者增加の傾向にあり。

巡査の募集　巡査の採用は內地人にありては警察官講習所長に於て朝鮮人巡査にありては各道知事に於て之を行ふ蓋し面積廣大南北に於ける氣候風土の差異著しき朝鮮は內地人巡査の募集は之を各道に委するも經費を嵩むるのみにて到底要員を補充する能はず而已ならず鮮內の應募者のみにては不足なるに付內地に於て募集す即ち三縣乃至四縣を一募集區域に定め樞要の都市を試驗場所に選定し試驗期日と共に新聞紙に廣告し募集官一名乃至二名を派遣し約一ヶ月間滯在の豫定にて一區域百名乃至二百名を限度として採用す、鮮內に於ては每月一回（第三日曜日）警察官講習所に於て採用試驗を行ひ採否決定の上時期を定めて之を入所せしむ、鮮內募集一期の入所人員は概ね五十名位に過ぎざるも內地鮮內共に近來應募者增加し常に採用人員に三四倍するの狀況にあり從つて採用に選擇の餘裕ありて缺員補充上些の支障なく其の素質も益々向上しつゝあり、朝鮮人巡査の應募者に於ても常に過剩し採用人員に對し七八倍すること尠からず之が採用試驗は各道警察部に於て行ふの外志願者の便宜を計り管下各警察署に試驗を委託して行ふも他道に於て募集する等のことなし。

巡査教育程度表

（內地人）　（大正十二年十二月末現在）

種別／道名	小學校 卒業	小學校 在學	中學校 卒業	中學校 在學	中學程度の學校 卒業	中學程度の學校 在學	專門學校 卒業	專門學校 在學	高等程度の學校 卒業	高等程度の學校 在學	普通文官裁判所書記試驗合格	其の他
京畿道	八五一	三三	三三	七八	一四	七六	四	八	—	四	二三	—
忠淸北道	二一五	七	九	二七	一一	一〇	—	—	—	一	三	—
忠淸南道	三七六	一六	六	三〇	六	一二	一	—	—	—	四	—
全羅北道	三九五	一八	一〇	三六	一四	二九	二	三	—	—	三	—
全羅南道	六一四	一〇	一五	三六	九	一二	二	五	一	一	四	—
慶尙北道	六〇九	二一	二六	四一	二三	五一	一	一	—	一	二	—
慶尙南道	七一八	二四	一六	五〇	一三	三九	三	二	—	—	七	一
黃海道	四九〇	二三	一二	三四	一〇	三二	二	二	—	一	二	—
平安南道	四八三	五	一九	三八	一八	四三	七	二	—	—	三	—
平安北道	一、四八三	八一	三一	一三九	八七	九五	七	九	一	四	二	—
江原道	四三九	一三	五	三一	七	三三	一	—	—	—	三	—
咸鏡南道	六一九	二二	一七	七五	一七	四九	—	—	—	一	二	—
咸鏡北道	五九四	二九	二〇	六三	一七	五七	一	五	—	—	三	—
總計	七、八八六	三〇二	二一九	六七八	二四六	五三八	三一	三七	二	一三	六一	一
大正十二年	八、一八三	四一五	二三四	八〇〇	二三七	五五三	三〇	四一	五	一六	六〇	二
大正十二、十三年比較增減	減二九七	減一一三	減一五	減一二二	增九	減一五	增一	減四	減三	減三	增一	減一

巡査教育程度表

（朝鮮人）　（大正十三年十二月末現在）

種別／道名	學校に通學せざりしもの	普通學校 卒業	普通學校 在學	高等普通學校 卒業	高等普通學校 在學	中學程度の學校 卒業	中學程度の學校 在學	高等程度の學校 卒業	高等程度の學校 在學	普通文官裁判所書記試驗合格者
京畿道	八八	五七四	一〇〇	六	四四	二七	五七	一	五	—
忠清北道	二〇	一七五	二六	—	一	四	六	—	—	—
忠清南道	一五	三一四	一二	一	六	三	一〇	—	—	一
全羅北道	九	三六九	二二	—	三	二	八	—	—	—
全羅南道	八四	四一六	二三	—	一	五	一一	—	—	—
慶尙北道	五四	四八六	四五	一	一三	三	六	—	—	—
慶尙南道	二〇	四九〇	四三	—	五	五	一五	—	—	五
黃海道	六三	二九八	六九	—	五	八	一九	—	—	—
平安南道	六八	三〇三	四五	四	一八	一二	二七	—	一	一
平安北道	一三四	四二四	五三	二	五	一五	一七	—	—	—
江原道	六四	三二二	五一	—	一	二	一〇	—	—	—
咸鏡南道	三三	三五四	八八	三	七	七	一二	—	—	—
咸鏡北道	一三九	二二六	三二	二	七	三	一五	—	—	—
總計	七九一	四、七五一	六〇九	一九	一一六	九六	二一三	一	六	七
大正十二年	一、二三七	五、〇五八	七六九	一六	一三〇	九七	二二七	二	四	九
大正十二、十三年比較增減	減 四四六	減 三〇七	減 一六〇	增 三	減 一四	減 一	減 一四	一	增 二	減 二

にて手當を支給す、然れとも豫算の關係上實際の支給平均額は三圓六十六錢餘に過きず、非番勤務

警察官吏語學能率調査表

諺譯通譯に堪能なるもの

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	計 内地人	計 朝鮮人
京畿道	二	一七	一六	二二	二九	二九七	四七	三三六
忠清北道	二	三	一	五	一四	九六	一七	一〇四
忠清南道	一	五	二	七	九	一四三	一三	一五三
全羅北道	二	四	七	八	二六	一四四	三五	一五六
全羅南道	三	六	七	九	一八	二三一	二八	二四六
慶尚北道	六	五	八	一一	四五	二七七	五九	二九三
慶尚南道	三	六	五	一〇	一八	一七〇	二六	一八六
黄海道	五	五	七	四	五四	一三五	六六	一三四
平安南道	四	七	三	一一	三二	二七六	三九	二九四
平安北道	七	一〇	九	一二	三八	三一六	五四	三三八
江原道	三	四	四	五	二四	一六七	三一	一七六
咸鏡南道	—	七	四	八	一九	一三七	二三	一五二
咸鏡北道	三	五	五	三	二〇	一一四	二八	一二二
總計	四一	八四	七八	一〇五	三四六	二、四九三	四六五	二、六八二
大正十二年	四〇	九九	六五	一一八	二八四	二、八三五	三八九	三、〇五二
大正十二、十三年比較増減	増一	減一五	増一三	減一三	増六二	減三四二	増八〇	減三七〇

諺譯は成し得るも通譯充分ならさるもの

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	計 内地人	計 朝鮮人
京畿道	一	—	二	—	二三	九七	二六	九七
忠清北道	—	—	—	—	一七	三六	一七	三六
忠清南道	三	—	三	—	三八	六四	四四	六四
全羅北道	四	—	五	—	三	二三	一二	二三
全羅南道	六	—	七	—	二九	二八	四二	二八
慶尚北道	四	—	六	—	七一	一四九	八一	一四九
慶尚南道	四	—	一二	—	一八	三八	三三	三八
黄海道	四	—	一	—	三一	八六	三六	八六
平安南道	二	—	七	—	三〇	三四	三九	三四
平安北道	二	—	四	—	五六	六三	六二	六三
江原道	三	一	四	—	二三	八三	三〇	八四
咸鏡南道	一	—	一	—	二〇	四三	二二	四三
咸鏡北道	三	—	一	—	一九	四二	二三	四二
總計	三七	一	五三	—	三七八	七八六	三六七	七八七
大正十二年	四五	一	三三	三	三七七	八一七	四九四	八二〇
大正十二、十三年比較増減	減八	—	増二〇	減三	増一	減三一	減一二七	減三三

通譯に差支なきも諺譯充分ならさるもの

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	計 内地人	計 朝鮮人
京畿道	—	—	七	—	一一八	三七一	一二五	三七一
忠清北道	—	—	一	—	四三	七〇	四四	七〇
忠清南道	—	—	八	—	五〇	一四一	五八	一四一
全羅北道	四	—	七	—	一〇六	二三〇	一一七	二三〇
全羅南道	一	—	五	—	九七	二五八	一〇三	二五八
慶尚北道	四	—	九	—	一一〇	一六九	一二三	一六九
慶尚南道	一	—	九	一	一二一	三一七	一三一	三一八
黄海道	三	—	五	—	九二	二〇九	一〇〇	二〇九
平安南道	—	—	一〇	—	八九	一五二	九九	一五二
平安北道	—	—	五	—	一五七	二八二	一六二	二八二
江原道	三	—	三	—	七七	一八三	九三	一八三
咸鏡南道	六	—	一五	—	一三二	二九五	一四三	二九五
咸鏡北道	六	—	九	—	四二	二四〇	五七	二四〇
總計	二八	—	一〇三	一	一、二二四	二、九一七	一、三五五	二、九一八
大正十二年	四四	—	一〇二	三	一、一一四	三、二三四	一、二六〇	三、二三七
大正十二、十三年比較増減	減一六	—	増一	減二	増一一〇	減三一七	増九五	減三一九

諺譯通譯共に充分ならさるも對話し得るもの

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	計 内地人	計 朝鮮人
京畿道	一七	—	二七	—	四三五	一〇二	四七九	一〇二
忠清北道	一〇	—	一七	—	一〇七	二四	一三四	二四
忠清南道	三	—	一〇	—	一八五	一四	一九八	一四
全羅北道	七	—	一一	—	二三六	一六	二五四	一六
全羅南道	九	—	一二	—	二六三	三三	二八四	三三
慶尚北道	五	—	五	—	三〇四	一二	三一四	一二
慶尚南道	九	—	二三	—	三一〇	五六	三四二	五六
黄海道	八	—	一八	—	二七三	四一	二九九	四一
平安南道	二一	—	八	—	二九六	一七	三二五	一七
平安北道	一五	—	二九	—	六六九	二九	七一三	二九
江原道	七	—	一三	—	二三一	一七	二五一	一七
咸鏡南道	九	—	一六四	—	四〇六	二九	五七九	二九
咸鏡北道	八	—	一二	—	二九四	二五	三一四	二五
總計	一二八	—	三四九	—	三、九九九	四〇五	四、四六六	四〇五
大正十二年	一二六	—	二四一	—	四、一一八	五七〇	四、四六九	五七〇
大正十二、十三年比較増減	増二	—	増一〇八	—	減一一九	減一六五	減三	減一六五

單語を知り漸く自用を辨し得るもの

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人	巡査 内地人	巡査 朝鮮人	計 内地人	計 朝鮮人
京畿道	三	—	三	—	五一七	三五	五六二	三五
忠清北道	二	—	五	—	九八	六	一〇五	六
忠清南道	一一	—	六	—	一五四	—	一七一	—
全羅北道	二	—	—	—	一四九	—	一五一	—
全羅南道	八	—	一一	—	二七九	—	二九八	—
慶尚北道	—	—	—	—	二三三	—	二三三	—
慶尚南道	一〇	—	四	—	二九八	二	三一二	二
黄海道	一	—	九	—	一五〇	一	一六〇	一
平安南道	六	—	七	—	一六八	—	一八一	—
平安北道	四	—	一〇	—	一、〇三九	—	一、〇五三	—
江原道	九	—	七	—	一六五	—	一八一	—
咸鏡南道	八	—	四	—	二三四	—	二三六	—
咸鏡北道	四	—	九	—	四〇五	三	四一八	三
總計	六八	—	九四	—	三、八七九	四七	四、〇六一	四七
大正十二年	一〇〇	—	一三九	—	四、二七四	八六	四、五一三	八六
大正十二、十三年比較増減	減三二	—	減四五	—	減三九五	減三九	減四五三	減三九

全く解せさ

道名	警部 内地人	警部 朝鮮人	補警部 内地人	補警部 朝鮮人
京畿道	—	—	—	—
忠清北道	—	—	—	—
忠清南道	一	—	—	—
全羅北道	—	—	—	—
全羅南道	—	—	—	—
慶尚北道	—	—	—	—
慶尚南道	—	—	—	—
黄海道	—	—	一	—
平安南道	—	—	—	—
平安北道	—	—	—	—
江原道	一	—	一	—
咸鏡南道	—	—	一	—
咸鏡北道	—	—	—	—
總計	二	—	三	—
大正十二年	一六	—	一一	—
大正十二、十三年比較増減	減一四	—	減八	—

比較増減 大正十二、十三年	大正十二年	總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黄海道	慶尚南道
減四四六	一、二三七	七九一	一三九	三三	六四	一三四	六八	六三	二〇
減三〇七	五、〇五八	四、七五一	二二六	三五四	三三三	四二四	三〇三	二九八	四九〇
減一六〇	七六九	六〇九	三	八八	五一	五三	四五	六九	四三
増三	一六	一九	二	三	—	二	四	—	—

率調査表

譯充	通譯に差支なきも飜譯充分ならさるもの				飜譯通譯共に充分ならさるも對話し得るもの				單語を知り漸く自用を辨し得るもの				全く解せさるもの				合計							
計	警部	警部補	巡査	計	警部	警部補	巡査	計	警部	警部補	巡査	計	警部	警部補	巡査	計	警部 手當を受くるもの	警部 手當を受けさるもの	警部補 手當を受くるもの	警部補 手當を受けさるもの	巡査 手當を受くるもの	巡査 手當を受けさるもの	計 手當を受くるもの	計 手當を受けさるもの
二六 九七	—	七	一一八 三七一	一二五 三七一	一七	二七	四三五 一〇二	四七九 一〇二	二三	二二	五一七 三五	五六二 三五	—	—	二	二	一	四二 一七	一四 九	六〇 三	四一 一八	一、〇八三 八八四	五六 二七	一、一八五 九〇四
一七 三六	—	一	四三 七〇	四四 七〇	一〇	一七	一〇七 二四	一三四 二四	二	五	九八 六	一〇五 六	—	—	四	四	一	一三 二	一	二三 一	五九 二三	二二四 二〇九	六一 二八	二六〇 二一二
四四 六四	—	八	五〇 一四一	五八 一四一	三	一〇	一八五 一四	一九八 一四	一一	六	一五四	一七一	一	—	一五	一六	一	一八 五	五 七	二四	四六 四八	四〇五 三一四	五二 五五	四四七 三一九
一二 二三	四	七	一〇六 二三〇	一一七 二三〇	七	一二	二二六 一六	二四四 一六	二	—	一四九	一五一	—	—	—	—	一	一八 四	七	二三 八	三九 九	四七一 四〇四	四七 九	五一二 四一六
四二 二八	一	五	九七 二五八	一〇三 二五八	九	一三	二六三 二三	二八四 二三	八	一一	二七九	二九八	—	—	二三	二三	二	二五 六	六 八	三六 一	二二	六八七 五四〇	三〇 八	七四八 五四七
八一 一四九	四	九	一一〇 一六九	一二三 一六九	五	五	三〇四 一二	三一四 一二	—	—	二三三	二三三	—	—	一三	一三	二	二六 五	八	三二 一一	九九 六六	六七七 五四二	一〇九 六六	七三五 五五八
三三 三八	一	九	一二一 三一七	一三一 三一八	九	二三	三一〇 五六	三四二 五六	一〇	四	二九八 二	三一二 二	—	—	八	八	五	二二 六	八	四四 六	四二 二三	七三一 五六〇	五五 二八	七九七 五七二
三六 八六	三	五	九二 二〇九	一〇〇 二〇九	八	一八	二七三 四一	二九九 四一	一	九	一五〇 一	一六〇 一	—	—	一	一	三	一八 五	七	三四 三三	六九 三三	五三三 四二九	七九 三三	五八五 四三八
三九 三四	—	一〇	八九 一五二	九九 一五二	一一	八	二九六 一七	三一五 一七	六	七	一六八	一八一	—	—	三	三	四	一九 七	八	二八	三一 四六	五八七 四三三	四三 五七	六三四 四四〇
六二 六三	—	五	一五七 二八二	一六二 二八二	一五	二九	六六九 二九	七一三 二九	四	一〇	一、〇三九	一、〇五三	—	—	—	—	二	二六 一〇	四	五三 八	五〇 三五	一、九〇九 六五五	五六 三九	一、九八八 六七三
三〇 八四	三	一三	七七 一八三	九三 一八三	七	一三	二三一 一七	二五一 一七	九	七	一六五	一八一	—	—	一	一	二	二四 五	一二	三〇 一	一六 五七	五一六 三九三	三〇 六一	五七〇 三九九
二二 四三	六	一五	一二二 二九五	一四三 二九五	九	一六四	四〇六 二九	五七九 二九	八	四	二二四	二三六	—	—	一	一	一	二三 七	四	三七 一	三八 二三	七六四 四八一	四三 二四	八二四 四九五
二三 四二	六	九	四二 二四〇	五七 二四〇	八	一二	二九四 二五	三一四 二五	四	九	四〇五 三	四一八 三	—	—	一	一	一	二三 五	三	三三 三	一三 一七	七七六 四〇七	一七 一七	八三二 四一五
三六七 七八七	二八	一〇三 一	一、二二四 二、九一七	一、三五五 二、九一八	一一八	三四九	三、九九九 四〇五	四、四六六 四〇五	八八	九四	三、八七九 四七	四、〇六一 四七	二	三	一〇二	一〇七	二六 一	二九七 八四	八七 五三	四五七 五三	五六五 三九八	九、三六三 六、二五一	六七八 四五二	一〇、一一七 六、三八八
四九四 八二〇	四四	一〇二 三	一、一一四 三、二三四	一、二六〇 三、二三七	一一〇	二四一	四、一一八 五七〇	四、四六九 五七〇	一〇〇	一三九	四、二七四 八六	四、五一三 八六	一六	一二	四〇九 六	四三六 六	四七 一	三〇八 九九	一〇五 五六	五二五 六七	五七四 六〇七	九、九〇二 六、九四一	七二六 六六四	一〇、七三五 七、一〇七
減一二七 減三三	減一六	增一 減二	增一一四 減三一七	增九五 減三一九	增二	增一〇八	減一一九 減一六五	減三 減一六五	減一二	減四五	減三九五 減三九	減四五二 減三九	減一四	減八	減三〇七 減六	減三二九 減六	減二一	減一一 減一五	減一八 減三	減六八 減一四	減九 減二〇九	減五四〇 減六九〇	減四八 減二一四	減六一八 減七一九

慶尚北道	五四	四八六	四五	一	一三	三	六	—	—	—	二六	一	七	一一八	一二五	一七	二七	四三五	四七九	二三	二二	五一七	五六二	一、一八五
慶尚南道	二〇	四九〇	四三	—	五	五	一五	—	—	—	九七	—	—	三七一	三七一	—	—	一〇二	一〇二	—	—	三五	三五	九〇四
黃海道	六三	二九八	六九	—	五	八	一九	—	—	—	一七	—	一	四三	四四	一〇	一七	一〇七	一三四	二	五	九八	一〇五	二六〇
平安南道	六八	三〇三	四五	四	一八	一二	二七	—	—	—	三六	—	—	七〇	七〇	—	—	二四	二四	—	—	六	六	二一二
平安北道	一三四	四二四	五三	二	五	一五	一七	—	—	—	四四	—	八	五〇	五八	三	一〇	一八五	一九八	一一	六	一五四	一七一	四四七
江原道	六四	三二二	五一	—	一	二	一〇	—	—	—	六四	—	一	一四一	一四一	—	—	一四	一四	—	—	一	一	三一九
咸鏡南道	三三	三五四	八八	三	七	七	一二	—	—	—	一二	四	七	一〇六	一一七	七	一一	二二六	二四四	二	一	一四九	一五一	五一二
咸鏡北道	一三九	二二六	三二	二	七	三	一五	—	—	—	二三	—	一	二三〇	二三〇	—	—	一六	一六	—	—	一	一	四一六
總計	七九一	四、七五一	六〇九	一九	一六	九六	二一三	一	一	一	二八四	二八四	一	五	九七	一〇三	九	一二	二七九	二九八	一	一	二七九	二九八
大正十二年	一、二三七	五、〇五八	七六九	一六	一三〇	九七	二二七	二	四	六	一七	一	一	一五	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正十二、十三年比較增減	減四四六	減三〇七	減一六〇	增三	減一四	減一	減一四	一	增二	減二	減一四	減一二	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一

一〇 巡査の給與

巡査には俸給の外加俸、手當、宿舍料、旅費、被服を支給す。

俸給 內地人巡査には初任給本俸三十八圓及本俸の十分の六に相當する加俸を支給し朝鮮人巡査には初任給三十三圓を支給し加俸を支給せす、尤も教習中成績優等の者に對しては初任給に二圓を增給し巡査採用規則第一條に依り筆記試驗を省略せられ且つ特種の技能を有する者にして巡査に採用せらるゝ場合には規定の範圍に於て適當の額を定め之を支給し得るの例外を設け學術奬勵人材登用に付優遇の方法を講じあり、尙僻陬地勤務者には土地の區別に依り本俸の十分の一又は十分の二に相當する金額(四圓又は八圓)を加給す、斯くて內地人は本俸最低三十八圓最高七十五圓にして加俸を含むときは其の平均額六十八圓八十八錢朝鮮人は最低三十三圓最高五十五圓にして其の平均額三十六圓八十一錢なり。

手當 功勞加俸は月額五圓を支給し居れとも精勤加俸は豫算の關係上之を支給せす。

陸接國境地方に在勤する巡査に對しては土地の區別に從ひ五圓、七圓、十一圓の臨時特別手當を支給し刑事、通譯、會計其の他特種の技能を有し其の勤務に服する者には三圓乃至五十圓の範圍にて手當を支給す、然れとも豫算の關係上實際の支給平均額は三圓六十六錢餘に過きす、非番勤務

手當は其の勤務時間に應し三十錢、五十錢、七十錢を支給し得ることの制あるも實際に於ては豫算の關係上殆ど支給せざる現況なり。

旅費　實費支辨を原則として支給するの規定を定む而して警察官駐在所勤務者には俸給額の區別に從ひ月額旅費として四圓乃至十三圓を支給し其の擔當區域内の出張に對しては旅費を支給せざることゝせり。

宿舍料　内地人巡査には土地の等級に應じ五圓乃至十圓の宿舍料を支給し鮮人巡査には支給せず。

被服帶具　巡査には使用期限を附し帽、冬服、夏服、外套、日覆、下襟、冬手套、夏手套、夏肌着、靴下、長靴、短靴等を支給す但し内地人巡査に對しては短靴、長靴、下襟、冬手套、夏手套、冬肌着、夏肌着、及靴下は現品を支給せす毎月額一圓三十錢の代料を支給す其の他防寒具たる帽、外套、襦袢、袴下、手套、靴下、覆面、肌着を貸與せり其の材料及製作方法別表の如し。

		俸給	特別手當	宿舍料	計
内地人	最低	三八・〇〇円	三・八〇円	五・〇〇円	七五・一〇円
	最高	七八・〇〇	一四・一〇	一〇・〇〇	一五九・九〇
	平均	四一・六〇	五・七七	七・七五	八九・六七
朝鮮人	最低	二七・〇〇	三・八〇	五・〇〇	三三・〇〇
	最高	五五・〇〇	一四・一〇	一〇・〇〇	六六・〇〇
	平均	四一・〇〇	五・七七	七・七五	四一・〇〇

以上の外功勞加俸五圓鮮語奬勵手當五圓乃至五十圓を給與す

被服の貸給與

普通被服

品目	主要材料及製作方法	標準重量
帽	天井及襠ハ黒絨トシ鉢巻及天井玉緣ハ緋絨ヲ使用ス 眼庇及頤紐ヲ附ス	三五匁
冬服	表ハ「メルトン」黒絨裏ハ黒綾織綿布ヲ使用ス 立襟「ジヤケツト」式ニシテ袖章ヲ附ス	五〇〇匁
外套	表ハ黒絨トシ肩ニ毛朱子ヲ使用ス（大正十二年以前製作ノ分ハ肩裏ヲ附セス） 普通雨前外套ト同シ尚頭巾反帶緒ヲ附ス	五二〇匁
夏服	表ハ晒葛城織ニシテ袴腰裏ニ「キヤラコ」ヲ使用ス 立襟「ジヤケット」式ニシテ袖章ヲ附ス	二五〇匁

防寒被服

品目	主要材料及製作方法	標準重量
雨覆	表ハ黒絨ニシテ立襟「マント」型トス	二一〇匁
茶褐外被	茶褐雲斎ヲ使用ス 立襟一行釦トス（十二年度ニ於テ青茶雲斎ニテ試製シ配給研究ノ結果茶葛斎ニ變更セリ）	二一五匁
防寒外套	表ハ毛布絨ニシテ裏面後裂及頭巾下端ニ茶葛雲斎ヲ使用ス 普通雨前外套ト同シ但保温ノ爲寛裕ヲ多クシ且ツ腰部以下ヲ割キテ后裂トシ運動ニ支障ナカラシメタリ頭巾及帶ヲ附ス	七五〇匁
防寒毛襟	表ハ茶褐雲斎ヲ用ヒ裏ハ綿羊皮ヲ使用ス 下部ニ紐ヲ附シ使用ニ際シ防寒外套襟穴ニ結合ス	五〇匁
防寒帽	表ハ青茶雲斎トシ帽體ニハ綿ヲ内容シタル裏、垂布及前庇裏ニ綿羊皮ヲ用ヒ尚鼻覆ヲ附着ス	六五匁
防寒覆面	羊毛絲ヲ原料トシタル「メリヤス」製ニシテ密針及「手カガリ」ヲ以テ所定ノ形狀ニ縫合ス	二五匁

品目	主要材料及製作方法	標準重量
防寒手套	前項ト同シ	三〇匁
防寒靴下	同	四〇匁
防寒襦袢	同	一九〇匁
防寒袴下	同	一八〇匁
防寒靴	表ハ濕製黒皮裏ハ「フェルト」ヲ附着シゴム底トス	
防寒胴着	表ハ茶褐雲斎裏ハ山羊毛皮ヲ使用ス 胴着型ニシテ肩ハ釦、脇下ハ紐ニテ結合ス	四〇〇匁

警察官吏俸給別（警部）（大正十三年十二月末現在）

道名	二級	四級	五級	六級	七一圓	十圓	七圓	六圓	七級	六圓	六圓	六圓	六圓	五圓	五圓	五圓	五圓	八級	五圓	九級	十級	計
京畿道		一	一二	二六		七			一三													六〇
忠清北道		二	三	二		二	一	二	三	一	一	一	一					一				三五
忠清南道		一	一	五		一		一	一													三五
全羅北道		一	六	一		六			八													三三
全羅南道		一	四	八		五			一五													三三

	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	合計
	|	|	|	|	|	一	|	|	一
	六	二	一	|	一	二	一	二	二二
	七	四	五	四	一〇	二	六	四	六七
	四	六	六	一〇	一四	八	一〇	五	一〇四
	|	一	|	|	|	|	|	|	一
	七	七	九	四	五	八	三	六	七〇
	|	|	|	|	|	|	|	|	一
	三	六	三	三	三	四	五	七	七四
	|	|	|	|	|	|	|	一	一
	二	|	一	|	|	|	一	二	八
	|	|	|	|	|	|	一	|	一
	四	四	|	四	四	三	一	一	二五
	|	|	|	|	|	|	一	|	一
	|	|	|	一	|	|	|	一	二
	|	一	|	|	|	|	一	|	二
	|	|	|	一	|	|	|	|	一
	|	二	一	一	一	二	|	|	一〇
	|	|	|	|	|	|	一	|	二
	|	|	|	二	|	|	|	|	三
	|	|	|	|	|	|	|	|	一
	三三	三三	二六	三〇	三八	三〇	三一	二九	三九六

警察官吏俸給別

（警部補）

（大正十三年十二月末現在）

道名	京畿道	忠淸北道	忠淸南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	合計
七〇圓	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
六八圓	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
六五圓	四	一	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	六
六三圓	|	一	一	|	|	一	|	一	|	|	|	|	|	四
六二圓	四	|	|	|	一	|	一	|	|	一	|	|	|	七
六一圓	|	|	一	|	|	一	|	|	|	一	|	二	|	五
六〇圓	七	四	二	六	一	四	九	二	一	九	三	三	五	五六
五九圓	一三	|	一	|	七	四	|	一	一	七	|	|	|	三四
五八圓	|	|	三	|	|	二	|	四	四	二	|	九	|	二四
五七圓	九	一	|	三	六	四	六	三	一	一	七	二	一〇	五三
五六圓	|	|	|	|	六	三	|	|	二	一	|	一	|	一三
五五圓	四	五	二	一	五	六	四	二	四	一	八	二	六	五〇
五四圓	一二	|	|	|	五	|	一	|	二	五	一	二	|	二七
五三圓	|	|	三	一	六	四	一	|	一	三	|	一	|	二〇
五二圓	八	一	一	六	|	三	四	一〇	二	六	一〇	三	二	五六
五一圓	一	|	|	|	一	二	|	|	四	四	一	二	|	一五
五〇圓	三	五	二	六	一	六	一四	三	|	一二	二	三	六	六二
四九圓	七	|	|	|	|	二	|	一	一〇	四	四	四	三	三五
四八圓	一	三	二	一	四	|	|	二	二	一	一	三	一	二二
四七圓	六	|	三	四	三	二	六	五	|	|	四	一	二	三六
四六圓	|	|	|	五	四	|	|	|	七	二	|	四	|	二二
四五圓	五	二	六	五	一	一	四	四	四	二	二	三	四	四三
四四圓	|	|	|	|	|	|	|	一	|	四	二	一	|	八
四三圓	三	一	九	|	|	一	一	一	二	|	一	|	|	一九
四二圓	|	二	|	|	|	|	五	|	|	三	二	|	|	一三
四〇圓	|	|	|	|	|	|	|	一	|	一	|	三	|	四
計	八六	二六	三六	三八	五二	四八	五六	四二	四七	六九	四八	四八	三九	六三四

巡査現員現給表

（內地人）

道名	京畿道	忠淸北道	忠淸南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道
七八圓	|	|	|	|	|	|
七五圓	一	|	|	|	|	|
七三圓	|	|	|	|	一	|
七〇圓	一	|	|	|	|	一
六六圓	|	|	|	|	|	|
六五圓	一	|	|	|	|	|
六二圓	|	|	|	|	一	|
六一圓	一	|	|	|	|	|
六〇圓	|	|	|	一	|	|
五九圓	|	|	一	|	|	一
五八圓	|	|	|	|	二	|
五七圓	|	|	|	|	一	一
五六圓	四	二	|	一	一	四
五五圓	|	二	一	|	一	四
五四圓	|	一	|	|	三	五
五三圓	一六	四	|	一	三	二
五二圓	二〇	一	|	二	五	六
五一圓	二〇	五	二	四	一四	一一
五〇圓	三一	六	七	四	一〇	一八
四九圓	二九	四	八	二	一三	五
四八圓	二九	六	三	五	三一	三〇
四七圓	八一	二	一七	七	三五	一三
四六圓	六四	一五	一三	三七	五一	一一七
四五圓	一〇二	三三	三九	一六八	六二	八八
四四圓	九八	四六	六二	五三	一〇七	七五
四三圓	九二	三七	一〇九	三二	五八	八九
四二圓	一六〇	一七	四五	四七	七〇	二九
四一圓	一一七	四〇	六三	三三	一〇六	一〇八
四〇圓	三三	三	八	一	五	二
三九圓	一三八	三六	四六	七四	一一	六〇
三八圓	一〇六	二三	二七	三九	一〇九	一〇七
計	一、一三五	二八二	四五一	五一〇	七〇九	七七六

巡査現員現給表

（朝鮮人）

道名	五五圓	五一圓	五〇圓	四九圓	四八圓	四七圓	四六圓	四五圓	四四圓	四三圓	四二圓	四一圓	四〇圓	三九圓	三八圓	三七圓	三六圓	三五圓	三四圓	三三圓	二七圓	合計
京畿道	一	—	一	一	七	三	三	五	九	八	二四	五三	九〇	一二四	一一〇	一四〇	四七	一九	一〇八	一三五	一八	九〇六
忠清北道	—	—	一	—	—	—	一	—	一	—	六	三	一三	三〇	五〇	三〇	三七	三	二一	三六	—	二三二
忠清南道	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	三	三	一〇	三八	九八	五八	九	五三	八八	—	三六二
全羅北道	—	—	—	一	—	—	—	一	四	一	五	四	四一	一〇三	五六	三五	五	二三	六一	七三	—	四一三
慶尙南道	—	—	—	一	一	—	—	—	一	四	九	一八	四四	六一	九一	六八	四一	二	一八	一八〇	—	五四〇
黃海道	—	—	—	—	二	—	—	五	三	九	四	二三	六三	九七	一二〇	三〇	五八	四	六五	一二七	—	六〇八
平安南道	—	—	—	—	—	—	—	二	一	二	六	二	五五	七〇	一二五	一〇一	五八	三二	一〇	一〇四	—	五八二
平安北道	一	一	—	—	—	—	—	—	—	二	五	一一	九	一三	七七	一一四	八二	一六	九	一二四	—	四六二
江原道	—	—	—	—	—	—	—	—	五	一〇	六	二四	七五	九一	七一	二六	四三	三	二三	一〇一	—	四八〇
咸鏡南道	—	—	—	一	—	—	—	三	四	六	八	一五	一〇六	一八三	一二六	三四	五五	七三	七二	四〇	七三〇
咸鏡北道	—	—	—	—	—	—	—	一	二	六	一	八	一七	二一	一〇五	六八	七三	一一	二〇	一一五	—	四五一
合計	一	二	一	四	一	三	一	一	一	四	五	一一	一二	三五	一〇七	八一	八七	四二	三	一一三	—	五〇四
慶尙南道	—	—	—	一	—	—	—	—	五	三	二	八	八	一四	一二	七	一〇	二二	五〇	七二	一三二	一〇八	八一	七四	三三	一七	一〇九	七七三
黃海道	—	—	—	—	二	—	—	—	二	一	二	六	七	二二	一四	七	一〇	二六	三六	一〇八	九五	三二	一〇二	一四	一一	一〇六	六〇二
平安南道	—	—	—	—	—	—	—	—	三	一	二	二	四	二	八	六	六	二八	九八	九〇	二五	四〇	一三	一一〇	八	五六	一一七	六一八
平安北道	一	一	—	—	—	—	—	—	一	二	二	一	二	一	一	一	一	一〇〇	一七二	一五三	二八六	二一二	九一	二三二	三七二	一六八	一、九五九
江原道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一	二	六	七	八	五	六	二五	三二	九〇	三四	六六	八八	三六	三一	八八	五三二
咸鏡南道	—	—	—	一	—	—	—	—	—	四	二	二	—	六	一四	九	一二	一九	三五	六二	一〇九	五三	九三	一〇一	四九	二九	一九七	八〇一
咸鏡北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	二	一	一	一	一	一	一	一	三九	九七	一二一	八六	八三	九九	二九	九六	六七	七八九
合計	一	二	一	四	一	三	一	一	一	四	五	一一	一二	三五	一〇七	八一	七四	三三	一七	一〇九	七七三	一、九五九	一、九二七	一、三六三	一、三〇六	五八	九、九二七

二 生活狀態

民情風俗言語等を異にするも京城、釜山、大邱、平壤等は勿論道所在地開港地及府所在地は內地人の居住多く物資の供給豊富にして其の生活に於ける狀態は內地の都市に居住すると殆んど異なるなきなり、殊に京城の如きは內地六大都市に次ぐの景況にあり其の他南鮮各警察署所在地には殆んど定期自

道名	五五圓	五一圓	五〇圓	四九圓	四八圓	四七圓	四六圓	四五圓	四四圓	四三圓	四二圓	四一圓	四〇圓	三九圓	三八圓	三七圓	三六圓	三五圓	三四圓	三三圓	二七圓	合計
全羅南道	—	一	—	一	一	—	—	—	一	四	九	一八	四四	六一	九一	六八	四一	二	一八	一八〇	—	五四〇
慶尙北道	—	—	—	—	—	—	—	五	三	九	四	二三	六三	九七	一二〇	三〇	五八	四	六五	一二七	—	六〇八
慶尙南道	—	—	—	—	一	一	二	二	一	二	六	二	五五	七〇	一二五	一〇一	五八	三二	一〇	一〇四	—	五八二
黃海道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	五	一一	九	一三	七七	一一四	八二	一六	九	一二四	—	四六二
平安南道	—	—	—	—	二	—	—	—	五	一〇	六	二四	七五	九一	七一	二六	四三	三	二三	一〇一	—	四八〇
平安北道	—	—	—	—	二	—	二	一	三	四	六	八	一五	一〇六	一八三	一二六	三四	五五	七三	七二	四〇	七三〇
江原道	—	—	—	—	—	一	二	一	二	六	一	八	一七	二一	一〇五	六八	七三	一一	二〇	一一五	—	四五一
咸鏡南道	—	—	—	—	—	—	—	二	二	四	五	一一	一二	三五	一〇七	八一	八七	四二	三	一一三	—	五〇四
咸鏡北道	—	—	—	—	—	—	—	八	五	五	七	一二	一七	六〇	九六	七四	三五	二二	六九	三八	—	四五二
合計	一	二	二	三	一四	六	一三	二五	三六	五六	八四	一九〇	四五四	八二一	一、二二九	九九一	六五八	二四一	五三三	一、三〇六	五八	六、七二二

動車の開通あり、沿岸各地には朝鮮郵船會社の定期航海あり、而かも輕便鐵道定期自動車は一般産業の發展と共に又地方開發を促進する爲當局の補助奬勵もあり年々延長せられつゝありて南鮮に於ける各主要地及其の沿線にありては物資の供給も比較的充分にして生活上脅威を感ずるが如きこと絶無の狀況にして到底往時の比にあらず、然れども南鮮地方と雖一率に論ずる能はざるものありて如上の便ある地方にして尙徒歩すら危險を感じ或は內地人に接し談話を交換するが如きは勿論其の通行者をも數箇月に渉り皆無の狀態たる土地も亦敢て珍らしからず、之等の地方に在ては物資の供給充分ならず而かも永年の習慣は地方に產する物資のみにては到底生活に堪へざる爲想像し得ざる困難を感ずることと少からず、又地方に伴ふ風情に乏しく慰安の途なきに依り寂寥を感ずること甚しく到底內地の村落と比する能はざるは勿論前記の各主要地とも比較し能はざるなり、斯る地方にありては諸物資を數里乃至數十里を巨つる警察署所在地より仰ぎ又は內地より直接取寄せつゝあり、西北鮮地方にありても警察署所在地は概ね日用物資の供給充分にして生活上甚しき不便を感ずることなきも寒氣烈しく零度以下三十度を示し或は駐在所より所屬警察署に達するに數日を要する等交通不便の地多く、從つて生活上の不便勞苦は蓋し想像に餘りあり其の寂寥の程度に於ても一層甚し、然れども一般に產業交通益々發展し內地人居住者も增加の傾向にありて之等寂寥不便の點は漸次取除かれつゝあるも到底南鮮の比にあらざるなり、斯くて之等警察官に對し日常の勞苦を慰め且つ精神上の慰安を與ふるには一に家

族團欒の樂に俟つの外なきに依り婚姻又は同居を奬めつゝありて漸次妻帶者の數も增加しつゝありて大正十二年內地人巡査の妻帶者八千七百六十二名に上れり、而して之を大正九年六月の六千八十一名に比較するときは著しき增加と謂ふべし然れども家族に對する慰安の資なきを以て多數職員の家族中には其の寂寥に堪へず數箇月を出でずして再び歸還する者あり、又子弟の敎育其の他家事上妻帶者にして尙獨身生活を爲しつゝある者百分の十九に相當し昨年よりは百七十六名減じたるも尙其の數尠からず眞に同情に値するものあり、於茲當局に於ても慰安方法に付て苦心する處あり未だ良法を發見せざるも差當り趣味に依りて其の一端に供せむと花卉の種子を配付し或は產婆の講習を爲し或は蓄音器の備付等を施設したる外本府より職員を派遣して慰問せしめ或は愛國婦人會其の他の團體より慰問品の寄贈ある等同情に出ずるものあり將來一層此等の施設に完全を期せむと努力しつゝあり。

警察官の中內地人は氣候風土に馴れざると食物の變更等に依り感冒呼吸器病胃腸病等に侵さるゝもの比較的多きは已むを得ざる現象なるが、各自攝生を重んじ保健に深甚の注意を拂ふを以て大體に於て鮮人警察官に比し遜色なき保健狀態を呈し良好の成績を示しつゝあり、然れども醫師の所在せざる箇所少からず且つ交通の便惡しきに依り一旦罹病せんか之が往診を求むるに一回に數十圓乃至數百圓を要し時には醫療を受くるの途なく重態に陷る等の慘狀を呈する事例に乏しからず、故に此等不便の地には救急藥品を備付する等相當考慮を拂へるも未だ盡さゞる點多し。

日常の生活費に於て市部在勤者は郡在勤者に比し又内地人は鮮人に比し何れも多額を要しつゝあり と雖家族の數及住所の如何に依り一樣ならずと雖特殊の事情生ぜざる限り一般に生活上餘裕を示し相當の貯蓄を爲しつゝあり。

巡査生活狀態調表

（内地人）　（大正十三年十二月調）

種別／道名		生活費				
		單身者	二人以上三人の者	四人の者	五人の者	平均
京畿道	駐在所	三六、〇〇 三一、〇〇	四七、〇〇 四三、〇〇	五五、〇〇 四九、〇〇	六一、〇〇 五三、〇〇	四九、〇〇 四四、〇〇
忠清北道	署所在地	三一、九五 二七、二八	四三、二五 三六、五五	五六、二九 四四、三六	五〇、二九 四四、三六	四五、四四 四〇、二五
忠清南道	署所在地	三四、〇〇 二九、〇〇	四七、五〇 四四、五〇	五九、〇〇 五四、〇〇	六四、五〇 六〇、五〇	五一、二五 四七、〇〇
全羅北道	署所在地	四四、九七 三七、一九	五六、九五 四九、〇七	六三、三三 五四、二四	六九、七四 五七、七五	五六、八六 四八、八三
全羅南道	署所在地	三六、七八 二八、五九	四二、九二 三六、五五	五三、八三 四二、四九	五八、〇五 四六、九二	四八、九三 三八、五七
慶尙北道	署所在地	三九、四九 三二、八五	四七、五〇 四四、五七	五七、七三 五一、〇二	六三、六六 五七、一九	五二、八六 四六、四一
慶尙南道	署所在地	四一、八八 三七、一八	四七、〇〇 四三、〇〇	五五、〇〇 四九、〇〇	六一、〇〇 五三、〇〇	四九、〇〇 四四、〇〇
黃海道	署所在地	四〇、七九 三四、七九	四三、二五 三六、五五	四七、五〇 四四、五〇	五一、二九 四四、三六	四五、四四 四〇、二五
平安南道	署所在地	四五、二六 三九、四四	四八、九七 四一、九七	五二、〇〇 四五、〇〇	五六、一九 四九、〇六	四八、〇〇 四二、〇〇
平安北道	署所在地	四一、四〇 三七、三六	四五、四四 四一、四四	五〇、四九 四五、四九	五四、五五 四九、五五	四六、四四 四一、四四
江原道	署所在地	四三、七六 三七、二三	四七、〇〇 四二、〇〇	五一、二五 四六、二五	五五、五〇 五〇、五〇	四七、〇〇 四二、〇〇
咸鏡南道	署所在地	四五、四五 三八、三三	四九、五〇 四四、五〇	五三、五五 四八、五五	五七、六〇 五二、六〇	四九、五〇 四四、五〇
咸鏡北道	署所在地	四三、三〇 四一、一五	四七、五〇 四四、五〇	五一、七〇 四七、七〇	五五、九〇 五〇、九〇	四七、五〇 四四、五〇
平均	署所在地	四四、四四 三四、七二	四八、九四 四四、一九	五二、八四 四八、一九	五六、七四 五二、一九	四八、九四 四四、一九

（内地人）　（大正十三年十二月末現在）

種別 / 道別	現員	同居の家族あるもの	家族あるも同居せざるもの	獨身者	家族 一人あるもの	家族 二人以上あるもの	家族 五人あるもの	計	學令兒童あるもの
京畿道	一、一三四	八三三	一〇四	一八九	二三二×二三	五〇四×六三	九五×一九	八三三×一〇四	二四九×一三
忠清北道	二八三	一九三	五七	三三	五七×二四	一二一×二一	一五×二	一九三×一五七	二六×一七
忠清南道	四五一	三五四	六〇	三七	八四×一四	二三三×四二	三七×四	三五四×六〇	五九×一八
全羅北道	五一〇	三六七	四五	九八	一一三×一〇	二二九×三一	二六×四	三六七×四五	五七×一七
全羅南道	七〇九	五一二	九九	一五六×二三	三〇三×七〇	四一八×八三	五九×一五	五一二×九九	八七×二八
慶尙北道	七七六	五八八	一二四	六四	一二一×二六	四一八×八三	五九×一五	五八八×一二四	二七×四〇
慶尙南道	七七三	六三七	七一	六五	一五六×一三	四一九×五三	六×六	六三七×七一	一四七×二三
黃海道	六〇三	四四四	六四	九四	一二六×一七	二八五×四五	三×二	四四四×六四	五八×二五
平安南道	六一八	三九六	一一四	一〇八	一四三×二九	二二九×三一	一五×二	三九六×一一四	五九×一六
平安北道	一、九五九	八八三	六一一	四六五	三一九×二六九	五〇六×二八五	五八×五七	八八三×六一一	一一四×三九
江原道	五三三	三六七	一五六	二九	九三×二四	二三三×七八	四×二	三六七×一三六	四八×二四

巡查家族調表（朝鮮人）（大正十三年十二月末現在）

種別 / 道名	現員	同居の家族あるもの	家族あるも同居せざるもの	獨身者	家族 一人あるもの	家族 二人以上あるもの	家族 五人以上のもの	計	學齡兒童あるもの
京畿道	九〇二	七二三	一〇九	七〇	一三三×二〇	四二四×五八	一七六×二	七二三×一〇九	二三八×一一
忠清北道	二三三	一六七	五八	七	二七×三	一〇九×三一	三一×一五	一六七×五八	二七×一
忠清南道	三六二	二四一	一〇二	一九	二八×一六	一五一×六五	六三×一一	二四一×一〇二	四四×一〇
全羅北道	四一三	二七六	一〇七	二〇	五五×一六	一九二×五〇	二九×四	二七六×一〇七	二九×九

種別 / 道名	現員	同居の家族あるもの	家族あるも同居せざるもの	獨身者	家族 一人あるもの	家族 二人以上あるもの	家族 五人以上のもの	計	學齡兒童あるもの
咸鏡南道	八〇三	四六七	一三八	一九七	一四九×三三	二八五×八二	三×二四	四六七×一三八	六九×一七
咸鏡北道	七八九	四一九	二〇八	一六三	一六八×五一	二三四×一四〇	二七×一七	四一九×二〇八	五九×二四
總計	九、九一九	六、四五八	一、八三一	一、八六九	一、九〇五×五五四	三、九九〇×一、〇七二	五八二×二〇五	六、四五八×一、八三一	六、四九八×二、〇六四
大正十二年	一〇、五七六	六、六九八	二、〇六四	一、八一四	一、九六七×五〇六	四、一〇四×一、三三三	六二七×二三五	六、六九八×二、〇六四	六、六九八×二、〇六四
大正十二、十三年比較增減	減 六五七	減 二四〇	減 二〇六	減 一七五	增 四八×五三	減 二五一×二四	減 六五×三〇	減 二四〇×二三三	減 一×二三三

大正十二、十三年比較増減	總計	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尙南道	慶尙北道	全羅南道
減	六、六四九	四二四	五〇四	四五〇	六九〇	四七九	四六二	五八三	六〇八	五四〇
減	五、〇七八	三四七	四二五	三五九	五三六	四三四	三七四	四三三	三九七	三六六
減	一、二四七	五五	五三	八九	一二七	三五	七三	一二九	一八八	一三四
増	三三四	二三	二七	二	二七	一〇	一六	二二	二三	四〇
減	九二一 × 一九九	五五 × 一一	七五 × 八	四七 × 九	二二八 × 一四	四六 × 六	八一 × 一三	九四 × 二七	六六 × 三一	八六 × 一六
減	三、二五六 × 七四四	二三一 × 三九	二七〇 × 三一	二三六 × 四九	三三九 × 八八	二三三 × 二八	二四三 × 四四	二七〇 × 七八	二五四 × 一一八	二五五 × 六五
減	九〇一 × 二六三	六一 × 五	八〇 × 一三	八六 × 三一	七九 × 一五	七六 × 一	五〇 × 一五	六九 × 二四	七七 × 三九	七一 × 一三
減	五、〇七八 × 一、二〇六	三四七 × 五五	四二五 × 五二	三五九 × 八九	五三六 × 一一七	四三四 × 三五	三七四 × 五三	四三三 × 一二九	三九七 × 一八八	三六六 × 九三
減	一、二一〇四 × 二一〇	六七 × 二七	一二一 × 一六	九八 × 一六	八八 × 一三	八二 × 八	七一 × 一四	九六 × 二二	九三 × 三〇	五九 × 二五

備考　×印は家族あると同居せざるものを示す

一一　警察費

大正八年八月朝鮮警察制度の改革並大正九年一月第二次警務機關擴張に伴ひ警察費豫算は頗る膨脹したるが朝鮮併合當時即ち明治四十三年には警察費二、八九六、二三二圓憲兵補助費一六二、三三〇圓計三百五萬九千五百六十二圓を過ぎざりき憲兵補助費は憲兵警察制度の爲め朝鮮人を憲兵補助員に採用し警察事務を執行せしめたるに依る而して明治四十四年一月朝鮮駐箚憲兵にして普通警察事務を行ふ爲要する經費支出方に付て當局間に協定あり、特別會計として明治四十四年度所要額たる三萬九百四十三圓を警務費の負擔とせり、斯くて大正元年度以降制度改正迄は三萬三千餘圓乃至五萬二千餘圓の憲兵費及百十餘萬圓の憲兵補助員費を警務費として負擔し來れり、警察經費は年々增加し大正七年度には警務費四百三十五萬七千百十四圓憲兵補助員費百十七萬七千百〇四圓憲兵費二百四十六萬九千七百四十九圓となれり斯くして大正七年度警務費憲兵補助員費憲兵費の豫算總額は八百萬三千九百六十七圓なりしか大正八年度には警察制度の改正に依る警察官の增員諸物價騰貴傳染病豫防騷擾事件等の爲豫算總額一千六百七十五萬四千八百六十六圓に上り、前年度に比し實に八百七十五萬八百九十九圓の增額となり大正九年度は更に約七百二十萬圓を增額し其の總額實に二千三百九十四萬八千餘圓となれり、蓋し此の著しき增額は當時の狀況として止むを得ざりしものなり爾來世態の變遷に伴ひ警察

施設の必要に迫られ從つて諸經費も增額を要するが豫算の關係は增額を容れず、大正十年度は主として調辨費及虎列刺豫防費より百八十九萬四千百七十五圓を減額し即ち大正十一年度は國境警察官六二一人の增員に要する經費として二十五萬餘圓增額し大正十二年度は行政整理の爲十八萬餘圓減額し大正十三年度は九百万圓餘減額したり

大正七年度以降警察費調

年度別	警察費	前年度に比し增減	增減の主なる理由
大正七年度	八、〇〇三、九六三円		
大正八年度	一七、七三四、七九四	一三、三七七、六八〇	憲兵費二、四六九、七四九圓及同補助員費一、一七七、一〇四圓ヲ含ム又本年度經費ハ大正八年度ニ至リテハ物價騰貴ニ依リ當然約五割ヲ增加セラルヘキモノトス
大正九年度	三三、九四八、四一五	六、二一三、六二一	主トシテ傳染病豫防費騷擾事件費物價騰貴及警察制度改正ニ依ル警察官一〇、五六一人增員ノ經費トス
大正十年度	二一、九六四、九八七 △	一、九八三、四三八	△主トシテ前年度初度調辨費及虎列刺豫防費ノ減少トス
大正十一年度	三三、二五六、二四一	二九一、二五四	△主トシテ國境警察官六二一人增員ニ要シタル經費トス
大正十二年度	三三、〇六七、五二三 △	一八八、七二九	△行政整理ニ伴フ減トス
大正十三年度	二一、九七三、七八九 △	九三、七三三	△主トシテ前年度限リノ防寒被服費ノ減少トス

備考　△印は減書とす

大正十四年度地方警察豫算

款項	金額	款項	金額
（總計）	一九、六七〇、〇七〇	馬匹費	一七、二〇五
計	一、六八八、一二四	船舶諸費	八五、二一三
俸給	二四五、六六八	雜費	一三八、三七五
奏任俸給	一、三七二、四四六	留置人費	四七五、四六六
判任俸給	一六、六四一、一六五三	器具費	一三、六〇八
事務費	七三〇、八〇九	食費	一九五、三三九
廳費	一二九、六七五	雜費	二六六、五一九
修繕費	二、九七二、一七六	衛生及防疫費	六六九、六五〇
巡査俸給	一、二四八、〇四四	衛生費	三六四、二九七
旅費	二一〇、九一五	傳染病豫防費	三〇、〇〇〇
給與	七八、〇〇〇	檢疫及患者費	三八、二三七
雇員給	三三四、一一三	獸疫豫防費	八八、六九六
傭人料	七三七、〇八五	移出牛檢疫費	九三、〇五七
宿舍料	一九七、九四五	傳染病及地方病研究費	六、一七五
渡切費	九二〇、七〇二	執行及送達費	三五、二九〇
被服及帶具費	四二、三五八	執行及送達事務費	三五、二九〇
銃器彈藥費			

一三　警備船警備電話

警備船　沿岸警備の爲汽船五隻、發動機船十六隻を二十一箇所に配置せるも海岸線の延長一萬七百三十二哩及國境河川の三箇所にして到底未だ沿岸要地に普及せしむるに足らず、之等警備船は其の設置當時に在りては主として海賊及暴徒の掃蕩に使用したるものありしも、爾後海運の發達漁業の振興等に依り警察事故激增し出動を要すること頻々たるに至りしかば或は陸軍省所管船を借り入れ又は海軍省所屬の船舶を保管轉換し或は發動機船の新造等に依りて其の隻數並に噸數を增大し以て沿岸主要港灣に配置したり、然れとも出動上尚遺憾の點尠からず且つ在外不逞鮮人に對する警戒等に關しても亦至大の注意を拂はざるべからざるを以て大正四年度に於て五十七噸級汽船二隻大正十年度に於て一隻を新造し尚不逞鮮人警戒の爲海軍省所屬の短艇六隻の保管換を受け大正十二年度三隻を警備船に蟻裝配置したるが更に殘三隻に對しても同樣蟻裝し鴨綠江、豆滿江に配置せむとす斯くて年々警備船の配置充實を圖り居れり。

警備電話　警備電話の架設は朝鮮總面積一四三一二方里に對し架設線の延長里程大正八年七月（制度改正前）一六四七里に過ぎさりしか現在に於ては警察官署駐在所相互間の延長里程七千四百八十八里餘に對し警備電話線の延長里程三千六百五十四里にして其の差餘りに著しく而も警察區劃は別項述ぶるが如く面積廣大にして甚しきは一警察署にして二五四方里を管轄するあり警察署駐在所間の距離三十里以上のもの亦少からず、而已ならず專用線は一千九百三十一里にして公衆電話線に兼用せらるゝもの一千七百二十二里あり電話通信繁き今日に於ては通話常に輻輳し場所に依りては一日中通話不能の事あり警察事務處理上及ず支障少からず。須臾も等閑親し得ざる狀況にあり、一層之れが增架設に付ては常に努力せる處にして大正九、十年に於て京城を中心とし釜山、咸興、海州、公州、淸州此の延長里程、約四百六十七里に長距離警備電話を架設し沿線各所間に於ても通話し得ることゝせり、尙此の外に京城には特設警察專用電話あり其の延長百八十三里餘電話機數百四十二個あり警察官署所の數二千九百四十四に對し警備電話九百二、公州電話三百十五架設しあり京城に於ける警察專用電話は警務局部署及各派出所一四二一に架設せり而して之を大正九年六月制度改正の直後當時に比較するときは警備電話に於て三百九十八箇所公州電話に於て百四十五箇所增加せり。

電話架設箇所調表

（大正十三年十二月末）

種別 / 道名	部署	駐在所	派出所	出張所	合計
	部署數	公衆電話	公衆電話	公衆電話	
		警備電話	警備電話	警備電話	
		駐在所數	派出所數	出張所數	
		公衆電話	公衆電話	公衆電話	
		警備電話	警備電話	警備電話	
京畿道	二六	五三	六二	四	四七九
		六七	八四	二	
		一六六	四八	三	
		一			

忠清北道	一一	六	一一	九四	—	三〇	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
忠清南道	一五	八	一五	一五八	四	二七	五	四	一	五	一	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全羅北道	一五	一〇	一四	一七七	—	二二	一〇	六	五	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
全羅南道	二三	一四	一九	二四〇	七	三三	六	六	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
慶尙北道	二四	一〇	一八	二五四	三	二八	一一	一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
慶尙南道	二四	一六	一八	二三八	五	一〇	一九	二九	一	一四	一	一	一四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
黃海道	一九	四	一五	二一三	一一	四〇	四	二	一	三	八	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
平安南道	一七	一四	一四	一三八	五	三五	二一	一八	五	八七	八	一	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
平安北道	二五	一〇	二三	一九五	—	一〇八	八	五	—	八七	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
江原道	二三	四	二一	一六七	—	四六	二	一	一	三	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
咸鏡南道	二一	一七	二〇	一八〇	二	五一	六	六	—	四	一	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
咸鏡北道	二〇	六	二〇	一三五	三	七二	五	三	二	二六	一	一	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	二六三	一七二	二七五	二、三五五	四〇	五四四	一五九	九九	五九	一六七	四	二四	一四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正十二年	二六一	一四七	二八七	二、二七一	四〇	五二七	一七一	八九	七二	一八六	一	三〇	四、〇八二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大正十二、十三年比較增減	增二	增二五	減一三	增八四	—	增一七	減一三	增一〇	減一三	減一九	增三	減六	增七九	減一	增一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一	減一

一四 治安狀況

騷擾事件 朝鮮の治安狀況は恰も韓國併合後十年を經過せる大正八年三月一日突發したる所謂萬歲運動に伴ふ騷擾事件に依り著しき變遷を來せるを見たり其の騷擾事件は約二箇月にして鎭靜に歸し集團的示威運動に至りては殆ど全く跡を絕ちたりと雖、當時の朝鮮に於ける民心は騷擾の餘波を受け痛く平靜を缺き不安の情勢は上下一般に漲り爲に個々の煽動脅迫等は一時尙頻發し其の極度に達せし際には依然として或は獨立を實現するにあらざるやと信する者あり其の然らざるものと雖脅迫其の他の危害を虞れ曖昧なる態度を示し荏苒經過し居たり。

大正八年八月警察制度の一大改革を行はるゝや同時に警察力を充實し爾後鋭意警察上諸般の施設を整備し併て不眠不休の努力を以て警戒に盡せるに依り、不逞企畫は事每に未然に摘發せられ又施すに術なきの餘儀なきに至り時日の經過と共に智識階級に屬する者より漸次に獨立運動の無謀にして絕對不可能事たるを悟り、曩日不逞運動に不和雷同せし無智の鮮人も殆ど悔悟し或は生業に復し或は進んで前非を官憲に陳謝し再び妄擧に出てざるを誓ふ等の者續出するに至れり、而かも其の不逞企畫及之に關係する各種犯罪事件の多くは其の根源を在外不逞者の使嗾煽動に發し或は在外不逞者自らの潛入に依り敢行さるゝものなりしに上海假政府を始め其の他の不逞團も僅に餘喘を保つのみにて信望內外に失墜し民心離反したるに依り大正十年以降形勢一變し著しく平靜の狀態に復したり。

獨立運動の近因 獨立運動を惹起するに至れる近因とも認むべきは斯の歐洲戰亂久しきに涉り政治、經濟、思想等の社會世想に一大變化を致し殊に思想上に變遷著しきを見るに至れるか故に此の機に

乘し在外不逞鮮人は頻りに祖國の復興を叫び其の手段として恰も當時歐洲に於て高唱されたる民族自決主義を多數鮮人が誤解せるを利用して朝鮮民族を糾合し以て內外相應して祖國復興の意思を世界に表明するの必要ありとし新聞、通信、雜誌を利用するは勿論講演其の他の方法に依り鮮內に煽動的宣傳に出て且外國の新聞に揭載し之が流布に努めたり、茲に於て世界思潮の變動に刺激せられ加ふるに頻發せる各種の流言蜚語に一縷の希望を抱き久しく潛在せる事大雷同の痼疾は擡頭し遂に騷擾事件を惹起するに至りたるものなり。

現況　無稽の妄說を流布し不穩の文書を配布し民衆を誑惑せんとするの徒及對岸支那地に於ける不逞鮮人の國境より潛入して部民を劫掠する鼠賊的蠢動は今尙其の跡を絕たざるも、此等は何處にも散在さるゝ强盜及不良性を帶ふる者の言動の類に屬し一般民心を衝動俄發するか如きことなく、一般民衆は寧ろ往年成立せる媾和會議の內容に依り民族自決其の他不逞者の高唱せる各種の問題及之等の影響に依りて起りし諸問題は其の不可能たるの眞相一層明確を致し、加ふるに國際聯盟の力又は亞米利加の同情に依る獨立運動も全然妄信の結果なること判明せるを以て朝鮮の獨立は絕對的不可能なるを漸次覺るに至り今や不逞行動を爲す者を怨むに至れり、而已ならず不逞事件は徹底的に檢擧せらるゝを以て爾後大事を釀すことなく治安克く維持せられ警察對民衆の關係も日に良好に赴き警察諸制式の改善整備と相俟つて完全に民衆の生命財產を保護し且善導に努力しつゝあり。

最近義烈團一味が朝鮮及內地に於て試みたる兇暴計劃は人心の刺戟に依りて在外不逞鮮人の團體が終焉將に迫り僅かに餘喘を保つに過ぎざるを以て此の頹勢を挽回せむとする窮餘の蠢動に外ならず、然るに或は未然に檢擧せられ或は奏功確實ならずして何等人心を繫くに足らざるのみならず一般鮮人は却つて時勢を知らざる無謀の擧なりとし、其の愚を嗤ふと共に旣に安定せる朝鮮の治安を徒らに攪亂し延て無辜の鮮人に累を及ぼすものなりとして戇戆しつゝあり、大勢旣に斯の如し彼の所謂軍資金募集脅迫文配布時局標榜强盜の如きは旣に陳腐に歸し此の種の犯罪は殆ど跡を絕つに至れり。

大正十二年春義烈團員に依りて敢行せられたる京城鍾路警察署爆彈投擲事件及京城に爆彈搬入事件後に於ては世人の耳目を惹くべき重大事件の發生を見ず從來流言蜚語多かりし所謂獨立記念日なる三月一日も極めて靜穩に經過し又在外排日鮮人にして歸順自首するもの漸く多からんとする傾向ある等一般人心の趨向を察知するに足るものあり、唯平安北道國境對岸に根據せる朝鮮匪賊の侵入今尙絕へざるも之等も其の被害地域僅かに江岸一帶の地に限らるゝが故に全鮮の治安には殆ど影響する所なきなり、然しながら社會世相の變遷及其の進步發達は一般生活に著しく影響を及ぼし近頃に至りては思想問題勞働問題等の研究は一種の風潮となり又傳統的早婚の弊及大家族制の打破、婦人の開放、產業の開發、敎育の振興等に付て最盛んに改善促進を唱へ之が實行に奔走する者少なからず、就中文化の促進產業の開發は鮮人上下を擧げて抱懷する思潮となり其の要求の熾烈なること

驚くべきものある程なり。

文化の促進産業の開發等は畢竟生活上の實際問題を改善するにありて既往に於ける空疎なりし行動は頗る具體化しつゝあるの現象にあり、又民權伸張の念旺んにして言論の自由を叫び且諸種の請願を實現するの運動益々滋からんとす、而已ならず一般に民族的自覺益々進みつゝありて各種の事例に之が表現されあり、即ち官立大學の設置に對し民立大學期成準備會の設置朝鮮産業調査會の開催に對し經濟會細民會の設置或は朝鮮に於ける內地人の産業を制限するの建議を以て或は物産奬勵會土産愛用會を設置する等其の具體化せる事項も少からず而して殊に青年の內には自暴自棄的に共産主義過激主義を謳歌し或は內地人の社會主義者と提携し或は露國過激派と氣脈を通じて社會革命運動の促進に努めんとする者なきにあらず、故に社會主義者在外不逞鮮人及共産黨員に接觸密なると其の行動の如何に依りては向後に於ける一般人の行動特に思想に付て一層深甚の注意を拂ふの要切なるを思はしむるなり、然れとも一面に於ては如上の諸問題を捉らへ空理空論なりとし實際上の問題としては今日の朝鮮は日本を離れて自立すること能はざるを以て相互共昌共榮の實を擧くべく內鮮人相提携すること鮮人の爲最幸福なりとの觀念を抱持する先覺者漸次增加しつゝあるの實況にして、現に維民會、朝鮮小作人相助會、國民協會、同志會外九個の團體は官民一致、施政改善、思想善導、勞資協調、生活安定を綱領とし內鮮融和共存共榮の實を擧ぐべく大同團體を組織し廣く其

の趣旨を發表したり、又大正十三年五月十五日發會式を擧げたる同民會も亞細亞民族結合の基調として內鮮融和の徹底的實行を期し併せて質實剛健の氣風を養ひ輕佻浮薄の思潮を排することを綱領とする等此の種の團體益々增加の傾向にあり、之等の團體を善導すべく又西伯利亞其の他の在外不逞鮮人團の潛入跳梁及共産黨員との接觸等に善處すべく一般鮮人の行動に關しては深甚の注意を拂ふの要切なるを認むるなり。

一五 國境警備

國境の地勢 朝鮮に於ける國境は鴨綠江及豆滿江の兩河を以て露支兩國に相接し其の里程の延長八百十三哩に達す、所謂國境警備區域は地勢其の他の關係に依り一定せざるも幅員江岸より概ね五里乃至十里に涉る地域を指すものにして其の面積千八百餘方里に及ぶ廣漠たるものなり、之等の地域は中央に高嶺蟠屈し其の支脈四方に趁り山嶽重疊險路峻坂縱橫し殊に白頭山麓國境約二十里の間は密林地帶に屬し電線も架設し能はず交通殆絕へたる無人の地にして僅に兩流域の下流に於て辛して車を通し得るの外其の上流は人肩馬背に倚りて漸く物資を運搬するを得るに過きす日支兩岸の山岳巍峨として相迫り斷崖絕壁の箇所多し、如斯鮮內の交通困難なるも冬期は江上氷結し牛馬車の交通自由なり、尙豆滿江は舟揖の利用に欠缺多きも鴨綠江は高瀨船の利用盛なり而かも最近は發動機船上

下するを以て利便少からず而して夏季到る處に渡船あり又江口より十數里の外は水淺く渇水時には到る處容易に渡渉し得るを以て對岸との交通は容易たるなり又對岸には廣袤たる平野横はり其の地味一般に豊饒なるに依り賊は概ね支那各地に根據を構へ居れり。

匪徒の狀況　大正八年三月の騒擾事件勃發前に於ては國境地方に在りても時に支那馬賊の侵入を見るの外鮮人匪賊に關し大なる事故なかりしも騒擾事件勃發後に於ては同事件に關係せる者の一部其の檢擧を恐れて支那地に遁入し同地に在住せる無賴不逞の徒と合して匪賊と化し各種の不穩團體を組織して各地に根據を構へ上海潜稱假政府等と連繫して武力侵襲を敢行せんと常に我が警備力を凱覦し巧みに國境沿岸の警戒網を潜りて鮮内に侵入し獨立運動の目的達成に供する資金を得ると稱し所在民家を襲ひて掠奪、放火、殺傷、等總ゆる兇暴を擅にし時には駐在所、面事務所其の他の官公署を襲撃するに至り國境地方一部に於ては今尚其の跡を絶たさるなり。

右匪賊の狀況は大正九年兇暴の度最甚しく總件數一千六百五十一件匪賊人員四千六百四十三人其の被害殺傷五十九人放火三十六戸損害一萬七千三百八圓被害金品十一萬四千八百八十九圓警察署駐在所の襲撃四十四箇所警察官の殉職八人同負傷者二十名に及べり爾後警備力の充實と嚴密なる取締警戒と想俟つて漸次減少し咸鏡北道及咸鏡南道に屬する國境延長線約二百里に亘る一帶の地に於ては十二年以降部隊侵入の如き殆ど皆無く偶々時局を標榜し強盗殺人等の不逞行動に出つるものあるも多くは私慾を充す者に過きず（別表參照）然れとも其の國境支那地には今尚各種の不穩團體あり然のみならず同地方は常に馬賊の横行甚しく一昨年七月の如き約百五十名の支那馬賊の一團は咸鏡北道三長警察署農事洞駐在所を襲ひ我が巡査に死傷を出し又昨年八月二日咸鏡北道茂山郡篤所警察官出張所に支那馬賊十數名の一團來襲し亞て十月四日夜中約三十名より成る支那馬賊三長上流約一里上四洞（茂山郡三長面）に侵入し民家を襲ひ金品千二百圓を強奪被害者五名に負傷せしめ對岸に逃走せる等の事例ありて取締警戒上毫末も間隙あるを許さざるなり。

以上の如く咸鏡南北道の國境に於ける匪賊の情勢は概ね靜穩なるに反して平安北道管内に於ては匪賊の兇暴今尚甚だしく殊に十三年五月十九日齋藤總督國境巡視に際し平安北道馬嘶洞附近航行中大韓統義府第一中隊長白狂雲の部下數名は總督の一行に對し小銃射撃を行ひたるが其の後夏秋に亘り匪賊の横行一層著しく其の侵入件數大正十三年を通し四百七十九件其の匪徒三千三百五十三人にして之れを大正十二年に比較するときは件數九十件人員一千一百六十六人を増加し更に之を侵入の最も多かりし大正九年に比するも人員に於ては五百五十二人を増加せり。之れ從來彼等の糧道たり又對岸移住鮮人が支那官憲の請求支那及朝鮮馬賊の積年の掠奪に依り財貨既に沽渇し最早奪ふべき餘財なく賊徒自らも亦形勢の日に非なるを知り自暴的に鮮内に侵入して掉尾の狂亂を敢てするに至りたるものなるべし。

匪賊は根據を支那地に置き團結して蟠居し彼等は精巧なる「コールド」式又は「モーゼル」式連發銃を所持し其の行動頗る敏捷地理に精通し野營粗食に馴れ部隊訓練に長するを以て出沒自在巧みに對岸より越境侵入し晝間は人跡未到の山岳又は密林地帶に潛伏し日沒を俟つて橫行するを常とす其の目的とする處も直接には金品武器の强奪に在り從て其の行動概ね支那馬賊に類するも中には我が官憲を攻擊するものあり大體政治的意義を有するものにて從て其の橫行して暴威を振ひ殘忍暴虐を極むるの犯行は地方の不安を釀成するのみならず一般鮮人の思想にも重要の關係を有し支那側の治安狀況及西比刺亞地方の情勢如何と相俟つて須臾も警戒を忽にするを許さず今後益々多事多難なると共に其の危險豫測し能はざるものあり從來之れが檢擧勦滅に努力する處少からず然るに年々匪賊の跳梁する狀勢を反覆するの已むを得ざる所以は、一は國境一帶の地勢たる長白山及白頭山の支脈四方に趁り山岳重疊險路峻坂縱橫し加ふるに密林地帶あり鮮內の交通極めて不便なるに對岸の交通易々たるか故に匪賊の潛伏對岸への遁走に頗る地の利あり、加之鮮人被害者は匪賊の脅迫に依り後難を恐れ被害事實を官憲に申告せざること多く甚しきに至りては却て我が官憲の行動を密通し又は犯行を隱蔽する等彼等を庇護し匪賊の橫行を助成するものあり而して匪賊の我が官憲に發見せらるゝや彼等は發砲しつゝ逃走を企て其の追跡に會へば直に支那地に遁走するを常とす然るに支那官憲の匪賊に關する取締は未だ信賴するに足らず本府及地方當局は常に匪賊の取締を要求督勵し或は諒解の下に我が搜査隊を對岸に進出せしむる等臨機の方策を採り居れりと雖も未だ其の禍根を絕つが如き根本的方途なきによる。

大正十三年中良民の被害殺傷八十九人放火七十戶其の損害三萬七千餘圓金品の被害三萬五千餘圓にして又警察官駐在所同出張所の襲擊九ケ所警察官の殉職者十四人同負傷者十五人を出したり之等の被害は五月以降九月迄に於て特に兇暴の度激甚を極め十月以降俄然減少し特に十一月以降激減したり十一月以降二ケ月間の被害の如きは放火二戶其の損害二百二十圓金品の被害三百八千三圓警察官駐在所の襲擊一に過きず之を前年同期に比するも著しき減少にして現在平靜なる狀態を呈し居れり然れ共結氷期間中減少するは例年の現象にして之を以て直に匪賊鎭定せりと云ふ能はず。

匪賊の檢擧勦滅には全力を擧げて銳意努力する所にして前記大正十三年中の被害に對し之が檢擧四百二十二件五百三十九人匪賊と衝突したること百三十回にして射殺したる者七十五人負傷せしめたることの明白なるもの十人爆彈銃器の押收五十八個其の他彈藥等犯罪の用に供したる物件を多數押收したり。

警察官の配置　警察署は一府郡に一警察署を設置するを常例とせるも國境三道に在りては其の面積廣大且特殊の警備關係あるを以て此の通則を超へ特に警察官署の設置を密にせり即ち咸鏡北道は十一郡に對し十九箇署を咸鏡南道は十六郡に對し二十箇署を平安北道は十九郡に對し二十四箇署を設置

せり、猶鴨綠江岸には約一里の距離を以て駐在所又は出張所を設け一箇所に四人乃至十人を配置するの標準を定め江岸以外の地に在りても成るべく多く之れが設置に努めたり、之に對する警察官の配置は大正九年以降逐次巡査千四百二十六名の増員を行ひ今次の行政整理に於ても三道を通して警部（内地人八名 鮮人二名）警部補（内地人十七名 鮮人十名）を減員せるのみにて巡査は一名も減員せざるのみならず却つて敎習に充つべき巡査七十名を増員せり而して現在に於ける警察官署の數警察職員の定員竝各署に於ける配置人員等別表の如し。

斯くて國境に於ける巡査一人に對する面積及人口平安北道は面積、六三方里人口四六一人咸鏡南道は面積一、四三方里人口八七四人咸鏡北道は面積、九七方里人口四一八人に當る之を各道の平均面積、八九方里人口一、一〇四人に比較するに敢て大差なきが如しと雖實際は平安北道に在りては管内警備力の十分の五を江岸警備に充て道内全般を通しては其の配置に遺憾とする處なき能はざるものとす。

警備設備

（イ）警備機關（主トシテ駐在所出張所）の周圍の地勢を參酌して塹壕を廳舍の周圍に掘鑿し土壁鐵條網木柵を廻らし堡壘を築きて警戒に任するの外必要の箇所には見張臺を設置し或は交通壕を掘鑿せり尚大正十二年以降の新築駐在所には事務室及宿舍の外側の壁を全部厚さ二尺以上の石壁を以てし銃丸を防ぎ匪賊の襲撃を受けたる場合其の構内を安全地帶たらしめ少數の人員を以て優に多數に當り得るの方法を講し居れり。

（ロ）平安北道に在りては吃水淺き機關銃を備へ付けたる小型の發動機船三隻を咸鏡北道に在りては警備船一隻を配置し夏季江岸の警戒に任せしむ。

（ハ）對岸支那地の狀勢を考慮して江岸樞要なる地平北に三箇所咸南に二箇所に機關銃各一挺を備付す。

（ニ）江岸樞要地點には所々に塹壕を掘鑿し或は掩壕を設け或は渡航地點を制限指定して匪賊の侵入を監視しつゝあり。

（ホ）警備電話を江岸駐在所出張所の本部分に架設す。

（ヘ）武器は主として三八式及四四式騎銃を備付し外に少數の拳銃を配付す銃器は一人當り一挺とし定員に比例す拳銃は配付少きに依り各自希望に依り私物として購入せしめ彈丸を官より支給す斯くて拳銃は三人に付二挺の割合に在り劍は國境警備勤務に從事する者には短劍を佩用せしむ。

（ト）被服　服裝は冬服は黑羅紗夏服を白地とす一般給與の被服の外冬期には茶褐毛布地毛皮付の防寒外套、及毛皮付の防寒胴着、防寒帽、防寒シャツ、同袴下、防寒沓下同手套、同覆面を貸與して防寒の設備を完全にし更に時期に拘らず捜査討伐用として茶褐衣袴茶褐又は草色の外被を貸與せり。

國境警察官の服務狀況　國境に配置の警察官は主として匪賊に對する警戒防備に當るものなるを以て元氣潑溂たる壯年者を以て配置せるより軍籍に在るもの比較的多數を占むるも治安の狀勢別項述ぶる如きに依り平素の勤務に晝夜の別なく寧ろ夜間の活動に重きを置き全く不眠不休の努力を以てせり匪賊は我が官憲に遭遇せむか直に發砲するのみならず常に我が警備線を凱覦するを以て寸刻の油斷を許さず故に警察官は就寢に際しても不時に備ふる爲武裝の儘銃器を枕に假眠するに過ぎざる狀態にして全く休養安息するの暇なき狀況なり。

日常の勤務は江岸巡察、要地の張込、檢問勤務に於ける見張遊動捜査一齊戸口調査討伐の外一般警察事務を執行し尚別表の通稅關事務執達吏事務、專賣事務、林野保護取締、郵便護衞等殆ど枚擧に暇あらざる不斷の勤務に當るものにして規程に依る時間勤務の如きは爲し能はず從つて休日の如きは絶無なりと言ふも過言にあらず勤務に當りては其の種別を問はず又制服私服の別なく必ず銃器を携帶せしめ制服の場合は必ず卷脚胖を着用せしむ其の巡察の如き或は山岳重疊又は斷崖絶壁の地を晝夜を分たず巡行するものなるが殊に匪賊の捜査及逮捕に當りては晝尙暗き雜草を掻き分け又は積雪の爲通路さへ判明せざる山中を辿り或は粟を嚙み或は野に寢ね峻坂幽谷を跋り時に追跡數旬に渉ることある等其の激烈なる勤務狀態は恰も戰時に相讓らず而かも大正十三年中殉職せる者十四名負傷せる者十五名に及び其の辛慘勞苦は名狀すべからざるものあり。

國境一帶は僻阪地にして從て物資の供給不便多く甚しきは白米を小包郵便にて取寄せる狀態なるが時に缺乏し不測の苦を嘗むる事例少からず而かも凛烈なる寒威と戰ひ其の間何等慰安の途なく荒寥たる生活を爲し殊に醫療機關に乏しき爲一旦病魔に冒されむか數里若は數十里を隔つる警察署所在地に至り治療を受け又は醫師を迎へさるべからず不慮の災厄に當り急遽治療を加ふるが如きは望むべからざる場合多く是等の失費は概して甚多額に上るを以て止むなく家族を別居せしむるもの又は獨身生活を繼續するもの少からず生活上種々の困苦相伴ふは實に同情に餘りあり。

然れども職員は孰れも身體壯健にして志氣旺盛其の行動勇敢機敏能く規律節制を守り困苦を忍び缺乏に耐へ職責を重し一意國家の爲に奉仕せり從つて其の家族あるものは妻子に至る迄志氣緊張し婦女も亦射撃の演習を爲しつゝあるの實況にして伊津野巡査部長夫人が男子も及ばさる壯擧を以て賊徒を擊退し身も亦銃彈を受けて遂に斃れたるが如きは著名の事例なるが何れも非常事件に當りては妻女も拳銃を執りて交戰し又は通報連絡の任に當る等實に惰夫をして起たしむるの慨あり、以上の外國境地方に於ける警察官は警察本務の旁地方民の爲に各種の指導誘掖に努力し或は不就學兒童の爲夜學會を興し或は道路を改修し或は貧民を救濟する等其の事例は寧ろ國境地方の警察官に於て

其の多きを見る狀態なり。

國境三道警察官署調

道名	警察署	派出所	駐在所	出張所
平安北道	△二四	△一三	△五	△八四
咸鏡南道	△三〇	△五	△六	△一二
咸鏡北道	△一九	△二	△一六	△四三
合計	△六三	△二九	△一七	△一三八

備考　△印は江岸警察署を示す

國境三道警察職員定員表

官職別 / 道別			平安北道	咸鏡南道	咸鏡北道	計
警視	事務官		一	一	一	三
	警部	内地人	三	四	一	八
		鮮人	一	一	一	三
	警部補	内地人	三〇	二五	二四	七九
		鮮人	一二	七	六	二四
港務醫官補			一	一	一	三
技手			三	一	一	五
巡査	内地人		一、九八七	八五九	八二四	三、〇七〇
	鮮人		七七一	五八八	五三四	一、八九三
合計	内地人		二、〇八五	八四〇	八九六	三、九一一
	鮮人		八〇三	六一三	五五六	一、九七一

自大正九年至大正十三年　國境三道匪賊狀況表

年別 / 區別		賊徒件數	被害人員	民人被害 殺害	民人被害 負傷	民人被害 放火	民人被害 金品	民人被害 拉去	警察官被害 殉職	警察官被害 負傷	警察官以外ノ署公殺害	警察官以外ノ署公襲撃負傷
平安北道	九年	九〇八	二、六〇一	二	一四	一七、三六戸	八一、八九二円	一	八	一三	七	一
	十年	四五四	二、一七三	三	一七	一四、一四戸	一六、八一六円	一〇	七	八	二	一
	十一年	三五〇	一、六一九	二八	一五	二九、三二戸	二七、五二七円	一七	九	一三	一	一
	十二年	四三五	二、七三	三五	二六	八一、八五戸	二九、八三三円	三四	一二	一〇	二	一
	十三年	五八八	三、三四九	四八	三三	三六、六八戸	三三、九二六円	六三	八	一五	二	五
咸鏡南道	九年	一二七	五四四	二	六	一戸	五、五六四円		四	六		
	十年	一三三	九三三	二	三	一三戸	一、七九四円		二	三		
	十一年	三五五	三四三	一	三	二戸	二、五〇八円		三	五		
	十二年	一九五	六四	一	二	二戸	五、五九二円		一	一		
	十三年	三五五	九四	二	二	二戸	七四九円					
咸鏡北道	九年	六一六	一、四九八	五	二		二七、一六八円		一	一		
	十年	一六三	四三		一		六一一円					
	十一年	一三	一六五		三		三〇〇円		一	一		
	十二年	一							一	一		
	十三年	七	四〇		五		一、二四〇円		一	一		
合計	九年	一、六五一	四四六四三	二八	三三	三六戸	二四、六八四円	一三	一三	一八	一	一
	十年	六〇二	三、一四八	二四	三	二七戸	一六、九四二円	一〇	九	一八	二	一
	十一年	三九七	二、一二七	二九	二二	三四戸	二九、七二五円	一七	一三	三〇	三	一
	十二年	四五四	二、七九七	五三	三八	八五戸	二一、九三三円	三四	一二	二四	二	一
	十三年	五六〇	三、四八三	四九	四〇	七〇戸	三五、九一三円	六三	九	一四	二	一

衝突 鮮內	衝突 對岸	賊の損害 射殺	賊の損害 負傷	賊の損害 爆銃器押收 銃	賊の損害 爆銃器押收 爆	檢擧 件數	檢擧 人員
四三	三	九一	—	八九	五	六二六	一、七四二
六〇	七五	二〇六	—	一四六	三	三五九	一、一九六
四九	八七	一九四	—	九一	一二	二〇九	二五九
九〇	四〇	九四	—	六六	三三	二五七	五四九
一〇六	二	七三	一〇	四七	二	三九〇	四七三
—	—	二	—	九		八六	四七六
—	—	四九	—	三五	九	一三五	九五三
—	—	三三	—	九	四	一四	二〇
—	—	—	—	一		二五	三五
二	一	三	—	九		一七	三三
—	—	三	—	一二	六	二三四	六九五
—	—	四	—	二		七六	二五二
—	—	二	—	七	四	一九	三六
—	—	—	—	—		一四	一七
—	—	—	—	—		一五	三四
四三	三	一〇六	—	一〇九	一二	九四六	七、九一三
六〇	七五	二五九	—	一七三	一三	五七〇	三、四〇一
四九	八七	二一九	—	一〇七	二〇	二四三	三一五
九〇	四〇	九四	—	六七	三三	二九六	六〇一
一〇八	三	七五	一〇	五六	二	四三三	五三九

國境警察機關一覽表

（大正十四年三月末現在）

種別 ＼ 署所別	平北 本署	平北 派出所	平北 駐在所	平北 出張所	平北 合計	咸南 本署
署所數	一三	七	八四	七七	一八一	五
警視 內地人	一	—	—	—	一	一
警視 朝鮮人	—	—	—	—	—	—
警部 內地人	一三	—	—	—	一三	五
警部 朝鮮人	六	—	—	—	六	一
警部補 內地人	一九	—	一〇	—	二九	五
警部補 朝鮮人	一〇	—	—	—	一〇	四
巡查 內地人	一五五	三三	四二一	三六六	九六四	四一
巡查 朝鮮人	九五	一〇	一七二	七六	三五三	三七
計 內地人	一八八	三三	四三一	三六六	一、〇〇七	五二
計 朝鮮人	一一一	一〇	一七二	七六	三六九	四二

國境警察官吏に對する給與の狀況

種別	咸南 派出所	咸南 駐在所	咸南 出張所	咸南 合計	咸北 本署	咸北 派出所	咸北 駐在所	咸北 出張所	咸北 合計
署所數	—	四四	二	五一	二	一	七二	八	八三
警視 內地人	—	—	—	一	一	—	—	—	一
警視 朝鮮人	—	—	—	—	—	—	—	—	—
警部 內地人	—	—	—	五	二	—	—	—	二
警部 朝鮮人	—	—	—	一	一	—	—	—	一
警部補 內地人	—	五	—	一〇	一二	—	五	—	一七
警部補 朝鮮人	—	—	—	四	一〇	—	—	—	一〇
巡查 內地人	—	二六三	八	三一二	一一八	二	二九三	一七	四三〇
巡查 朝鮮人	—	七〇	二	一〇九	九四	二	一三三	一〇	二三八
計 內地人	—	二六八	八	三二八	一四三	二	二九八	一七	四五九
計 朝鮮人	—	七〇	二	一一四	一〇五	二	一三三	一〇	二三九

手當の種類 ＼ 區別	本俸	加俸（本俸の六割）	加給（本俸の二割）	臨時特別手當	計
國境在勤者 內地人 國境一級地	七〇円	四二円	一四円	一八円	一四四円
國境在勤者 內地人 同二級地	七〇	四二	一四	一五	一四一
國境在勤者 內地人 同三級地	七〇	四二	一四	一二	一三七
國境在勤者 鮮人 同一級地	七〇	—	—	一八	八八
國境在勤者 鮮人 同二級地	七〇	—	—	一五	八五
國境在勤者 鮮人 同三級地	七〇	—	—	一二	八二

部	通常勤務者	內地人	七〇	四二	—	—	—	一一二
		鮮人	七〇	—	—	—	—	七〇
警部	國境在勤者	內地人	五〇	三〇	一〇	一五	一〇五
		國境一級地	五〇	三〇	一〇	一一	一〇一
		同 二級地	五〇	三〇	一〇	七	九七
		同 三級地	五〇	—	—	一五	六五
		鮮人	五〇	—	—	一一	六一
		同 一級地	五〇	—	—	七	五七
		同 二級地	五〇	三〇	—	—	八〇
		同 三級地	五〇	—	—	—	五〇
補	通常勤務者	內地人	五〇	三〇	—	—	八〇
		鮮人	五〇	—	—	—	五〇
巡査	國境在勤者	內地人	四〇	二四	八	一一	八三
		國境一級地	四〇	二四	八	七	七九
		同 二級地	四〇	二四	八	五	七七
		同 三級地	四〇	—	—	一一	五一
		鮮人	四〇	—	—	七	四七
		同 一級地	四〇	—	—	五	四五
		同 二級地	四〇	二四	—	—	六四
		同 三級地	四〇	—	—	—	四〇
	通常勤務者	內地人	四〇	二四	—	—	四〇
		鮮人	四〇	—	—	—	四〇

備考 一、本俸は國境勤務者と通常勤務者（國境以外の勤務者の意）との比較對照上假定したるものとす

二、加給は普通加俸の外邊陬地に在勤する者に支給す

三、臨時特別手當は陸接國境地方に在勤する者に給す

四、道警視の加俸は本俸の十分の四（四割）にして國境在勤者には加俸の外本俸の十分の一の加給あり臨時特別手當なし

國境に於ける巡査假定員の増減經過表

年月	平安北道	咸鏡南道	咸鏡北道	計
大正九年十月	四〇〇	三〇	一五〇	五八〇
大正十年十月	—	二三	—	二三
大正十一年九月	一四〇	九二	八八	三二〇
同	減 一一三	減 四三	六四	減 二二〇
大正十二年二月	二三八	三〇	二五	二九三
大正十三年五月	鮮人 三〇	—	—	鮮人 三〇
大正十三年六月	鮮人 一八〇 二〇	—	—	鮮人 一八〇 二〇
大正十三年九月	一七〇	—	—	一七〇
大正十三年十二月	鮮人 三〇	—	—	鮮人 三〇
合計	鮮人 一、〇一五 八〇	二三二	一九九	鮮人 一、三四六 八〇

一六　保安警察の狀況

勞働爭議　朝鮮に於ける勞働爭議は大正元年より同六年迄六箇年間に於て通計三十六件平均年六件に過ぎざる狀態なりしが大正七年以降俄然擡頭し同十二年迄六箇年間通計三百六十九件平均年六十一件にして優に十倍に當る就中大正八年には一躍八十臺に上り將に勞働運動に一新紀元を畫したる觀あり。

蓋し是れ世界大戰の戰時及戰後に於ける內地事業界空前の殷盛は異常なる物價騰貴を來し延て國民生活の不安を招致したると一面世界的に瀰蔓したる「デモクラシー」又は社會主義的民衆思想の浸襲を受け內地に於ける勞働爭議の瀕發に伴れ勞働運動の漸次有利なる解決を見るに迨ひ一部野心家又は浮浪者の煽動使嗾に依り比較的低率なりし勞銀と生活困難より模倣的流行的に波及するに至りたるものとす、殊に產業の發達未だ幼稚の域を脫せざる朝鮮に在りては固より其の內容も亦內地と其の趣を異にし多くは諸人夫仲仕及籾摺工場人夫其の他雜工場職工の類大部分を占め其の業體も殆んど營利事業方面に限られ物價騰貴に基く生活難を原因とせる小規模なる爭議にして固より勞資の關係未だ內地のそれの如く切迫したるものにあらざるなり、而して大正十年に至り著しき激減を見たるは一は事業主の溫情主義的施設改善に待つものありと雖主として財界不況に基く過渡期の現象と觀るを得べし、故に大正十年以降は寧ろ賃銀値下の反對に原因するもの多きを占め其の結果も結局罷業者の撤回に終りたるもの多きは正に這般の消息を證左するものと謂ふべし、然れとも一面には勞働問題高唱せられ勞働團體の發達機運を促進するものありて比較的平穩なりし朝鮮に於ける勞働運動も漸く組織的となり思想の動搖と相俟つて階級的反目の狀漸次昂調し來れるものあるは否むべからざる情勢にして最も注意せざるべからざる現象なりとす。而して此の現象は今後經濟界の狀況及び勞働者の思想にして大なる變化なき限り現狀を蹈襲しつゝ進み行くものと觀察せらる、罷業の原因は主として待遇問題特に賃金にあるが朝鮮に於ける同盟罷業の特異性として擧げ得べきは其の參加人員が內鮮支の三民族より成ることにして反面より見れば罷業の原因が時としては民族的感情に驅らるゝ場合ありとも認め得らる、事實上內地人若しくは支那人勞働者は鮮人勞働者より優遇せらるゝに依りこれに對し朝鮮人勞働者より待遇改善を叫び罷業を企つること少からざるなり、而して民族關係の本問題は解決一層復雜なり、因に大正八年より同十三年に至る間に生じたる件數總計三百四十一件の內主張の容れられたるもの百四件容れられざりしもの百五十七件妥協のもの七十九件あり、尙朝鮮に於ける支那人勞働者數は大約一萬六千人を上らざるに拘らずこれが罷業に參加したるもの大正八年より同十三年迄の間に於て千四百二十名を算し殊に之れが前年との比較に於て三百三十二名を增加せるは注目すべきことゝす。

小作爭議　朝鮮に於ける小作慣行、小作制度は不備不條理の點多き爲小作人生産の五割以上は地主の收得となり、加之小作地の地稅公課等も小作人側に於て負擔するもの多く且小作年限にも何等の保障なきか爲小作地は地主又は土地管理人たる舍音若くは農監の爲に任意に處分せられ小作人の不安窮乏甚しきものあり。然れとも從來土地を中心として久しきに亘る地主對小作人間の關係は傳統的に情誼厚きものありて爭議の如き相互の紛爭は其數極めて鮮く大正十一年迄は毎年全鮮を通して三十件に充たざりしが歐洲大戰後經濟界の變動に伴ひ內地各地方に於て農村爭議頻發するや數年來各種の小作團體蔟生し一般小作農民の鬪爭的氣分を漲らし小作爭議の釀生を招き、大正十二年には一躍一七六件に上り此の參加人員九、〇六〇人を算し大正十三年には一六四件六、九二九人となり前年に比し若干の減少を示したるも經濟的乃至思想的傾向は漸次深刻の度を加へつゝあるを以て今後一層注意を要するものあり、之を地方別に觀れば概して北鮮地方に尠く南鮮方面殊に慶南、全南地方の頻發を見るは民度と地理的關係に原因す、爭議の原因に至りては小作權移動に基く紛訌大半を占め大正十二年一七六件中一一七件、大正十三年一六四件中一二六件は實に小作權の取消及移動に基因したる地主若は新舊小作人間に絡はる爭議事件にして其の他小作料減額、地稅の地主負擔、小作料査定の不當等小作權の確保と分配の公平を要望する小作改善に關する爭議を主なるものとするも黃海道安岳郡に於ける農民共濟會は以上の小作爭議と著しく趣を異にし、從來の小作爭議と稱せらるゝものの多くは小作人等が自己の生活の脅威たる小作權の異動又は生活低下の原因を排除せんとするより出づる小作料減額等消極的運動に止まるものあれども農民共濟會は自己の經濟的地位の向上を目的とする積極的運動に轉化したるものにして正に朝鮮內に於ける小作運動の第一線を劃したりと稱すべきか。

更に結果に就て考察すれば大正十二年爭議件數一七六件中貫徹六三件妥協五九件撤回四九件にして大正十三年總件數一六四件中貫徹三七件、妥協四五件撤回六二件に對比し寧ろ撤回に於て著しく增加したるは是亦時運の趨勢に鑑み漸く地主階級の自發的小作改善の施設に招致したるに依ると雖一面には地主を中心とせる協調團體の對峙的成立は小作階級をして徒に輕燥矯激なる妄動の不利を覺醒せしむるに至りたるも其の一因たりと思惟せらる。

銃砲火藥類の取締　銃砲火藥類の取締に關しては大正元年制令第三號銃砲火藥類取締令の發布と同時に同年府令第二十五號を以て同施行規則竝に同年警務總監部令第四號を以て同施行細則を制定し嚴重なる取締を勵行し來れるも大正八年制度改正に伴ひ自然之が改正を要するものあり、且時勢の推移と取扱乃至取締上の便宜に鑑み從來復雜なる法規の統一整理を要するものあるを認め爾來之が改正を企圖し攻究研讃を遂げ本年八月二十八日府令第四六號を以て銃砲火藥類取締令施行規則を發布し次て關係法規を整理し十月一日より之を實施せり、蓋し朝鮮に於ける銃砲火藥類取締に關しては

不安上最も嚴密なる取締を要するものあり、從つて此の種物件の授受、運搬、使用及貯藏等に對しては同時に鐵道運輸規程及火藥類船舶輸送及貯藏規則竝開港取締規則の一部改正と相俟て一層周到なる取締の勵行を期せり。

火藥類に關する犯罪は主として南鮮沿海地方に於ける不正漁業に使用する爆藥類の密輸移入又は密賣買等多數を占め本年一月以降火藥類盜難被害六件、密輸移出入及密賣買に依るもの六件を算す、此等は何れも不正漁業に使用の目的に出てたるものと思料せらるゝものにして時局に關係したる事犯なきも過激奇矯の思想を抱持する所謂不逞徒輩にして巧に拳銃、爆彈を携帶潛入するものなきにあらず、或は强盜其の他の不正行爲に使用若は供給の目的を以て銃器彈藥を奪取せりとする者あり又鮮內及內地方面より鮮地經由滿洲方面に兵器彈藥の密輸出を企圖する者あり、殊に支那動亂に際しては之れに乘し事犯敢行の奸商續出の傾向なきにあらざりしを以て一層取締を嚴にし之が警戒檢擧に努めつゝあり。

爆發物使用不正漁業取締に關しては嚴に取締を勵行し大正十二年中檢擧したるもの一九五件六二八人に上り逐年檢擧率の向上を見其の成績良好なるを認むるも、近時發動機船の發達に伴ひ盛漁期に於ける不正漁業は依然其跡を絕たざるのみならず其の方法手段益々巧妙を極め年次此の種犯罪增加の趨勢にあるを以て、特に爆藥の授受、使用の取締を勵行し一面水產組合又は漁業組合を利用し其の他稅關官署內地關係各縣とも連絡を保持し之が制遏撲滅を企圖しつゝあり。

交通取締　朝鮮に於ける交通狀態は各道の地勢に依り差異あるを免れずと雖も年と共に繁激を加へ交通機關も亦漸を軫ふて發達し山間僻遠の地若くは山岳重疊の地に在らざる限り、道路開鑿せられ殊に南鮮地方に於ては警察署所在地にして自動車の便なきもの數箇所に過ぎざるのみ近年各地に於て自動車營業を爲すもの增加し、大正十三年末に於て營業者數二三九、營業線路里數二千八百九十四里之れを大正八年末の一千五十三里に比すれば約二倍半の增加を示す、尙之れを大正十二年三月末現在の朝鮮に於ける一、二、三等道路の總延長里數三千八百三十五里に比するときは實に其約七割を占め鐵道線路の延長千四百五十四里に比するも二倍に相當するの盛況にして地方的交通機關として樞要なるものとなれり、且近時各地に於て鐵道と乘合自動車の連絡輸送の行はるゝものあり、然れとも此等の多くは乘用に使用せらるゝものにして貨物運搬用に使用せらるゝものは僅にして依然荷牛馬車を使用しつゝある實況なり、電車に付ては僅に京城、釜山、平壤の三都市に施設を見るのみにして其延長僅に四〇哩にして未だ著しき發達を見ず。以上の如く朝鮮に於ける交通は鐵道、自動車を中軸として漸次逐年發達を爲しつゝあり從つて之れに基く事故も亦多きを加へ殊に自動車事故は最近三箇年即ち大正十、十一、十二年の三箇年間の發生件數は一、五三四件、死傷者數九四六人の多きに達し其內運轉手の過失に依るもの四二四件被害者の不注意に依るもの四〇八件が主なるも

のにして兩者相伯仲す。之れが取締に關しては常に細心の注意を用ひ道路、鐵道の保全につきては各關係當局と聯絡を保ち一方一般民の注意を喚起し事故發生を未然に防ぐ事に勗めつゝあり。自動車の取締に付きては大正十年七月自動車取締規則を改正し同年七月十五日より之れを實施し構造、速力、檢査及運轉手に關する事項等取締上及一般の利害に關する事項に關しては特に適實を期つゝあり。

殊に京城等の交通繁激なる市街地に於ては交通取締專任の巡査を樞要地點に配置し交通の整理に專從せしむ其他人力車取締規則、荷車取締規則等の各關係法規と相俟つて交通の取締は好成績を擧けつゝあり、尙朝鮮に於ては從來右側通行なりしも種々なる取締上の不便と電車等の交通機關に對する關係に於て著しき危險を感せしめ大正十年十月二十五日道路取締規則を改正し左側通行制を採用し同年十二月一日より之れを實施し、實施前後は特に之れを民衆に周知せしむるに勉め爾來機會ある毎に之れが宣傳に努めたる結果其成績頗る良好なり。

近時發達の航空機に對する取締に付ては未だ成案を見すと雖も中央政府の方針決定と相俟つて施設竝取締上の完璧を期せんとす。

火災消防　從來朝鮮に於ては火災消防に付て何等の施設せられたるものなく一朝火災の發生あらんか施すに術なく拱手傍觀し全く自然の成行きに放擲して顧る者なきの狀況にありて年々尠からざる財

産と人畜とを損傷するところありしが併合以來之等の點に鑑みるところあり、常に地方官憲を督勵し其の地方の情況に應じ消防組の設置或は其の組織の改善又は內容の充實を促し以て一朝有事の際に備へしめ一面一般民衆に對しては時々火災豫防上の諭告を發し、或は講話宣傳、活動寫眞等を利用し以て火災警防觀念の普及を圖れりと雖も逐年各種事業の隆興と共に工場其の他の大建築物增加し火災に依る損害は亦年々增加し大正十三年中火災度數四千五百六十七損害價格五百七十一萬五千三百十九圓に達したるは遺憾とするところなり。

消防に付ては大正四年消防規則を發布し爾來地方官廳をして之が設置を奬勵せしめ一面旣設消防組の器具機械の充實發達組員の訓練を行ふ等消防能力の增進に努むる所あり、爲に主要市街地の消防設備は概ね完成し就中京城府內の如きは義勇消防組の外に常備消防手を置きて消防能力の增進を圖り居るを以て內容外觀共に內地大都市に比肩し餘りに遜色なき程度に發達したり、今大正十三年末現在全鮮消防組の數常備のもの六義務消防七百八十七組消防員の數四萬人を超へ府面の總數二千五百十六に比するときは三面に一組の割合にして未だ以て消防組の普及を誇るに足らずと雖も苟くも市街地を有する府面にして消防組の組織せられざるものなき狀況に至りたるは不斷の奬勵の效を收めたるものと云はざるを得ず。

大正十三年中に於ける火災の度數四千五百六十七損害額五百七十一萬五千三百十九圓にして之を前

年に比すれば度數九百三十七回を增加し損害額に於て百六十七萬二千〇〇二圓を減少せり。

火災原因の主なるものは溫突の不始末に依るもの千七百一件にして該數の三分の一强に當り竈の不始末取灰の不始末放火、雷火不審火、弄火煙草吹殼之に次ぐ而して增加の傾にあるは燐寸の弄ひ等其他の弄火取灰の不始末なり。

私娼取締　從來朝鮮に在りては賣笑婦に對する何等取締を行ふ所なく隨所に私娼の出沒し風俗衞生上看過すべからざるものありしが併合以來先づ明治四十五年發布の警察犯處罰規則中に私娼處罰の規定を設け越へて大正五年料理屋、飮食店、藝妓、酌婦、貸座敷、娼妓等の取締規則を發布し法制の劃一を計り取締に任したる爲舊來の面目を革むるところ少からざりしと雖因習の久しき一朝にして之等の弊風の掃滅を期し難く依然彼等の跡影を止め巧みに取締官憲の視線を避け賣春行爲の密行せらるゝものあるは誠に遺憾とす、近時公娼問題の高調と併て私娼の取締は極めて喫緊事と認め在來の取締方法たる營業監査、戶口調査、巡察其の他の機會に於て臨檢を行ふの外私娼の弊に陷り易き前記の接客業者に對し必要に依りては雇女の數を制限し或は雇入當初の實情を調査し苟も雇傭後賣淫行爲に依り前借金を支拂はしむるが如き又は多額の前借金を契約の內容とするものゝ如きは絕對に許可せざる等の方針に依り徹底的取締を期しつゝあるも尙ほ本年七月の調査に依れば全鮮に散在せる私娼及其の疑ひある者內鮮人を通して實に七千六百五十一人の多きを算するの狀況に在るを以て一段の革正的取締を要するものあり、因に內地人の藝妓娼妓酌婦數は全道を合せて四千八百九十一人なるが內長崎縣よりの稼業者八百九十九人にして各府縣に比し突飛的最多數を占め福岡縣の四百三十八人廣島縣の三百八十四人熊本縣の三百六十三人之に次ぐ其の最も少きは岩手の一人沖繩の二人宮城秋田の三人靑森の皆無なり而して朝鮮人の合計は三千四百十三人を計上し內本籍を慶尙南道に有するもの一千百三十九人にして約三分の一を占め京畿道の六百二十六人平南の四百六十九人之に次ぎ忠北の十一人江原の十二人を最少とせり更に之が敎育に付て調査するに無學の者內地人五百二十三人にして約一割を占め鮮人は二千七百八十人にして約八割に當れり年齡は內鮮人何れも二十五年以上三十年未滿の者にして三十年以上の者は總數の約一割に過ぎず。

代書業者取締　代書業者は其の業務の性質上動もすれば民刑訴訟其の他紛議等に關與し直接間接に之が勸誘鑑定、紹介若は仲裁等を爲し又は土地家屋の賣買讓渡、債權の取立人事周旋に關與し或は詐欺橫領等の犯罪行爲に出つる等種々の弊害を釀し易く殊に朝鮮人は一般に智識低級にして法規に暗く且つ文筆を能くするもの多からず往々惡代書業者の爲欺瞞せられ損害を蒙る者尠からざるを以て之が取締に關しては大正四年代書業者取締規則を發布し別に大正八年及同九年各道に對し內訓又は通牒を發して取締の勵行を期せしめ各道は地方狀況に應し定員を定め且代書料を一定する等取締上毫も遺漏なきを期しつゝありて成績良好なり、而して代書業者は逐年其の數を增加しつゝある狀況

なるも之れ社會人文の進歩に依り事件の增加に伴ふ自然の結果なりと信ず。

大正十三年半期に於て處分せられたるもの許可取消鮮人四十六名業務停止鮮人三名拘留科料鮮人百四十九名として反則者は概ね鮮人なり。

建築物取締　市街地建築物取締規則の制度あるも之が施行地域は現在京城府のみにして其の他の市街地に在りては道路取締規則又は地方廳令等に依り適宜取締りつゝあるに過ぎず、京城府に於ける大正十三年中に於ける建築物は一、三六〇棟二四、二〇六坪にして之を區分すれば新築せるもの平家建四九五棟、二階建二〇八棟、三階建九棟合計七一二棟一八、四〇九坪にして昨年に比し一、一五一棟一七、一八一坪少し改築せるもの平家建一七九棟、二階建一八棟、合計一九七棟二、四一八坪にして昨年に比し四五〇棟三、六二〇坪少し增築したるものは平家建、三九七棟、二階建五三棟、三階建一棟合計四五一棟、三、三七九坪にして昨年に比し五三棟、七一二坪少し其の總計一、三六〇棟二四、二〇六坪たり、其の他温突を新築せるもの、內煉瓦造一二、鐵造三、鐵筋コンクリート造一土管造二、合計一八個にして之を昨年の煉瓦造一二、鐵造三コンクリート造一、土管造二、合計二四個に比するときは六個少し。

變死及棄兒　自殺せし者は內地人一六八人鮮人一、四八七人外國人七人合計一、六六二人にして前年に比し二六七人を增加せり、之を自殺の手段として區別すれば縊死者七四五人にして約二分一を占め入水四八一人毒物又劇毒藥を服したるもの三四一人轢死四三人及物使用四三人銃砲使用九人にして順次相次げり、自殺の原因として區別すれば精神錯亂に因るもの三七四人にして最多く生活困難薄命を歎くもの三一四人、病二五二人、親族又は家庭の不和一七六人、將來の事を苦慮するもの一一三人、痴情又は嫉妬に因るもの七四人、前非を悔ひ又は慚愧に因るもの五二人、商業等の爲損失のもの五〇人等とす。更に之を年齡別とすれば二十歳以上三十歳未滿四九一人を第一位とし三十歳以上四十歳未滿の三一九人四十歳以上五十歳未滿の二〇二人十六歳以上二十歳未滿の一七一人六十歳以上七十歳未滿の一三二人等之に次ぐ。

他殺者は內地人二一人朝鮮人一八二人外國人一人合計二〇四人にして前年に比し三六人の增加を示せり此の內主なるものは怨恨に因るもの五二人過失又は人違に因るもの四一人暴行の爲三九人盜賊の爲一九人痴情に因るもの一一人等なり。

天災其の他の災厄に依り變死せしものは內地人二三二人朝鮮人五、五四三人外國人三三人合計五、八〇九人にして前年に比し九八四人を增加せり、其の主なるものは過誤溺死一、九八三人途上發病の者一、〇一二人洪水の爲六三三人凍死二六三人壓死二三五人過誤轢死一七三人餓死一五〇人墜落の爲一二二人中毒の爲九一人火災の爲八二人土砂崩壞の爲五〇人獸害虫毒の爲四〇人等なりとす。

棄兒は內地人男一人朝鮮人男三一人女三五人外國人男一人合計六八人にして前年に比すれば五人の減少を示せり之を道別に列擧すれば京畿道二八人黃海道一〇人、平安南道八人咸鏡南道六人慶尙南道五人慶尙北道四人全羅南道三人全羅北道二人平安北道二人なり。

警察上救護　大正十三年中警察官に救護せられたるは家屋一千百七戶、船舶百六十七隻、人民九千九百三十一人、人民に救護せられたるは家屋二百三十五戶、船舶百十五隻、人民一千三百二十八、官民協力にて救護せられたるは家屋二千三百三十二戶、船舶二百二十六隻、人民七千三百五十八人、以上を合計するは家屋三千六百九十二戶、船舶五百八隻、人民一萬八千六百九人にして內盜難に罹らむとせし家屋百八十戶、失火、放火、及不審火を消止めし家屋二千六百三十一戶、出水の爲流失せんとせし家屋八百八十一戶なり。船舶にありては盜難に罹らむとせしもの五十七隻沈沒せむとせしもの四百十六隻、出水の爲流失せむとせしもの三十五隻なり。人民にありては盜難に罹らむとせし人三千三百四人、變死せむとせし人三千九百十五人、傷害せられし人一千六百五十八人、泥醉者三千四百五十三人、溺死せむとせし人一千八百十五人途上發病者一千三百八十六人其の他四百五十四人なり。

煙火、引火質物貯藏所及其の他危險物取締　煙火は大正元年十二月府令第四十一號を以て煙火取締規則を制定し煙火の製造、販賣、貯藏、打揚等に關し必要なる事項を規定し取締つゝあるか實施の狀況概ね良好なり。

引火質物貯藏所は明治四十四年六月府令第六十六號を以て取締規則を發布し石油、酒精、揮發油、燐寸に之を適用したり、然るに該規則は貯藏所の位置、構造、設備及貯藏數量等に關する事項の規定を缺き此等は該規則取扱手續を以て之を補ひ居りしも取締上支障なきに非ざるを以て大正八年二月府令第十二號を以て該事項を本則に規定すると同時に燐寸は引火質物より之を削除し尙ほ危害豫防上緊要なる事項を除くの外幾分其の制限を緩和し且つ許可取消、法人處罰に關する條項其の他二三の條項を改正又は追加したるか實施の狀況概ね良好なり。

前項の外鹽素酸加里、鹽素酸曹達其の他爆發性發火性危險物品に付ては朝鮮に於ては未だ其の需要多からず、從て取引及貯藏數量僅少なるを以て特に取締規則を制定するの時機に達せず當分從來の如く警察犯處罰規則等の一部規定に依り取締を爲すも支障なしと認む。

狩獵取締　從來朝鮮に於ては狩獵に關する法規なく其の保護を要する鳥獸たると否とを問はず之が捕獲は各自の自由たりしが時世の進運に伴ひ漸く之が取締の必要を感し遂に明治四十四年四月狩獵規則を發布したり、本規定の要旨は野生鳥獸の捕獲野生鳥獸の巢又は卵及雛の採取、狩獵の場所、方法（銃器張網鷹）及時季學術研究又は有害鳥獸驅除の爲其の他特別の事由に由る保護鳥及狩獵期間外の特別捕獲、狩獵免狀、免狀の有效期間免許手數料等に關する事項にして狩獵期間は每年十月一日より翌年

四月三十日迄とし特に咸鏡南北、平安南北及黃海の五道は毎年九月十五日より翌年四月三十日迄とし免許手數料は甲、乙、特別の三種にして甲種は(張網若は鷹)三圓乙種は(銃器)七圓特別は(藥用材料の銃器を以て鹿熊其の他一定の野生獸類を捕獲せむとする者に一年間の免許有効期間を附するもの)五十圓又免狀の再下付は各一圓の手數料を要す。

古墳遺物の保存に關する取締　各地方廢寺跡其の他間曠の土地に存在する古碑石塔石佛其の他石材に彫刻せし建設物は歷史の考證若は美術の模範として永續保存を圖るべき國家貴重の寶物なるに此等物件を冒認して賣買契約を爲し又は他に移轉して史蹟の喪失を顧みさるが如き非行を敢てする者あるを以て明治四十四年十一月官通牒第三五九號を以て警務官憲竝道府郡に訓達し嚴重監視を爲さしむる所ありと雖尙取締上遺憾の點あるに依り大正五年七月府令第五十二號を以て古蹟及遺物保存規則を發布し以て古蹟及遺物の如何なるものなるかを明かにし保存の價値あるものは臺帳に登錄し古蹟遺物を發見したる場合の屆出臺帳に登錄したる古蹟遺物の現狀變更、移轉、修繕、處分又は其の保存に影響を及ぼすべき施設を爲さむとする場合の許可其の他取締上必要の事項を規定し以て嚴密周到なる取締を爲しつゝありて成績良好なりや。

古物商取締　古物商取締に關しては舊韓國政府時代は何等法規の制定せられしものなく古物の賣買讓與は自由に放任せられたるか爲朝鮮人古物商に就ては全く取締の途なく又內地人に就ては領事館令又は理事廳令を以て規定せられたるものありたるも其の規定區々に亘り且不備の點多く殊に近年內地人の移住漸次增加し、從て內鮮人古物商の數亦多きを加へ從來の如き不備の法規にては到底之が取締の目的を達する能はざるものあるを以て明治四十五年三月之が取締令を發布し同年四月より之を施行せり。

質屋取締　質屋の取締に關し朝鮮人に適用すべき法規としては光武二年十一月法律第一號典當舖規則及農商工部令第三十一號典當舖細則ありしが爲取締上甚しき不便なかりしも內地人に就ては領事館令又は理事廳令を以て取締法規の定めありしのみ其の規定事項甚しく區々に亘り從て取締上の緩嚴其の宜しきを得さるのみならず、尙取締法規なき地方に於て支障尠からず、殊に併合以來內地人の朝鮮內に移住する者逐年增加し來り開港地は勿論其の他の地方にも內地人の質屋業を爲す者多きを加へ全朝鮮內に施行すべき共通法規の必要を感するに至りたるのみならず、內地人と朝鮮人との取締上權衡亦甚しき差違あり不都合尠からざるを以て明治四十五年三月制令を以て質屋取締法に依らしめ內鮮人を同一法規の下に取締まることゝ爲したるも朝鮮にては經濟上の狀態及其の業務上の舊慣とは內地と同一に律すべからざるものあり、仍て利子制限、流質期限、質物處分及質物の滅失又は毀損の場合に於ける損害の負擔に關しては別段の規定を設くることを得べき特例を認め制令施行規則を發布し其の條項中に利子の割合、流質期限、質物の滅失又は毀損の場合に於ける損害負擔の方法は認可を受くべき旨を定め舊慣あるものにして弊害なき以上は可成認可するの方針を採り且經

濟上の關係より利子の割合は取締法の制限に依らざることを得る旨の例外規定を認めたるか施行後の狀況は最も良好なる效果を收めつゝあり。

汽鑵汽機發動機取締　汽鑵汽機發動機の取締は各道共舊理事廳令を以て諸營業取締規則中に規定ありしも理事廳令は朝鮮人に適用されす執行上不便なるに付大正四年八月總督府令を以て汽鑵汽機發動機取締規則を發布し同年九月より之を施行したり、而して本令の主たる規定事項は汽鑵汽機發動機據付の出願及使用認可申請の手續定期又は特別檢査の標準及其の時期又は汽鑵汽機發動機に異狀を生し若は危險の虞ある場合の届出方竝適當の設備を命し使用を停止し取扱主任者の變更を命する等其の他取締上必要なる事項を規定せしか施行後は最も良好の效果を收めつゝあり。

宿屋取締　從來朝鮮に於ける宿屋は內地人は旅人宿、下宿屋、朝鮮人は旅閣、客主、酒幕と稱し內地人宿屋に對しては領事館令又は理事廳令を以て規定せし取締法規ありしも朝鮮人宿屋に對しては別に據るべき法規なし、而して內地人宿屋は內地に於ける宿屋と概ね異ならざるも朝鮮人宿屋は前記の如く取締法規なく自由營業に放任せし關係上客室及料理場は一般に不潔を極め營業設備として殆と見るべきものなく又宿屋と料理屋飲食店との區別なかりし爲公安風俗上弊害尠からさるものあるを以て併合後地方警務部令を發布し相當の取締を加へ又內地人宿屋に在りても時勢の推移に伴ひ營業用家屋其の他營業設備に關し適當の改善を加へしむる必要ありしも併合前の取締法規不備の點多く又規定事項各地區々に依り寬嚴其の宜きしを得ざる憾あるを以て全道同一法令の下に內鮮人を統一する必要を認め大正五年三月警務總監部令を以て宿屋營業取締規則を發布し同年五月より之を施行せり施行後の狀況は一般に良好の效果を收め特に市街地に於ける朝鮮人宿屋は漸を追ふて營業狀態改善せられ從來の面目を一新せり、然れとも市街地外に於ける營業者の營業設備に付ては依然舊套を脫せざるものあるを以て土地の狀況に應し漸を追ふて之が改善を期せしむる方針に依り取締を加へつゝあり。

料理屋、飲食店、藝妓、酌婦、藝妓置屋、貸座敷、娼妓取締　從來朝鮮に於ては朝鮮人料理屋、飲食店等に對する業名の區別なく單に酒幕と稱し、酌婦及藝妓置屋に付ても何等の沿革なく貸座敷娼家、娼婦と稱したり、又內地人に在りても貸座敷は乙種料理店又は第二種料理店、娼妓は乙種藝妓又は第二種藝妓或は乙種酌婦と稱し藝妓置屋に付ては形式上の名稱なし、而して內地人に對しては領事館令又は理事廳令の設けありしも朝鮮人に對しては併合前京城のみに施行せられし娼妓團束令を發布し娼婦の名稱を娼妓と改めたり、併合後は地方の發展に伴ひ前記各營業者年々增加の傾向あるを以て地方警務部令を發布し漸を追ふて取締の歩を進めしも時世の變遷に伴ひ從來發布の法令にては取締上多大の不便あるに依り全道に施行すへき統一的法規制定の必要を認め大正五年三月警務總監部令を以て料理屋、飲食店、營業取締規則、藝妓、酌婦、藝妓、置屋營業取締規則貸座敷、

娼妓取締規則を發布し同年五月より之を施行せり、而して本規則の主たる規定事項は特に風俗上取締を要する貸座敷及娼妓の業を營む者は一定の地域に限局するを原則とし料理屋は藝妓の招聘酌婦の寄寓を認め飲食店は飲食を爲すの外遊興を爲すを禁し、藝妓置屋は藝妓を寄寓せしむるの外客を受くることを禁し其の他藝妓、酌婦、娼妓の稼業に關する事項、營業用建物の構造設備に關する事項等を規定せしか施行後は一般に良好の効果を收めつゝあり、然れとも朝鮮人料理屋、飲食の構造設備に關しては未だ嚴格なる取締を加ふるの困難なる事情あるを以て土地の狀況に依り該規定事項を斟酌し地方の實情に適用せしむることに勗めつゝあり、又市街地外の飲食店營業者に對し點燈及厠其の他不潔の場所に撒布すべき防臭劑備付の規定あるも該規定は聊嚴格に失し實行困難なる嫌あるのみならず、今日の實狀に適せざるものあるを以て之が改正を爲さむと目下調査中。

大正十三年中同盟罷業調

道別	件數	參加人員				罷業原因			結果		
		內地人	朝鮮人	支那人	計	日數	賃銀問題	待遇問題	其の他	成功	不成功	妥協
京畿道	二	三〇	一、三九八	四九六	一、九二四	七九	一四	三	四	六	九	六
忠清北道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
忠清南道	二	—	三九	—	三九	八	一	—	一	—	—	二
全羅北道	六	—	二、九八〇	—	二、九八〇	二七	五	五	一	二	四	一
全羅南道	一	—	一一五	—	一一五	一三	一	一	一	一	一	一
慶尙北道	四	—	三八九	—	三八九	一〇	三	一	一	一	一	一
慶尙南道	三	—	三〇三	—	三〇三	一八	三	三	一	一	一	一
黃海道	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平安南道	一	—	一五〇	—	一五〇	一〇	一	一	—	一	—	—
平安北道	一	—	四六	—	四六	三	一	一	—	一	—	—
江原道	二	—	一四〇	—	一四〇	一〇	二	二	—	二	—	—
咸鏡南道	二	—	五八〇	—	五八〇	三	一	一	一	一	一	一
咸鏡北道	二	—	一一	七五	八六	九	二	一	六	一	一	一
合計	四五	三〇	六、一五〇	五七一	六、七五一	一七三	三四	一四	一六	一三	一八	一四

同盟罷業業別調

業別	件數	人員
紡績製絲職工	一	二五〇
豆腐賣子	一	一〇
精米女工	六	三、四〇五
雜工場職工	五	一六一